北清事情大全 上

軍醫正新井拓之助君
軍醫正三宅訒君
軍醫河野修君
軍醫總監石黒忠惠閣下序
軍醫監小池正直閣下序
軍醫正前田政次郎君編纂
外四十餘氏調査

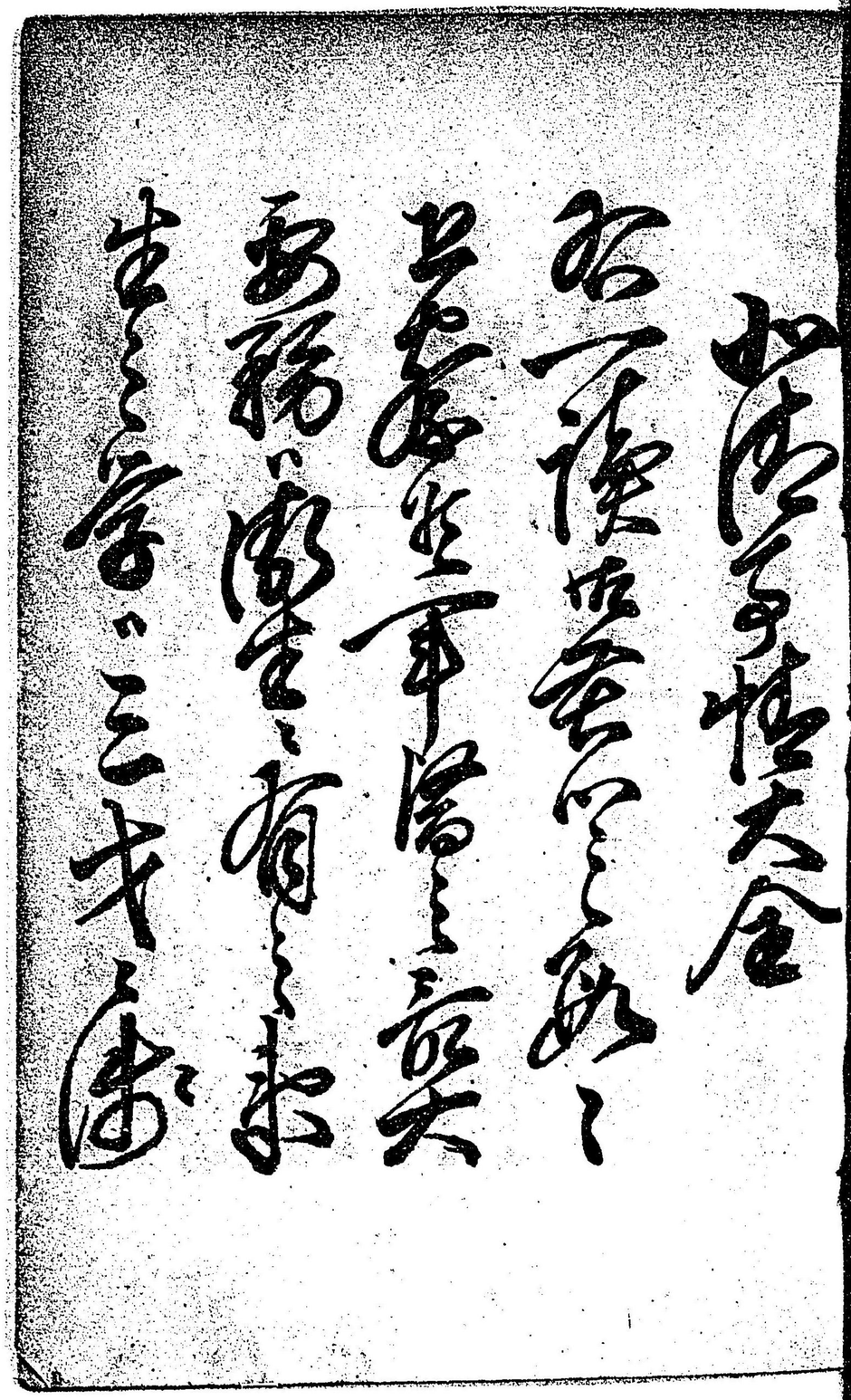
川流堂刊行

傳

書畫

以明防前
智慮後

清役戎弟五師雲貴別屯之雲南人數者
五萬於少東之間中西奏偉功亦多駐
戍年余之間軍蘭部長前回軍蘭之役
主都僚多方科審究明情形傳之中報
法瀚的詳悉之有月前之煩擾之要文
四數卷以上釋其寓部言遂中之遂
明治三十四年有余
後年廣條是書寄石里本直



り先ハ其ものゝ情ハ
ゝ必安のゝゝ
大屋出ハ後ゝ好
考ゝ面ハ其ト言入
小言論ハ
力ハ
ハセノゝ
日ハ
ゝ猶
ハ如

力ヲ集メテ大城ヲモ
拔一屋ニテモト存ケ
器ニ諸ヲ費ヤ以ス
法ニ等ヲ拔シ
何ヲ以ケ事ヲ
ニシテ強ク法
ニ出ンコト
ヲ者ハ罪ニ
昭三年五月

北清事情大全

緒言

明治三十三年五月、清國山東直隸の二省に於て義和團と稱する匪徒蜂起し、漫りに外人を排し外教を斥け、往々狂暴を敢てすと雖も當時保守固陋の徒の權力盛なる清國政府は之か鎮撫を計るに意なく却て動もすれば暗に之を幫助せんとするの輩あり、爲めに益々其勢を逞ふして或は鐵道を毀ち、電信を切斷し、耶蘇教會堂及教民の居宅を燒き、有らゆる暴亂を恣にし、遂に進んでは在北京の居留地及び外國公使館等を包圍攻擊するに及び、獨國公使及び我が杉山書記生を初め、彼等の兇手に斃れたるもの少からず、其禍實に測るべからざるものあり、茲に於て列國公使は各其本國政府に急報して援助を請ふに至り、急を聞きて太沽に碇泊せる日英米獨露佛の軍艦は、其

水兵を上陸せしめ直ちに北京に進めしめて其救護を努めたりと雖も、衆寡固より敵し難く其目的を達するを得ざりき、斯くて同年六月十日列國は更に二千の兵士を英將シーモアの指揮の許に派遣せしも、既徒已に鐵道を毀ちたる爲め容易に帝都に入る能はず、既にして天津居留地も亦敵の攻撃を受くるに至れり、事局愈よ切迫せるを以て、各國政府は公使及臣民を救護するの焦眉の急なるを認め、列國協同して亂民を撃退剿討することゝはなりぬ、茲に於てか六月十六日我國は第五師團の一部に歩兵第十二聯隊の一個大隊を加へ、清國派遣隊を編成して福島少將の指揮の下に出發し、次で六月二十六日第五師團に動員の大命下りて陸續渡清し、八月初旬已に其主力は天津に集中せり、是より先き天津居留地紫竹林は日々砲撃を受け連日戰を交ゆるの有様なりしかは、列國軍協議して七月十三日遂に天津城を攻撃するに一決したり固より列國連合の攻撃なりしかど、日本軍專ら其衝に當り、

殆んど獨力以て之を攻陷し、大に我軍の武勇を示し列國をして驚嘆措く能はざらしむるを得たり、天津城陷落して我有に歸し、漸く安寧なるを得、敵即ち北倉に退却し爰に新來の大兵を集め、白河右岸にては唐家灣火藥局漢家樹に通ずる提防等白河左岸にては北倉の南方に設けたる氾濫に據て防備を嚴にし容易に進み攻むるこゝ能はさらしむ、列國將官は各國軍の參集を待て攻撃すべしと主張せしかど、山口師團長は事急を要す一日たりとも速に北京に至り公使以下を救護すべき命を帶ぶ、故に一日も早く北倉の敵を攻撃すべしと主張し列國の贊成を得て遂に各國軍進撃の部署を定め、八月四日夜半より集合をなし、習五日拂曉より攻撃を始め、敵兵を撃退して北倉を占領す、此戰鬪にて我兵の負傷二百三十七名、戰死四十名の多きに及ぶ、以て其戰の如何に猛烈なりしを推知するに足る、同日北倉に露營し、翌六日楊村の敵を驅逐して之を占領して舍營し、再び滯陣の爲め列國將官會議を開き

けるに鼎圭福島少將は山口師團長の意圖に基き急進説を主張し議論百出容易に決せざりしが遂に日露英米の四國は日本軍を先頭とし敵を追擊して急進し通州に到ちんことを決議し、翌八日より前進を始む、途中多少の抵抗ありしもかど、前衛之を擊破し、所謂破竹の勢を以て進み、師團は南蔡村、河西務、馬頭、張家灣を經て、八月十二日の拂曉通州城を占領し、米倉を押收して糧食を整へ、翌十三日一枝隊を先發せしめ北京城の偵察を行はしめ主力は滯陣して兵力を養ふ、列國指揮官の會議に依れば十四日北京附近に進みて露營し、十五日拂曉を以て總攻擊の計畫ありしも、他國軍の方面に於て戰鬪既に開始せられ止むを得ず十四日攻擊をなすに至れり、終日城壁に肉薄して突入を試みたるも城壁堅牢にして破るべからず、是に於て晝間は專ら盛なる砲擊を行ひ終に夜陰に乘じ爆裂藥を以て朝陽及び東直の二城門を破壞し突喊侵入して城壁の敵兵を擊攘し、或は刺し或は擊ち、約五百名を斃す、然れども敵の大部は市街に退却せるを以て終に市街の戰に變じ、彼我の陣地錯雜せし爲め十五、十六、十七の三日間は城内各所に於て交戰し、十八日に至りて殆んど城内の敵兵を擊退するを得たり、此戰鬪にて我兵の負傷二百三十五名、戰死四十五名を出せり、是より先き十四日の夜城門を破るや直ちに兵若干を公使館に派し、十五日山口師團長自ら幕僚を率ひて公使館に到り、西公使以下日本臣民を救護し、茲に今回の大命を全ふするを得たり眞に千古壯烈の快事に非らずや

然れども清國政府は既に内に紊亂し、皇帝難を西安府に避けて一の統御者なく、北清の地宛然無政府の姿となりぬ、茲に於て列國は各占領區域を定めて民政を布き、軍隊を駐めて秩序を正し、而して遂に清國政府と談判を開始するに至れり、故を以て帝國軍は約を其半數凱旋し一半は守備として駐屯露營せしめらる、露營間は白河及太沽の海岸結氷して交通の便を絶ち、

隨て患者を還送するの困難一方ならず、若し之を悉く北清に駐めて收療するとせば數千の患者群集するに至らん、是を以て衛生部員は凱旋隊附屬員を除くの外悉く冬營せしめらるゝことゝなれり

斯の如く師團半部の兵員に對し、一個師團に充つべき衛生部員備へらるゝのみならず、更に赤十字社救護員の派遣せらるゝあり、衛生部員は頗る潤澤に配置せられ、且つ冬期に至り我が兵は一般健康にして患者著しく減少し、其健康度は列國に冠たり、在北京冬營間に於ける列國兵員千人に付き一日平均入院患者の比例に據れば日軍〇、二九獨軍一、五二米軍一、六三英軍二、〇四とす我軍の斯の如く健康なるを得たるは畢竟保護衛生の法其宜しきを得たるに因らずんばあらず、斯く衛生部員の豐かに備はると同時に患者少數なりしかは、玆に多少の閑を得之を利用して軍醫を二分し、一は列國軍衛生の事項を調査し、他は清國の事情を調査することゝなせり、是れ卽ち「北清事

情」の著ある所以なり、固より公務の餘暇に調査せるものなれば或は精細を缺くの遺憾もあり、又多少の誤謬なきを保せずと雖も由來清國と我邦とは唇齒輔車の關係を有し將來彼我の交通益々頻繁となるべければ清國の事情を知悉すること蓋し無益の業にあらざるを信ずされば之を篋底に收藏し空しく蠹魚の資に供せんよりは寧ろ汎く江湖諸君の清讀を要請せんと欲し卽ち剞劂に附し世に公にすることゝせり讀者幸に之を諒とせられんことを

明治三十五年三月

陸軍一等軍醫正　前田政四郎　識

明治三十三年北清事變ニ際シ余乏シキヲ第五師團兵站軍醫部長ノ職ニ承ケ北清ニ駐ルコト殆ント一年有餘其匪亂鎮定ニ歸シ我軍冬營守備ノ任ニ就クヤ偶々在北京第五師團野戰軍醫部長ヨリ余カ部下ニ在ル衛生部員ニ北清事情ノ調査ヲ委セラル余當時以謂ク通州天津太沽山海關等兵站區域甚タ廣キニ拘ラズ列國ト競爭場裏ニアリテ既ニ業ニ衛生機關ノ整備ヲ了リ職務上ノ視察調査モ殆ト遺漏ナキヲ告ゲ此時ニ當リ尚進ンテ滿漢人ノ混住セル地區ノ人情風俗習慣等ヲ調査スルハ亦一興ナラント由テ直ニ之ヲ各地駐留ノ衛生部同僚ニ移牒スルヤ卽チ同僚ノ精勵能ク異聞ヲ蒐シ其結果未ダ世ニ紹介セラレザル事情尠カラザルヲ發見セリ然トモ元ト是レ公務ノ餘暇ヲ利用シ且ツ言語不通ノ間ニ調査セルモノナルヲ以テ或ハ隔靴搔痒ノ憾ナキヲ保シ難シ其遺漏誤謬ノ責ハ余ノ甘受スル所ナリ蓋シ洋ノ東西ヲ問ハズ土民ノ俗尙ヲ察シ形勢ヲ審ニスルトキハ百般ノ事業ニ手ヲ下スコト易ク隨テ偉功ヲ

[illegible]ヲ[illegible]迅速[illegible]ベシ若シ然[illegible]ン[illegible]人ニ壯圖アリ國ニ好機[illegible]ル[illegible]
[illegible]豈其門ニ入ルヲ躊躇セサルヲ得ンヤ[illegible]諸[illegible]シ參考ニ一助
[illegible]サ[illegible]吾人ノ幸榮眞ニ之ニ過キスト云爾

明治三十五年四月中旬

陸軍三等軍醫正　新井松之助

[illegible]
第十九世紀の末葉より今世紀に至りて世界の形勢は頗に一大變遷を來し昔
や活動の舞臺は著しく擴張せられ事業も經營も一局部に止まらずして廣く
全局に渉るに至る玆に於てか歐米の勢力は直ちに東亞に及び又東亞の權力
は以て歐米の天地を動かすものあるにあらずや是れ世界の進歩に伴ふ必然
の結果にしてまた怪むに足らざる所なり故に其の國家を鞏固にし他國をし
て苟も覬覦するを得さらしめんと欲せば先づ國家自營の道を講せざる可ち
からず論を俟たず然れども亦更に進んで其國外に及ぼす勢力をもて他の爲
めに毫も侵害せらるる所なきを要す見ずや廿七八年の戰役は東洋の一革變
に止らずして遙かに世界の大勢に容易ならざる影響を及ぼしたるにあらず
やまた見よ近くは北清の事變を列國は勢力の平衡を保たんが爲め平和てふ
美名の下に天下の形勢を動搖せしめたるにあらずや嘗來東洋に渉ける列國

の措置一として其の勢力を伸張し他國の侵掠を敢てせしめざる畫策に出でざるはなしげに輓近東洋に於ける一大問題は彼の老大帝國を以て稱せらるゝ清國なり而して過般兩度の戰役は端なくも其の彪大なる沃野を天下に紹介し各國競ふて玆に驥足を伸ばさんとす今日に於て清國兵強からず國家經營の基礎未だ鞏固ならずと雖も異日若し此の大帝國にして猛獅眠むり醒むるが如く吼然として一方に奮起し我國と兩々相提携して東洋に於ける一大覇權を掌握することなしと云ふ可らず然らば則ち今日に於て清國の眞情を知る又我國民の一日も苟にす可らざる緊要事ならずや清國は我國と歴史上よりするも地勢上よりするも斯の如き密接の關係を有す斯るが故に政治家として實業家として或は學者として深く之を研究するは今日の急務に屬す頃者清國の國情を論じ其社會の情態を叙したる書册の上梓せらるゝもの日に多を加ふ實に故ある哉曩に明治三十三四年北清の役我が第五師團前田軍

醫部長從軍の衛生部員をして公務の餘暇清國の今の狀況を調査せしめられ玆に之を編纂して北清事情なるもの成る夫れ徒らに之を筐底のものたらしめず廣く世に公にせられたるは以て國民に資せんと欲するの志に外ならざるべし書中衛生の事項は固より清國の事情は制度教育典禮風土人情氣候等に至るまで細大漏らさず之を叙述し一讀清國百般の事情を詳かにするを得世人を裨益する蓋し尠少ならざる可きを疑はす余亦第五師團衛生部員として軍に從ひたるの故を以て本書上梓に臨み一言を徴せらる卽ち聊か玆に平素の所思を述ふと云爾

明治三十五年四月上旬

柴岡文太郎誌

明治三十三年北清事變に於ける野戰第五師團軍醫部長たりし陸軍一等軍醫正前田政四郎氏は北清冬營中該地に駐屯せる部下の軍醫諸氏に北清地方の風土人情教育軍備等諸多の事項を調査せしめ凱旋後其編纂を余に命せらるるや不肖固より淺識不文敢て其任にあらずと雖も偶々北清事變に際會し歩兵第十一聯隊第三大隊附として天津北倉通州北京等各地の戰鬪に參與するの光榮を得而して北清に駐まること僅に三閲月餘にして歸朝せり然るに我同僚諸氏は永く北清に在て種々の艱苦缺乏に耐え其地方の事情を審査せられ其書類積で一大冊をなすに至れり是れ卽ち諸氏の勞を多大なりとし吾人の深く感激に堪へざる所なり故に余は參考其命を固辭するの却て本意に背くものあるを以て不肖を顧みず此書の編纂に從事し以て聊か同僚諸氏の功勞に對し其萬一に酬ゆることゝせり然りと雖も余元微力にして且つ考索訂正の遑なかりし由り蕪中誤謬多し爲に社會諸氏の功績を蹈襲するの虞あ

り即ち茲に無言を敘せと雖も切に其事を謝する所以なり希くは幸に之れを諒察せられん願ふ

○明治三十五年三月　陸軍一等軍醫　河野修一謹白

本書の調査に從事せし軍醫藥劑官並に雇員赤十字社救護醫員の氏名及び其擔任せし事項を左に掲載して以て深く其勞を謝す

一地理氣象交通具被服飲食の部

三宅訒、村上彌穗若、杉本喜一、藤田雄三郎、中川鐵次郎、角準造、水野悅造、中村亨、飛見丈俊、兒玉辰助、久保湖一郎、松尾悅太、小篠篤三郎諸氏

一家屋家具儀式物産疾病治療醫師衛生の部

柏村保、森田郁藏、三宅訒、村上彌穗若、北川潔、角準造、安井洋、水野悅造、中神太次郎、吉田驪一郎、仁專勉造、佐脇松雄諸氏

一教育風俗習慣家畜果物商賈生活ノ程度貨政軍備の部

富田茂、松田俊夫、柏村保、森田郁藏、佐伯隆賚、須藤五百藏、永野耕夫、平野權三郎、中川鐵次郎、山本喜重郎、安井洋、仁專勉造、吉田驪一郎、佐脇松尾、三宅謙齊、三宅訒、角準造、久保湖一郎諸氏

一人種體格樂器宗教官民間の關係の部

熊澤淳治、山本喜重郎、後藤英三郎、三宅訓、角準造、村上彌穗若、藤田雄三郎、安井洋、佐藤松雄諸氏

北清事情大全

上卷目次

第一章　地理……一丁

○地質○道路○山川○位置○街衢○街壓○水質○草木繁殖の度及び其種類

第二章　氣象……二十四丁

○氣溫○風向○風力○降雨○晴曇○結氷

第三章　交通具……三十四丁

○車馬○橋○轎輿○船舶○鐵道○交通の現況

第四章　被服……五十五丁

○男子服○女子服○小兒服○帽の種類

第五章　飲食物……七十一丁

○食物の種類及び品目○食品貯藏法○食饌の種類及び調理法
○嗜好品○菓子

第六章　家屋……九十五丁
○家屋の配置○地礎○柱○屋蓋○壁○天井○床○門○門扉○
門と主房との關係○屋内各部の狀況○墻壁○庖厨○浴室○竈
室法○換氣○照光○厠圊○方位○官衙○學校○病院○兵營○
監獄○劇場○寺院

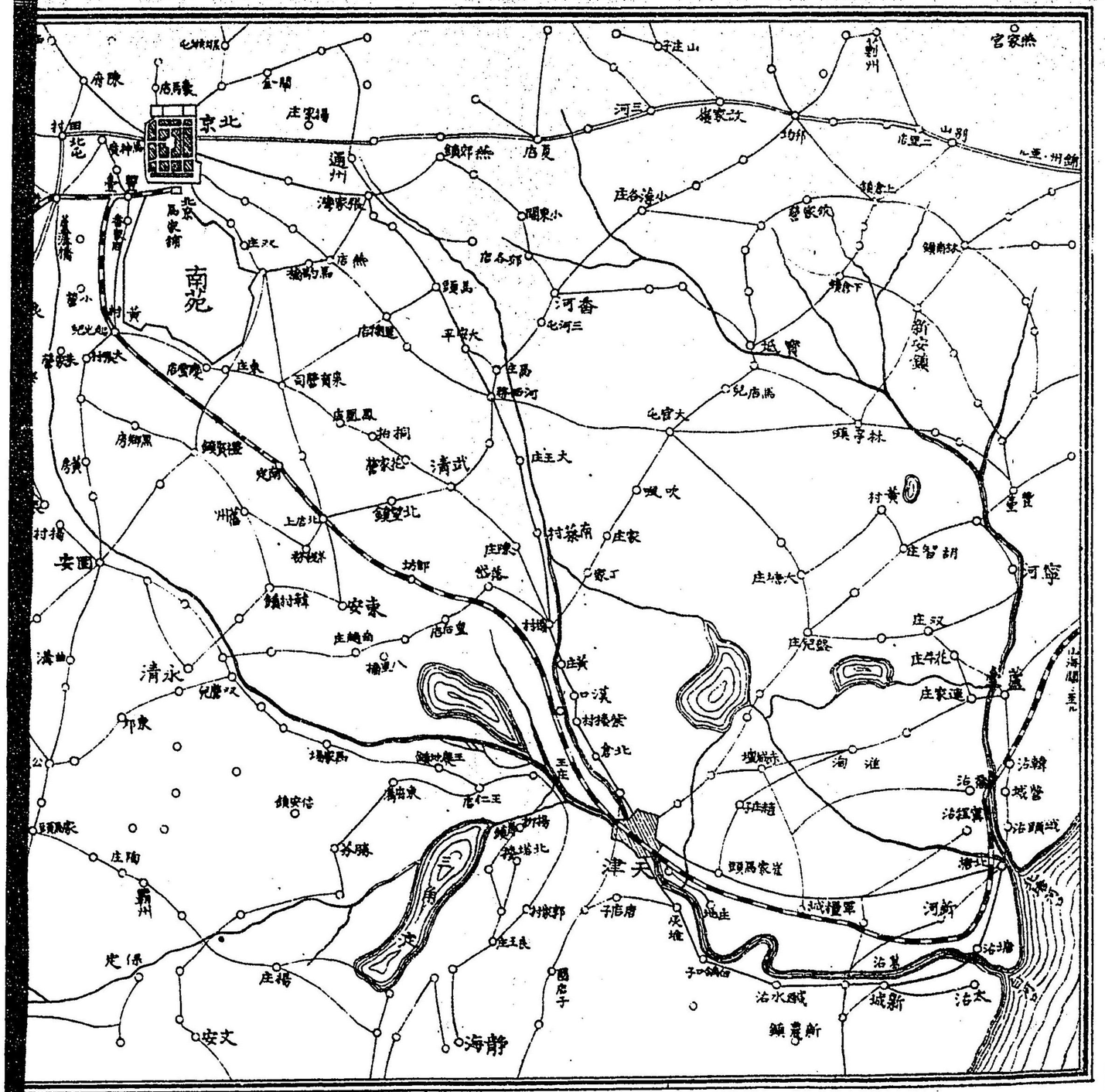
第七章　家具……百三十一丁
○室内裝飾品の種類○日用具の種類○玩弄具の種類

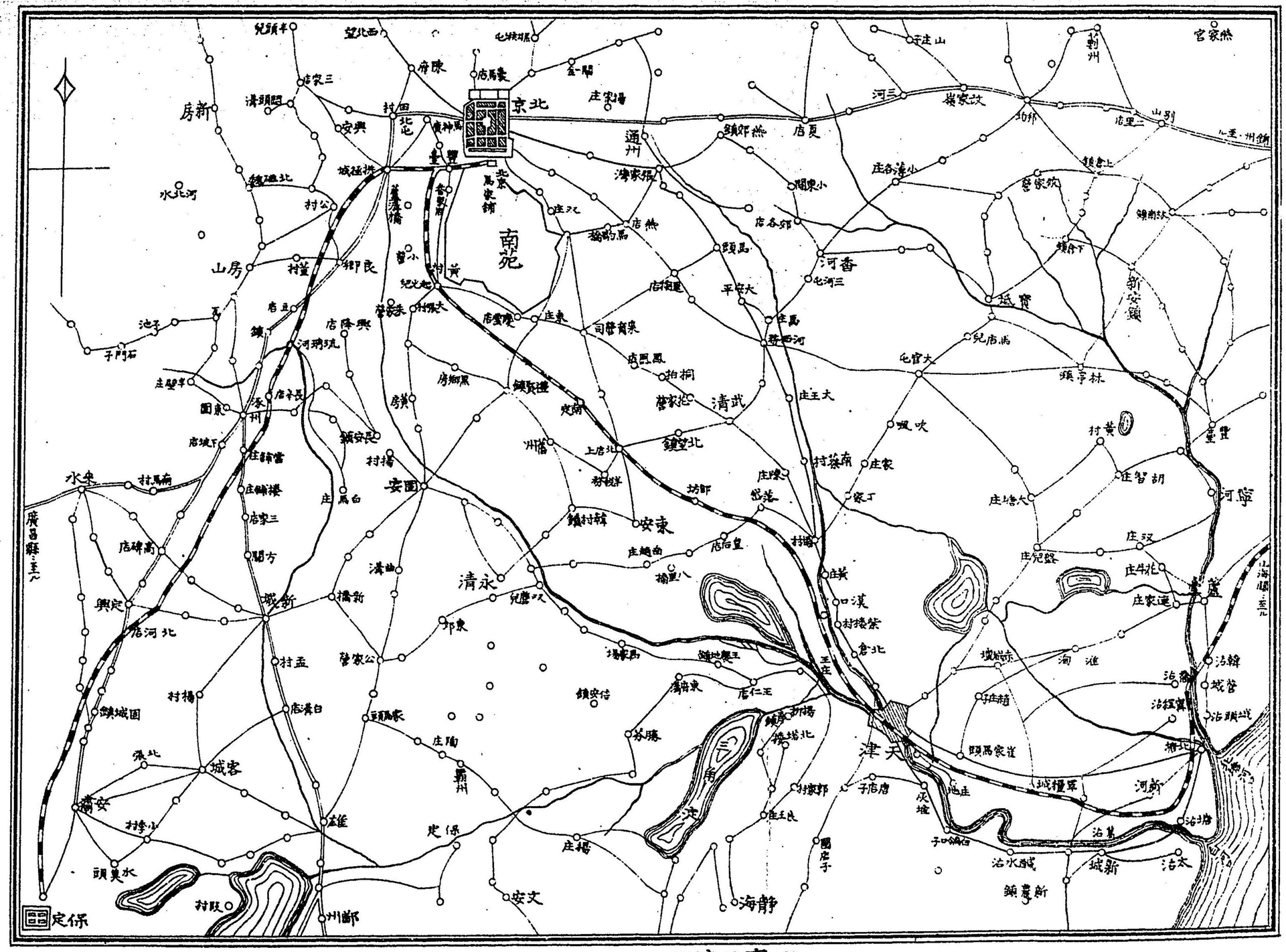
第八章　儀式……百五十一丁
○文官相互の禮式○屬官が長官に見ゆる時の禮○武官相互の
禮式○武官相互に於ける通禮○文武官相見ゆるの禮式○滿漢
官吏相互の禮式○師弟相見ゆるの禮式○賓友相見ゆるの禮式

上卷目次終

○卑幼尊長に見ゆるの禮式○平民間の禮式○貴人下賤に對す
る禮○賤者貴人に對する禮○親族間の禮○途上の禮○同僚間
の禮○親子間の禮○兄弟間の禮○初會の禮○朋友間の禮○物
品受授の禮○客の待遇法○宴會の種類

第九章　物産……百七十一丁
○骨粉○雜穀○茶○食鹽○生絲○毛皮類○蔬菜○水產物(乾物)


北京
南苑
通州
河西
河香
新安鎮
清武
安東
安國
清永
天津
靜海
寧河
蘆臺
新城
河新
沽塘
沽太
沽賴
沽韓
沽頭
沽水
沽黃
沽江
沽頭
沽
城營
城
新城
鎮
新
城
軍
城
擔
北
子
口
鎮
西
子
庄
精
子
庄
唐
子
庄
王
民
村
郭
國
庄
子
村
楊
庄
楊
安
文
定
保
霸
州
庄
陶
家
馬
庄
勝
村
楊
塔
北
鎮
村
楊
庄
仁
王
庄
東
庄
馬
庄
東
庄
馬
庄
東
庄
馬

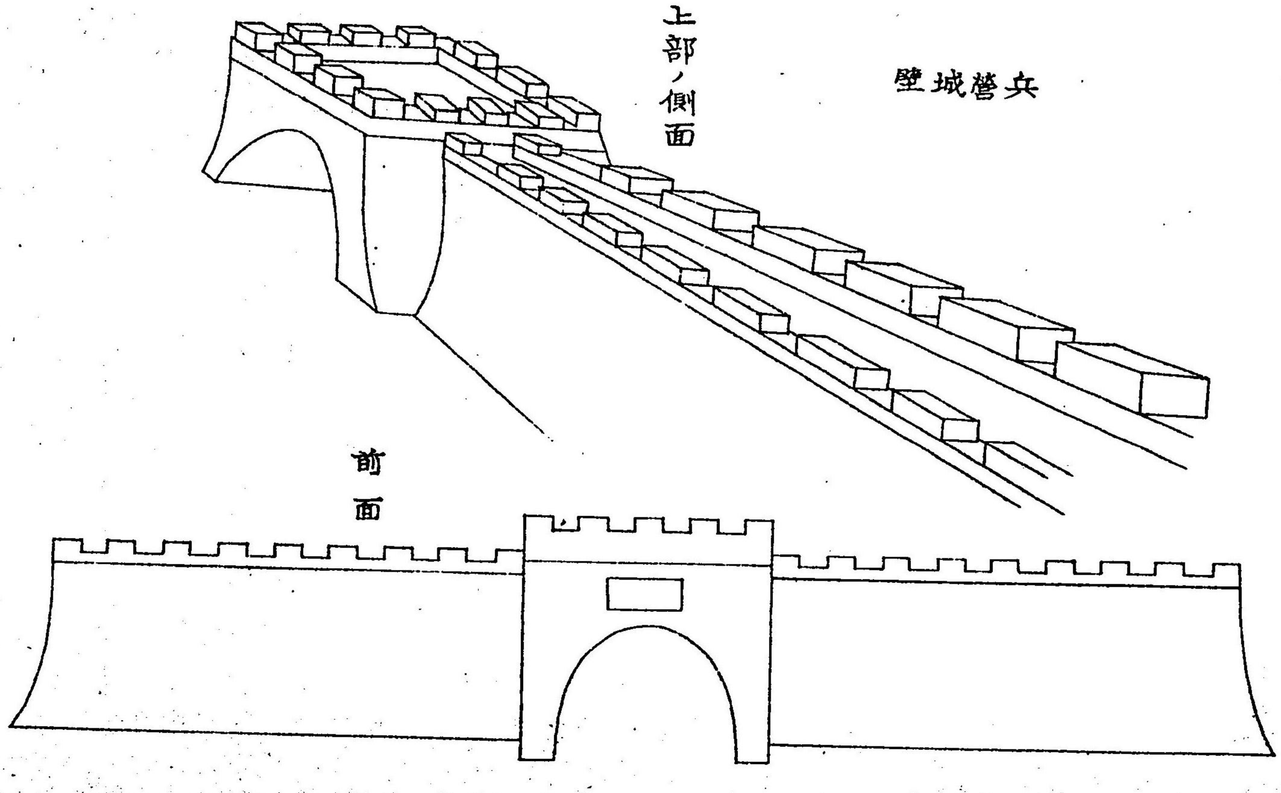


北京天津附近之圖

兵營城壁

上部ノ側面

前面



第一章　地理

大沽

雨量甚だ少く夏期雨期に入るも土砂の飛散する憂なしと雖も降雨の際は泥濘膝を沒するに至る

此地水質不良たとひ井を穿つも白河の潮流浸入し苦りて其効を奏せず稍く白河の潮水を濾過し以て用に供す而かも飲料に適せざるのみならず洗濯にも亦適せざるに清國人は此河水を掬して生活せると云ふに至りては實に一驚を喫せざるを得ず此地方には白河の流の外山川の見るべきものなく草木亦甚だ少なく僅かに海岸に於て之を見るのみ

太沽より塘沽に達する道路は平坦にして且つ道幅廣く交通最も便なり

山海關

山海關は直隸灣の沿岸にして東經百二十度北緯四十度に位し清國內地より滿州に通ずる通路の要關なり

臨榆縣管內は東西七十里南北二百三十里(清里)撫寧縣の東に隣し其北方は山を擁し南は海に臨み地勢北方より南方に向て緩傾斜を爲し山海の交會する所隘塞の嚴關にして山海關の名に負かず古來支那史乘最も著明の地にて歷代の據て以て邊鎭となせし所實に軍略上得易から[illegible]の要塞なり

榆關城は明の神山王徐達の創建にして高さ四丈一尺厚さ二丈周圍八百三十七步四尺外面は四角の煉瓦を疊み內部は煉土を以て充塞せり其形六角にして四個の外門を有す東を鎭東西を迎恩南を望洋北を威遠と稱す共に重鍵水門を設け城の東南西南西北の三隅に在りて城中の積水を洩すに便にす東西南北門上共に各二層の樓閣を設けたり

東樓門高さ三丈上層廣さ五丈下層六丈其中牢に一額あり「天下第一關」と書す明の

蕭牘の書する所なり西門樓其制東門樓に同じく乾隆九年御書賜額あり「洋鷗搏桑」と題す南門樓も東西門と同制なり北門樓は古へ存したりしも今や全く廢れたり是れ火災多きに因ると云ふ奎光樓は城の東南隅にあり成遠堂は城の東北隅に在りしが現今之を見ず其他臨閱樓新樓等既に廢れて其址跡を認むる能はず鐘鼓樓は城の中央に在り高さ二丈七尺方五丈にして中央に弓狀の四孔を穿ち東西南北各門に通ず上に文昌殿及左右の鐘鼓を建つ古書城を環らす外濠あり深さ二丈五尺廣さ五丈周圍千六百二十丈四時潴水漫々たり四門各橋を設けて往來せりと云ふ現今其跡を存せず

前角山は城北を距る六里にあり山脈は邊外灤河の北より起りて東建昌の南方に達する橫嶺なり其山頂は平坦にして數百人を坐せしむべく上に一寺あり樓賢寺と名づく古書長松蔚蔚なりしが嘉慶年間伐採し盡して未だ舊に復せず山の北麓より建昌平原の諸方を望むべし

後角山は前角山を距る北十五里にして高さ前角山に等しく前後相對す故に此名あり石河其右を繞りて出で夏日水漲る時は山路を杜絕して人の往來を妨ぐ

狼窩山は角山の抽脈にして城を距る北方十里半餘首山は城の西北十里餘狼窩山の抽脈起峰巒々角山の右嶂畫くる所故に名づく山上に二郎廟在り廟東亭を建づ名づけて樂壽と曰ふ北に一亭あり曰く河琴石河其下を繞りて水光山色共に明媚縣内の一勝地と稱す

石河は城西にありて二源を有す其東源は東口外馬尾嶺より出で桄老山下より轉折二十里にして山神廟に至り馬頭嶺下の諸水を合し放流して青龍山を繞り蒼虎山口を出で西源の流と會合す其西源は西口外中杭嶺會梯子嶺下の諸水より出で一大河となり遂に潮河となる

潮河は孤山下海溯の出る所卽ち石河の下流とす

南水關河は源を關外東北諸山より發し南水關に由て長城を穿つ縱流綫の如く降雨の時は忽ち洶々として城を嚙み扉を決し患害を爲す下流潮河に入る

北水關河は關外より出で北水關に由て長城を穿入し西關を經て石河に入る

長城は運河と共に天下の二大偉業なりと支那人の誇稱せるもの支那人が「天下第一關」と稱する北清の鎖鑰たる山海關を起點とし西嘉峪關に達し全長五千餘里の

闊高さ二十五尺厚さ約十四五尺直立五六十丈の山頂に達しては又下りて深谷に亘る實に一大偉觀たり

外面は皆四角の煉瓦を疊み內部は煉土を以て充塞し上は凸凹形の胸壁あり壁中弓形の穴道を設く凡そ百間每に堡塞を備へ要害地は塞壁を二重或は三重に築造せり二千有餘年の遺物今猶ほ依然として舊態を存し異邦人をして坐ろに支那古代の文化を追懷せしむ今其沿革に就て臨榆縣誌を按ずるに

長城始於燕歷代築之非一史記燕築長城自造陽至襄平置上谷漁陽右北平遼西遼東都以拒胡秦始皇使蒙恬築長城起臨洮至遼東萬餘里正義引括地志長城起岷山西十二里東入遼水齊顯租天保六年發民一百八十萬築長城自幽州夏口至恒州九百餘里七年自西河總秦戍築長城東至於海後至天統元年自庫摧戍東距於海隨山屈曲二千餘里斬山築城置立戍邏五十餘所周宣帝大象元年發山東諸民修築長城立帝陟西自歷門東至碣石隨文帝開皇六年三月發丁男十一萬修築長城七年二月發丁男十餘萬修築長城之見於史者如此古人言長城自秦時築考之晉大康地理志長城起樂浪之碣石山魏書長孫陳傳爲羽林郎征和龍城賊自西門出將追外圍隊擊

退之迫亜長城下是長城在龍城之外面通典六言蘇州北亜塞長城塞二百三十五里

然則今山海之長城乃徐魏公所築之城非古之長城也書

地質は赤白砂土にして寫透性に富み土砂乾燥にして海岸に近き所は細砂を混ずる事多し水質佳良無色透明にして臭味なく到る處井水の設けあり然れども清國人は清潔法に注意せざるを以て不潔物井中に混じ溷濁し易し當地に於ける井水の分析は左の如し

清濁	臭	有機質	硝酸	亞硝酸	安母尼亞	格魯兒	石灰	硫酸
微濁	無	少量	無	無	僅微	僅微	無

又樹木に富み路傍到る處草木密生して殊に松柳多し稀に梅竹等を認むることあり盆栽としては南天茨黄梅菊等あり

道路は凹凸甚たしく平原の地も亦歩行の際足部土砂中に埋沒する所多く車馬にて往來するときは殊に動搖甚たし清國人は公共事業に冷淡なるを以て多年修繕せし形跡を認むる能はざるなり

天津

天津は古昔黄河海に入るの口にして遠く夏朝に遡れば冀州に屬し九河の下流にして地斥鹵なりしなり(尚書に從ふ)明朝に至り小直沽に天津三衛を置きし以來國廣吳楚齊梁の民茲に移住せしなり降りて永樂二年に至り城を築き三年天津衛及左衛を四年右衛を城内に移したる後遂に天津衛城と稱す蓋し天津は古の關名にして明朝の茲に衛を置きたるは天津關を防守せんが爲めなりき故に天津の名は城を築き衛を置きしより唱へ來るものにして俗に天津の名は星名に基くと爲すものありと雖も素より謬妄に出づ左に周朝以來の沿革を列示す

周　燕趙の地にして青北の境に跨る

秦　上谷郡に屬す

漢　漁陽渤海二郡に屬す卽ち泉州の南章武の北なり

後漢　同上

晉　齊州に屬し泉州章武三縣に分屬す

後魏　幽州に屬し雍奴縣（今西淀の東南武の北滄州の東北なり

隋　魯城渤海の間長蘆縣の東北

唐　武清乾符に跨り長蘆縣の東北章武を改めて乾符となし泉州を改めて武清となす天津は此二縣の間にあり

宋　武清縣清地縣に分屬す

金　武清縣清地縣滄州縣に分屬す

元　武清縣海津鎮滄州清海に分屬す海津鎮は今の天津にありしなり

明　天津衛武清滄州靜海三縣の分治に屬す海津を改めて衛を置きたるものならん

清　雍正三年天津州を置く卽ち武清靜海滄州等百五十六村を州治に入る同九年改めて天津府とし更に天津縣を置きしなり

同治年間通商和約成るの後天津の戶口日々に增加し商賈月に盛んにして市街稠密なり現時人口各地より來り住するもの頗る多くして詳かに其實數を調査するを能はざるなり

政治上の位置天津は清國直隸省に於ける一大貿易市場にして總督衙門の在る所なり此地北清一帶水陸交通の衝に當り規模の大なる人烟の稠密なる共に北京の表徵に在り

地理學上の位置天津は南北運河の白河に會合する三叉點にして城は其西南岸にあり北緯三十九度七分東經百十七度十一分に位す白河と鳳河との結合點に於て外人の測りし所に據る）

地形市は繞らすに廣く外郭を以てし府城は殆んど其中央に在り甲は壕（高さ二間四尺基廣六間）にして濠の設けありて乙は煙瓦より築造し方形を成せり此城壁は目下悉く破壞して其跡に道路を設けらるる而して人民の住區は城の內外に跨りて甚だ稠密なり（城壁の周圍は延長我一里十二町に涉る其高さは四間一尺梁の高さ四尺三寸を併す）上廣三間一尺基廣五間三尺あるも年一年に埋沒するを以て高及基廣は之より減ずるところあり）

地勢市街は荒漠たる平原に設置せらる此平原は北京附近の山陸より起り渤海に至る延袤す白河は非常なる迂回を爲して此平原を貫流せり而して市街の北郭は

商運河を通じ東部は白河に跨る其他附近は白河に會流する河川多く所謂諸水潴集の河盂なるを以て地盤は海面(未沽中等の潮位)を抜く事僅かに十米突の高に過ぎず陸路海を距る事僅かに三十五哩に過ぎず然るに白河に由れば七十哩を算す地積未だ詳かならざるも周圍を包む外郭の延長は我五里七町餘にして其内約三分の二は已に住區となれり

街衢其大部分は石を鋪かず故に雨天の候には殆んど泥澤と大差なき泥濘を極むと雖して街路の方向は城の内外とも不規則にして且つ概ね狹隘なり(城内に於ては東西南北四門を連系せる十字街のみは街區正しく路幅亦二間あり)占領後道路の改修に着手し本や白河に沿ふ河岸は十間幅に擴張せられんとす通街に於ては多く軒下に小渠の設けあるも構造不適にして排水の用を爲さず小路に至りては更に溝渠を見ず

街燈天津に於ても北京に見る如く大街のみ洋鐵玻璃燈の設けあり終夜常に照せしも官衙の亂に之を廢せり是れ元と保用局(官商協立)の管理に係るものにして其費的は全く偷盗を防守するに在りしなり居留地に於ては主として瓦斯燈を建つ

甚だ光明にして道路の安全には頗る妙なり

地質外人の記載に據れば天津周圍の地質は曹達窒素を多量に含有するに拘はらず其地味豐饒ならずと土種は含砂粘土にして其色帶黄灰黑色を呈し深層に至るも石礫を混せず

水質此地多くの井を有す水質無色透明にして鹹味を有し一般に浮遊物を認むと雖も異臭を有せず

天津海關道兵站病院第二分院に在る井水の試驗成蹟は左の如し

固形分	有機質	格魯兒	安母尼亞	亞硝酸	硝酸	硫酸	石灰
多量	多量	頗多量	微量	著明	僅微	多量	多量

井水は鹹味多きを以て飲用する能はず唯洗衣造屋食器の洗滌馬の飲料に充つるのみ一般飲料として用ゆるものは白河の水なりとす河水は常時濁を帶びて混濁し其色帶黄赤色を呈するを以て澄清して之を用ゆ(澄清法は給水の條に示す)河水の試驗成蹟を擧れば檢體は弱亞兒加里性微に混濁を呈し浮遊物を含有し味は清

涼にして稍異臭を帯ぶ

固形分　有機質　格魯兒　安母尼亞　亞硝酸　硝酸　硫酸　燐　灰

多量　稍多量　多量　微量　微量　稍多量　稍多量

草木繁殖の度、土性敢て植物の發生に適せざるに非らずと雖も由來清國人は天然の美を愛するの情念に乏しく故に邸宅に多くの樹木を栽ゆる事を好まず然れば天津地方に於ける樹木繁殖の度は極めて微にして森林を爲す處なし地方人の公園とも見做すべき寺廟に於ても絶て樹卉を種ゆるを見ず唯だ河岸郊外に楊柳の點々孤立せるを認むるのみ此地方に繁生せる草木は

柳　左の三種にして河堤營地の間に多し

垂條柳　青頭柳　圯柳　條柔にして叢生す故りて笊を作るもの

楊　白楊は桐の如く　青楊は柳に類す

椿　香臭二種あり　香あるものは芽を採り蔬菜となす

檢　性堅くして器を作るに用ゆ

夾竹桃　葉竹に似て花は桃の如し　多時にも落葉せず　多く盆池に栽ゆ

丁香　海光寺に紫色なるものあり山丁香と名づくるもの

菊

鷄冠

草茉莉　俗秋丁香と云ふ

馬蘭

夢

風仙

蒼耳　卸ち野茄子

蔗蔡

草

莞

艾　端午の節家の門に挿むもの

洪水、此地方河流錯綜淀池多く古來大水の災害甚だ尠からずと雖も今茲に省略し

て清朝以來の洪水史を調査する左の如し

順治十年南運河南岸及白河西岸決潰城垣を陷る事甚だしく人家漂沒算なし

道光二十年連雨三旬突然水至り城内外悉く浸水す同治十年大雨三日平地深さ三尺に至り城内に行くには舟を用ふ

同治十二年河水漲發五大河皆な堤を潰ゆ市民皆な城壁上に水を避け住せり

光緒十六年白河決潰西南二門外に行くに舟に頼る

洪水後に行ふ衛生法は個人の施爲に任し官は唯だ賑恤を行ふのみなりと云ふ而して個人に行ふ方法も又た極めて簡單にして其詳を知るに難し卽ち汚地を乾燥せしむる目的として木屑(富家に行ふ)或は煤灰を用ゆるに止まる

楊村、河西務

此地方の地質は清國固有の輕度質にして乾燥せる時は灰土高く天空に滿ちて天地爲めに晦冥となることあり或は降雨に際すれば泥濘車軸を沒するに至る

此附近山なくして川は白河の流あるのみ白河は直隸の北運河と稱し毎年解氷期

より結氷期に至る迄は船舶の往復軸艫相啣んで絶ゆることなし

楊村の西十二清里河西務の西六清里に鳳河あり以て船を通ずるを得べしと雖も平素船を行るもの實に稀れなりとす又楊村の北十五清里河西務の東北五清里白河の上流窪兒港に白河より分流して東し南折して天津に注ぐ一小流あり引河と稱す蓋し白河氾濫の虞を防ぐ爲なりと云ふ

楊村を距る西南七八清里河西務西南約六十七清里の所に西窪と稱する一低地あり例年鳳河の水溢るゝに至れば漫々として北倉の西南に氾濫す然れども若し鳳河の水少なからんか以て耕すに足ると云ふ

北清の道路は京津間の大道を除くの外殆んど完全のものなし一度横折して村落に入れば麥畑と高粱畑の間細經縱横に通じ人をして岐路の煩なるに迷はしむ然れども比較的迂路の少なくして直行することを得るは我國の如く水田のなきに因るものならんか

所謂大道と稱するものと雖も其設備の不完全なるは寔に言語の外にあり最も驚くべきは村落内の大道は塵捨場及下水溜留場の觀ありて非常に交通を妨害する

ことあり

水質は甚たしく不良にして我國の如く清澄なる水は全く得る能はず白河の水は勿論井水と雖も多少は必らず混濁せざるなし白河水は土人と雖も夏日は全く之を飲まずと云ふ今試驗成蹟を示さん

井水有機質に富み鹽類多く鹽味を含み煮沸すれば灰白色の殘渣を器底に留め一層鹽味を強くし之に慣れざる間は必らず下痢を起すと云ふ

有機質	格魯兒	安母尼亞	亞硝酸	硝酸	硫酸	硫酸	石灰	
稍多量	多量	微量	微量	少量	稍多量	頗多量		

河水

有機質	格魯兒	安母尼亞	亞硝酸	硝酸	硫酸	石灰		
少量	少量	僅微	○	微量	微量	多量		

草木の種類　蘆草、茅草(藥用)、馬連草、馬拌、梭子草、刷子草、車前草(藥用)、老鶴嘴、羊角草、星草、紫花地丁(藥用)、野菊花、萬字草、蒿子、元蓬菜、水白

菜、芭蕉(盆栽としては萬年草蘭牡丹楊の一種蓮等とす)槐、楊、桃、柳、桑、梨、棗、柏、松、柰等とす

此附近は礦物と稱するものなしと云ふ

通州

通州地方の地質は白河の右岸卽ち通州市街のある部は——沖積層にして其左岸は——洪積層より成る共に其土質は細砂にして殆んど粘土に近く岩石は皆無と云ふも不可なからん

山川交通の狀態通州の附近は一帶の平原にして山丘共になく西北門外に出れば牛郎山脈の起伏するを見る其最近距離約四十キロメートル(里)と云ふ

白河は源を北路廳順義縣管內牛郎山より發し通州の北方に來りて左折し馬頭河西務楊村天津を經て渤海灣に注ぐ其幅通州附近に於て約四十乃至百メートル(尺)なり北門外の地より流出する水及北京に通ずる運河の水は一の河をなし白河に合

す之を通水河と稱す其幅東門外に於て約二十〔メートル〕なり此他南門外を流るゝ小川あり水清けれども淺し北京馬頭及其他に通ずる道路は幅員四乃至六〔メートル〕にして多くは凹陷し罕には穹窿せるあり地質細砂なるを以て晴天續かば風の爲めに砂塵を吹き揚げられ雨天に際しては泥濘を極め行路の困難言語に絶す北京に通ずる道路には長サ一一、五〔メートル〕幅約半〔メートル〕厚さ三分二〔メートル〕許の石を敷き詰めたりと雖も破壞の箇處を修繕するなきを以て車輛を通ずるに苦しむ

白河は水路の輸送を爲すに極めて便なるも其深からざる處あるを以て屢々船を坐礁せしむ是れ其水汚濁して水底を觀測し難きが故なり然れども老練なる舟夫は水流の如何に依りて深淺を知り比較的坐礁を免かるゝ事巧なりと云ふべし白河の對岸に渡るには渡船を以てし結氷後は氷上を渉る氷の厚き處を撰みて土砂を敷けば重量の多き車馬と雖も優に渡る事を得北京に通ずる運河及白河の氷結時には橇を以て數人以内の旅客を輸送するを見たり

水質一般不良なり白河の流水を濾過煮沸して使用するを最良と認む井水は外見

上清澄なるものゝ多くは鹽類の多量を含有し往々亞硝酸及安母尼亞を含むものあり或は水量少なく採酌の時間掘に由りて忽ち混濁を來すものあり

通州に於ては南門外王組院園の井水(門内に入りて二個の井水あり西方にあるものを良とす此井を距る僅かに七八〔メートル〕東方に在る井水は稍劣等にして土人も使用せず)次は城内新城の南壁に接せる空地に在る井水次は東米倉内(試驗を經たるものは一個のみなり)に在る井水を可とす

結氷後白河の水は悉くべく清澄となるを以て直に之を煮沸するのみにして飲料に供するを得べし

陸軍二等藥劑官藤田雄三郎君嘗て結氷後に於ける白河の水の清澄となる顯象に就て意見書を差出したる事あり參考の爲め左に錄す

白河水凍結後不潔物減少し混濁消失したる理由に就き實地見聞するに全く左の諸原因に外ならざるを認め得たり

一、河水面氷結と同時に此氷結は周圍一般同一なるを以て河岸より濁水井に不潔物の流入を杜絶す

二、夏時白河を航行するもの常に目撃して濁水の原因とせる兩岸の崩潰結氷の爲めに止む

三、河水の氷結は水源まで達し其注流を杜絶す

四、右等の諸原因に依り流速緩慢となり隨て河底の攪亂する事少なく爲めに自然の靜水沈澱法と不潔物の混雜を防ぎたるものならん

附記　右陳述せる如く水源及周圍總て結氷せるを以て流速全く零ならんと思ひ實見せしに現今に於ても猶ほ緩徐に下方に向て流る土人之を利用して氷下に曳網をなす此多少の流水は全く河底の湧水に原因するならん

此他凍結後船の航行止み舟より不潔物を投棄する事尠なくなりたる故格魯兒昱を減じたりと思考する人あれども之を全然信ずるに苦しむ如何となれば夏時船より投棄する多少の不潔物は能く廣大の白河水をして新く多量の格魯兒を含有せしむるに足るや否やは疑問なるを以てなり

藤田雄三郎君官命により通州駐劄の各部隊に使用せる水質檢査を施行したるの成績表をも左に掲ぐ

水質檢査成績表（甲）

番號	所在	色	臭	味	蒸發殘渣量（一立中瓦）	コロール（同）	亞硝酸	安母尼亞	浮游物
1	通州白河ノ氷ヲ破碎シテ採取シタルモノ	澄	ナシ	ナシ	〇、二二七瓩	一六、〇	ナシ	ナシ	僅少
2	同 清眞寺ノ北側道路ノ北側	澄	ナシ	ナシ	〇、八五二瓩	三七〇、〇	ナシ	ナシ	僅少
3	同 北門ト東門ノ丁字路ヨリ百米東ヲ北エ入	微濁	ナシ	ナシ	〇、二八三瓩	三五〇、〇	ナシ	ナシ	少量
4	同 東門内南エ第一ノ小路ヲ入リ右側	微白石濁	ナシ	ナシ	〇、六二五瓩	三五五、〇	ナシ	ナシ	僅少
5	同 南門外王記醬ノ門内西方ノ分	澄	ナシ	ナシ	〇、三四五瓩	二〇、〇	ナシ	ナシ	僅少
6	同 同上東方ノ分	澄	ナシ	ナシ	〇、三五六瓩	八五、〇	ナシ	ナシ	僅微
7	同 東米倉塞門前	微白石濁	ナシ	ナシ	〇、二七八瓩	二九〇、〇	ナシ	ナシ	僅少
8	同 城隍廟門前	微濁	ナシ	ナシ	一、二三二瓩	二六五、〇	ナシ	ナシ	僅少
9	同 南街焦姓ノ宅内	澄	ナシ	ナシ	〇、三三三瓩	五四五、〇	ナシ	ナシ	僅少
10	同 南門内南街ニ入ル角ノ空地	澄	ナシ	ナシ	一、一一一瓩	一〇四五、〇	痕跡	ナシ	僅多量ニ沈澱ス
11	同 南門内東側路傍人家ノ間	澄	ナシ	ナシ	〇、四四四瓩	五〇五、〇	著明	ナシ	僅微

(乙)

番號	所在	採水月日	氣柱(米)	水柱(米)	水面ノ直徑(米)	氣溫	水溫	遊標	周圍ノ關係
1	通州	三月三日	—	〇、九六	—	八、〇	一、〇	凍氷(厚サ〇、三米)ニ徑〇、六米ノ孔ヲ穿ツ 煙瓦ニテ疊ミ石壹ニ小孔四個ヲ穿ツ	江ニ寸六米アリ、附近ニ碇泊船アリ
2	同	同日	九、五	二、五	一、〇	五、〇	一三、〇		清潔
3	同	同日	七、一	三、二	一、八	五、〇	一二、〇	同上 水壹ニ四個ノ小孔ヲ穿ツ	火災ノ跡 排水ノ不良
4	同	同日	四、九	二、四	〇、八	八、〇	一三、〇	同上 壹ナシ	八米ヲ距テ、汚穢水アリ排水モ之ニ入ル
5	同	三月五日	五、八	四、〇	一、七	九、〇	一二、〇	同上 木壹ニ小孔四個	約百米ヲ距テ、細川アリ周圍清潔
6	同	同日	六、四	三、六	一、七	九、〇	六、〇	同上 同上小孔三個	同前
7	同	三月六日	八、一	〇、九五	一、五	五、〇	一〇、五	煙瓦ニテ疊ミ木壹ニ小孔三個	清潔
8	同	同日	七、四	一、九五	〇、七	九、〇	一三、五	同上 上部狹少、口徑〇、四米	排水不良 周圍不潔
9	同	同日	六、七五	〇、五五	〇、九	六、〇	一一、〇	同上 壹ナシ	周圍清潔
10	同	同日	七、二五	〇、六	〇、八三	七、〇	一一、〇	同上 同上	周圍不潔 排水清ナシ
11	同	同日	七、六	三、七	〇、八	九、五	一一、〇	同上 同上	周圍不潔 排水不良
12	同	三月七日	五、三	二、六	二、〇	六、〇	八、〇	同上 石壹ニ二個ノ小孔	周圍清潔
13	同	同日	七、二	二、五五	〇、八	七、五	一三、〇	同上 同上孔一	同前
14	同	同日	五、五	〇、八	一、一	七、〇	一一、〇	同上 〇、三五米ノ穴ヲ有スル火鉢形ノ赤茶アリ	同前
15	同	同日	五、五五	一、七五	二、二	一〇、〇	九、〇	同上 石壹ニ小孔三個	同前
二	馬頭	三月六日	二、九五	一、七五	一、〇	四、〇	八、五	煙瓦ニテ疊ミ上部狹少 口徑〇、五米	自轉ナ距ルコト五百米 周圍清潔

12	通州	東米倉橋內	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、三七八强	九五、〇	ナシ	ナシ	ナシ
13	同	華嚴寺前	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、三七八强	三〇二、〇	ナシ	ナシ	僅微
14	同	新城王恩細ノ宅內	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、二一六强	六一五、〇	ナシ	ナシ	ナシ
15	同	新城ノ南壁ニ沿フタル空地	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、〇五四强	一一五、〇	ナシ	ナシ	僅微
一	馬頭	關帝廟前	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	痕跡	九五、〇	ナシ	ナシ	少量
二	同	雜林樹內	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、〇五四强	三〇五、〇	ナシ	ナシ	微量
三	同 張家灣	守備隊本部前 四門口ヨリ約六百米西北、橋ノ下	澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	痕跡	二五五、〇	ナシ	ナシ	僅微
			澄	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	〇、七八三强	一四五、〇	ナシ	ナシ	微量

三	馬頭	三月六日	三、九五	二、七五	一、六五	四、〇	九、〇	株式ニテ幅上部狹少 口徑〇、三五米
三	同	同日	六、三	〇、七五	一、三	四、〇	一三、〇	時上 同上
	張家灣	三月八日	三、二五	三、五	一、〇	一二、五	一一、〇	同上 木直孔一

備考 一、通州第1號ハ河水ニテ其他ハ皆井水ナリ

二、造構ノ欄ニ於テ「小孔幾個」ト記セルハ固定シタル蓋ニ直徑〇、三乃至〇、五米ノ圓孔(稀ニハ方形ノ孔)ヲ穿チルヲ云フ

三、本表ハ甲乙對照スルヲ要ス

第二章 氣象

氣溫

冬季中氣溫の最も低下せしは一月三十日にして僅かに四度なりき但し每日午前六時の測定に係る午前六時と午後十時との差は平均五度なり

風向 風向は平均東北方多く風力は概なし

降雨 夏期に於て數回の降雨あるしが多くは微雨にして大雨を見ること稀なりき三十三年十月十九日初めて雨雪混じて降り翌後至同時雪ありしも僅少にして堆積するには至らざりき

晴曇 一般に晴天にして星を見ざる事甚だ稀なりとす

結氷 白河の結氷は每年舊曆九月十日と聞く而して昨年は十二月六日に全く結氷せり

山海關

一ヶ年中晴天約百二十日、風天百日、雨雪天百三四十日にして冬期は積雪三尺に及び空氣は乾燥し風向は春期は東南、夏期は南、秋期は西北、冬期は北なりと云ふ

明治三十三年十月以降計測したる氣溫左の如く而して例年秋期には降雨多きも本年は之を見ず

月別／氣溫	朝（平均）	晝（平均）	夕（平均）	一日平均
三十三年十月自十二日	九・三五度	一八・六三度	一二・五七度	一三・四一度
三十三年十一月	四・二七	一二・四二	六・八一	七・八三
三十三年十二月	〇・一八	一・五二	〇・三七	〇・六九
三十四年一月	〇・一〇九	一・三五	〇・四九	〇・三九
三十四年二月	〇・一一五	九・一四	〇・六一	三・〇六

備考　本表は攝氏を以て計測す

天津

氣候は春秋短く夏冬は長し過去一年間氣象の摘要を擧ぬれば左の如し

氣溫最も高きは七月下旬にして三十六度八分を示し十一月終に至りて零度となり爾後漸々下降して十一月上旬に入りて全く零度以下となり二月中旬に於ても再び零度以上に越る事なし

最低溫は一月下旬に於て零下二十二度を示せり爾後二月中旬に至るの間零下十度乃至十七八度に止まり爾後漸次溫暖の度を加へ三月中旬以後復た零下に降らず

氣壓は常に昇騰し日甚だしからず七百七十乃至七百八十五粍の間を上下せり

降雨は昨年七八月の雨期に數々あり雨量は例年に比し多からず本年五月に入り爾後時々小雨あり一年を通じて晴天の日甚だ多し

降雪は年に多き時十五六日少なきは五六日に過ぎずと云ふ昨年十二月に一回本年一月に三回ありしのみ降雪二十四時間に至るものは唯一月三日の一回のみとす其深さ五寸に達す

風は四季ともに多くして東南東北の風位を最も多しとす常に和風なるも冬期に際すれば北風多く且つ强烈にして寒威爲めに加はる俗に之を蒙古風と呼ぶ昨年は例年に比し此風少なく僅に七八回の襲來ありしのみ故に寒氣は前年に比較して弱なりしと云ふ春夏の風は街上の塵を揚げ行人爲めに衣髮を汚す事甚たし殊に一種の黑風なるものあり其起るや突如として一天暗淡灰黃色に變じ天日を仰

く館はず少焉にして土塵降下する事火山の噴灰を降すが如し此時に當りては何人も屋内に閉居せざる可らず本年二回此風に遭遇せり皆東北より來る

白河の氷結は常に大雪の前後に始まり上流早く凍結し其流氷層疊し下りて橋梁に止まり遂に凝結して成るものなり昨年十二月上旬より河を封じ本年二月下旬に至りて開けり

冬期は比較的夏期よりも長し朔風の烈寒を送るに由るものか

天津氣象表

天津兵站病院

月次	天候 晴	曇	雨	雪	氣温 最高	最低	平均	氣壓	風 顯著多風向	風力
七月（十八日以降）	四	五	四	〇	四一・〇	二五・〇	二九・三	七四九・四	東	一・七
八月	二二	三	六	〇	三二・五	二一・〇	二七・三	七五三・五	東	一・五
九月	二四	〇	六	〇	二八・六	一三・〇	二二・八	七六〇・二	南	一・六
十月	二三	五	三	〇	二五・〇	七・〇	一五・六	七六五・二	南	一・八
十一月	二七	一	二	〇	一四・〇	〇・〇	七・五	—	東	一・六
十二月	二八	一	一	一	九・〇	(一)・一	一・八	七七六・三	東	一・六
一月	二〇	六	一	四	六・〇	同 二・二	(一)三・四	七七五・〇	東	二・二
二月	二四	四	〇	〇	一五・〇	同 一・四	同 二・一	七七九・〇	北	二・〇
三月	三〇	一	〇	〇	二一・〇	同 一・三	一〇・三	七七五・〇	西	二・五
四月	二六	二	一	一	三五・〇	同 〇・二	一五・〇	七六八・〇	東	二・七
五月	一九	六	六	〇	四三・〇	八・〇	二〇・〇	七六三・三	南	二・四
六月	二四	二	四	〇	四三・〇	一二・〇	二五・〇	七六五・二	東	二・九

備考　十一月氣壓は器械破損に付測定を缺く

風力はボーフォルド氏表に據る

氣温最高最低表

月次 高安	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月

最高温	三八・〇	四六・〇	六八・〇	八七・〇	九四・〇	一〇七・〇	一〇八・〇	一〇〇・〇	九二・〇	七七・〇	四二・〇	五〇・〇
最低温	〇・八	一・五	一八・〇	三五・〇	四一・〇	五三・〇	六一・〇	六〇・五	四〇・〇	四四・〇	一七・五	三・〇

備考　本表は千八百六十一年天津に於てドクトル、ランプレイ氏の測定せしものに係る氣温は華氏に隨ふ

楊村氣象表

月次	午前八時 最高	午前八時 最低	午前八時 一ヶ月平均	午後二時 最高	午後二時 最低	午後二時 一ヶ月平均	午後八時 最高	午後八時 最低	午後八時 一ヶ月平均
明治三十三年九月	二二・五	一一・〇	一八・四	二五・〇	一七・〇	二二・四	二六・〇	一六・五	二二・三
十月	一六・〇	一・〇	一〇・〇	二〇・〇	七・〇	一四・九	二〇・〇	五・〇	一四・〇
十一月	一一・〇(二)	四・〇(十)	一・八(十)	一四・〇(十)	二・〇(十)	七・二(十)	一四・〇(二)	二・〇(十)	三・五
十二月	四・〇(二)	五・〇(二)	一・五(十)	五・〇(二)	六・〇	〇・〇(十)	一四・〇(二)	六・〇(二)	一・四
明治三十四年一月	三・〇(十)	一一・〇(十)	五・二(十)	五・〇(二)	八・〇(二)	一・九(十)	四・〇(二)	一〇・〇(二)	三・八
二月	三・〇(十)	九・〇(二)	三・八(十)	九・〇(二)	五・〇(十)	〇・五(十)	九・〇(二)	六・〇(十)	〇・六

備考　表中(二)は零點下の温度にして(〇・〇)は零度(十)は零點上の温度とす

通州

氣温表左に示す

月次	午前六時 最高	午前六時 最低	午前六時 平均	午後二時 最高	午後二時 最低	午後二時 平均
八月	二六・〇(十)	二二・〇(十)	二三・六強(十)	三二・〇(十)	二六・〇(十)	二六・一強
九月	二二・〇(十)	一三・〇(十)	一九・七弱(十)	二九・〇(十)	二〇・〇(十)	二五・三強
十月	一六・〇(十)	二・〇(十)	一〇・四強(十)	二三・〇(十)	九・〇(十)	一七・三強
十一月	八・〇(十)	五・〇(十)	〇・八強(十)	一七・〇(十)	一・〇(十)	九・二弱
十二月	一・〇(十)	九・〇(二)	四・一弱(十)	九・〇(二)	五・〇(十)	二・九弱
一月	四・〇(二)	一四・〇(二)	五・二強(十)	七・〇(二)	八・〇(十)	二・二強
二月	二・〇(二)	一・〇(二)	四・二弱(十)	一〇・五(二)	五・〇(十)	四・七弱

備考　最高低の驗溫器なきを以て午前六時と午後二時に於て觀測し平均は毎一ヶ月間當時刻に測定せる溫度を各其月の日數にて除す但し八月分は二十五日より三十一日迄七日間のものなり

雨　三十三年八月より三十四年二月に至る間降雨の最も多かりしは八月にして九月以後は回數雨量共少なく十一月以後は更に之を見ず乃ち降雨の回數を掲くれば

八月九回　九月四回　十月三回

雪　三十四年一月二日初めて之を見る積る事一「デシメートル」同月中降雪六回にして他の一回は約十五「ミリメートル」殘る四回は其量極めて少なくして積るに至らずして歇む二月以後降雪なし

晴曇　三十三年八月より三十四年二月に至る晴曇を左に掲ぐ

天候＼月次	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月
晴	一九	二二	二二	二九	二九	二三	二六
曇	三	五	五	一	二	八	二

備考　右表中八、九、十の三ヶ月間に於ける不足日數は降雨なり

風向風力　三十三年八月初旬より九月中旬迄は風の吹く事少なく概ね無風稀には軟風にして九月下旬以後は西北疾風強風暴風頻りに吹き無風乃至和風は僅かに一ヶ月中三分一に止まるのみ強暴風の起るや土砂を捲き揚げて天空は砂塵を以て充たされ所謂紅塵萬丈の觀あり

結氷解氷　十一月二十八日に至り白河の流水は氷結を始めて舟航を困難ならしめ十二月初旬末には全く凍結して重荷を積載したる車馬を通ずるに至る翌年三月初旬より結氷は漸次融解して氷片の流失を始め同月十五日に至り全く開通して舟航容易となる故に水路輸送は十一月下旬より三月上旬迄停止せざるを得ず

第三章　交通具

太沽　山海關

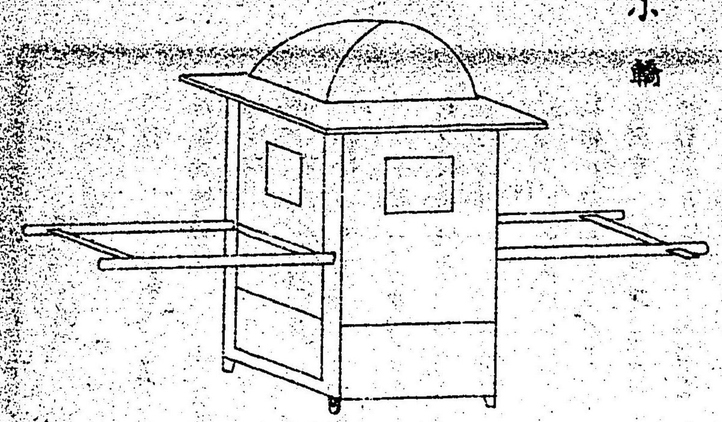
太沽山海關共に馬車を用ゆるもの多し馬或は驢馬の一頭乃至二頭をして輓行せしむ或は直接馬背に雜品を乘せて通ずるものあり轎は未だ之を用ゆるを見ず馬車の構造は我國の荷車に類し上は高さ約四尺幅三尺長さ四尺餘の方箱にして上等なるは覆ふに布片を以てし前面に簾ありて開閉し得是より出入す又簾には硝子板を附して外望に便にす

鐵道は塘沽山海關に於て完全なる運轉を爲しつゝあり

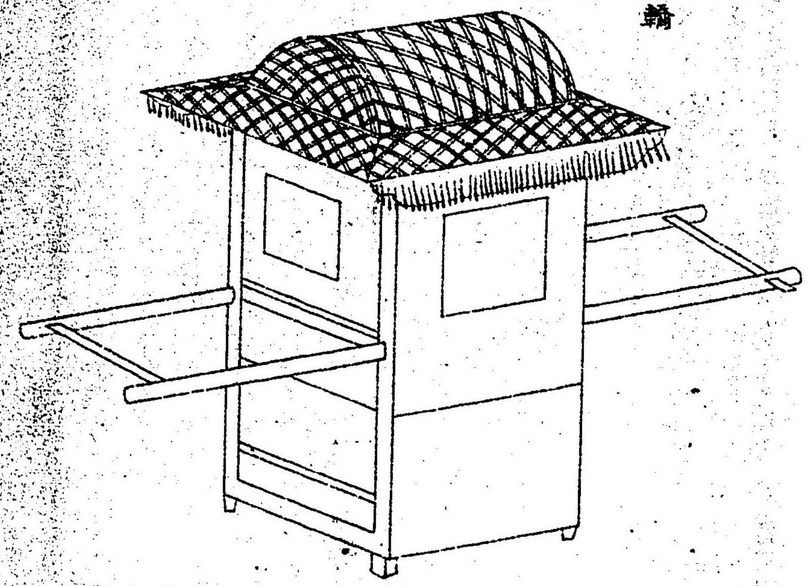
天津

○車馬

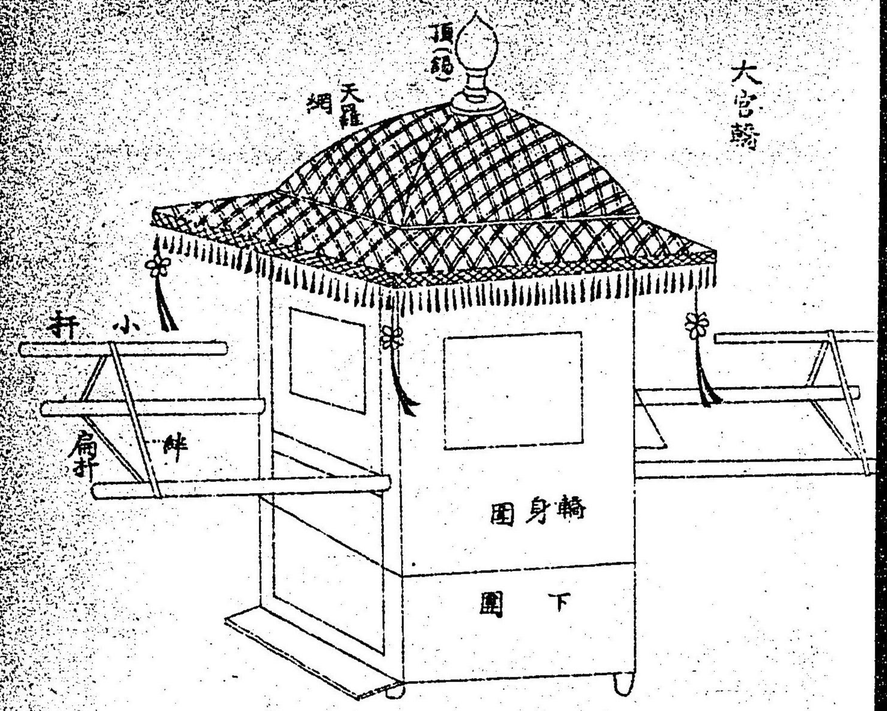
車輛の種類甚だ少なく要するに其製作甚だ堅固にして體裁は佳ならず是れ道路凹凸多きが爲めに自ら此習慣を來したるものなるべしと雖も馬驟をして之を輓かしむるを以て其積載量の過大なるも又其因たるものなり

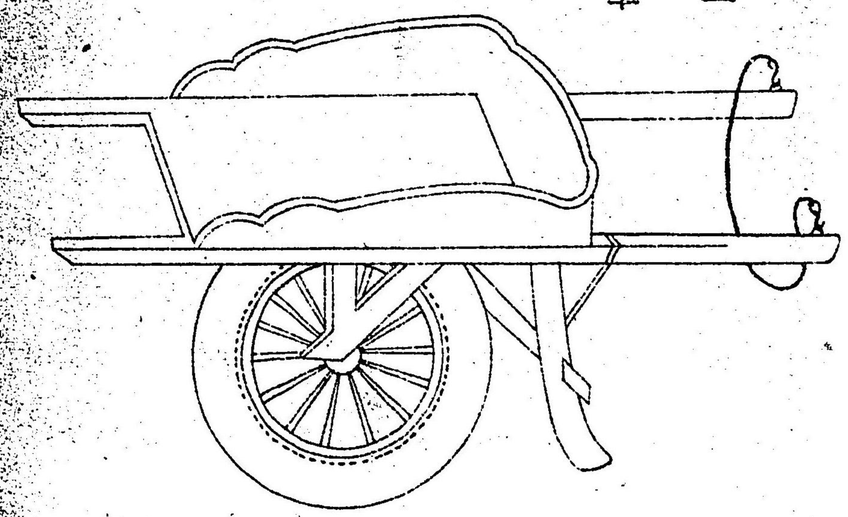


小轎

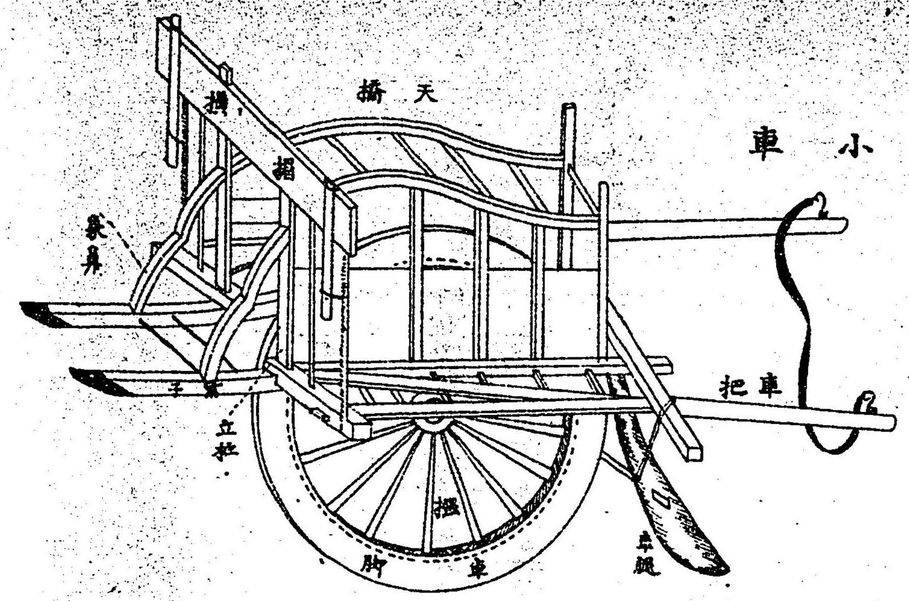


小宮轎

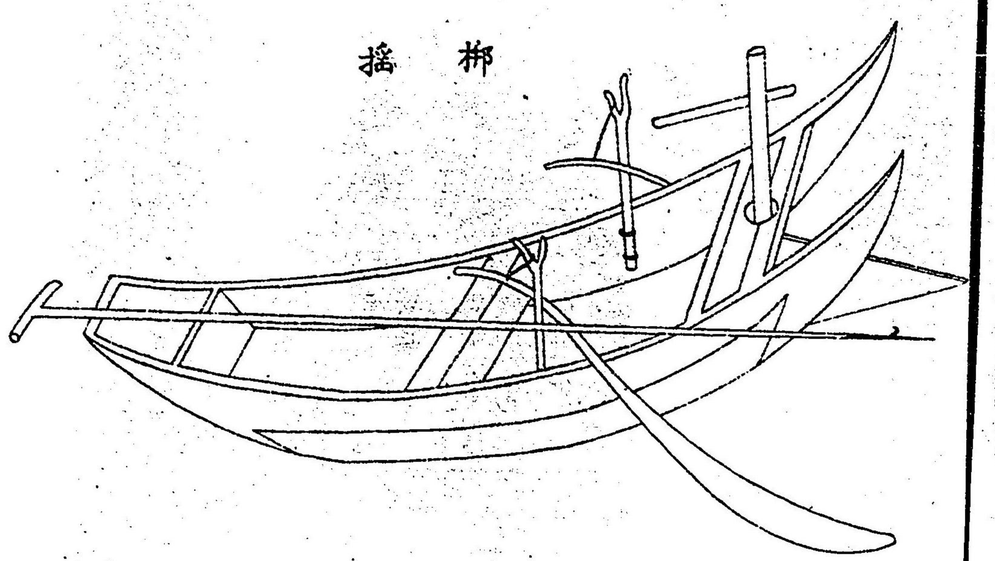

頂(鍋)
天羅網
大宮輪
小杆
扁杆
絆
輪身圍
圍下


土車

轉車

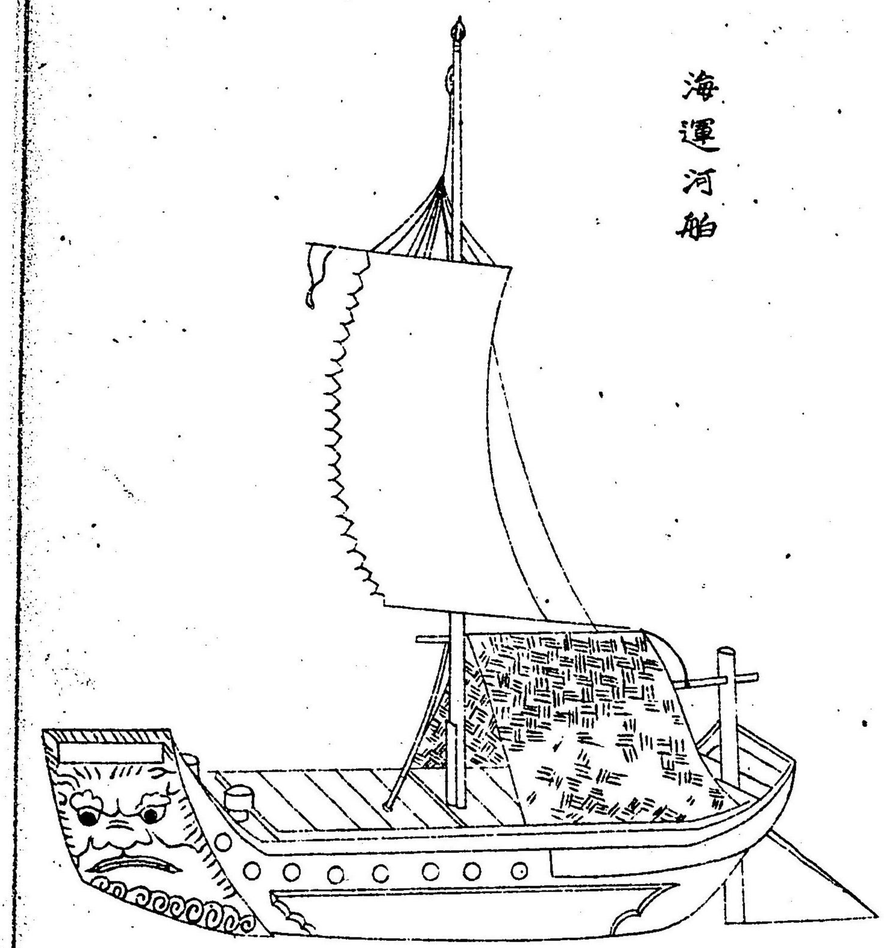


搖梆

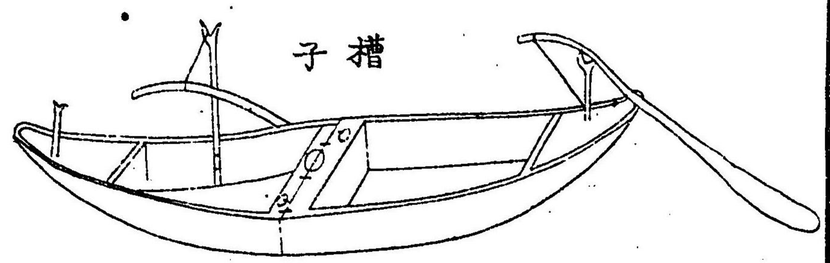


氷淋
(撓)
車地
魚舩

海運河船

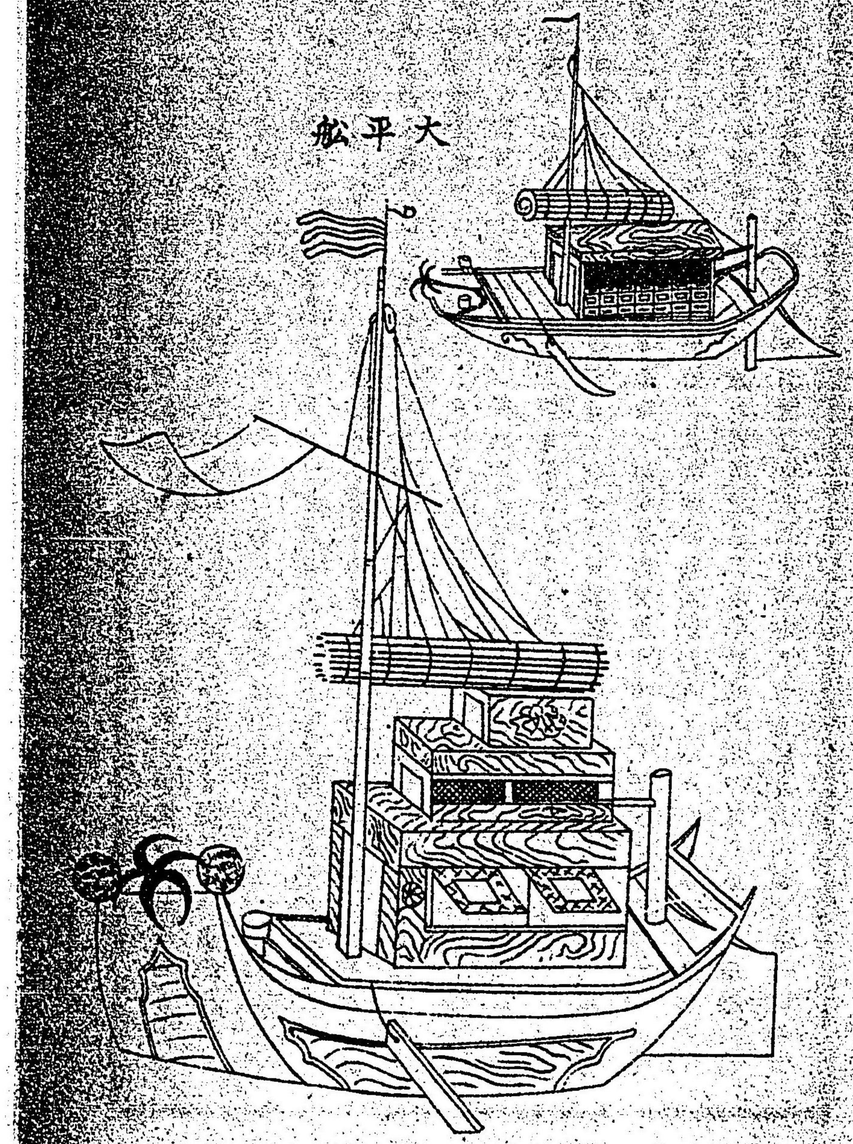


槽子



舢子船

大平船



(一)大車一名敞車都市に於ては之を有するもの少なきも村落には甚だ多く四郷にして約五百輛を下らず其製或は堅牢にして古雅なり我國に於ける大八車様にして主として荷物の運搬に用ひらる其車輛は圓板狀のものと普通櫃を有するものとの二種あり皆鐵輪を嵌す每車一輛の製造費用三十乃至四十元にして轅には特別の裝置ありて牛或は驢馬をして牽かしむ其數不等にして單に一頭なるあり又二頭或は三頭のものありて二頭を用ふるときは前後に單列をなし三頭なるときは他の二頭をして一頭の前に併行せしむ此車の積載量は重きは四五千斤に至るものあり

(二)轎車、載人用にして決して物品を載せず天津城内外を通じて約三百餘あり驢馬をして牽かしむ車臺上に木を組みて□の如き小室を造り其室の屋蓋は穹形を爲し左右及後側の下半部は木を組み上部は粗にして室の外部は淡青色の布片を以て一般に被包せられ左右兩側は各一個の小なる窓を設け硝子板又は紗布にて張り以て外方を望むに便にし前方は入口にして同色の布片を以て造れる垂幔あり其中央には又小窓を設け以て前方を見るに便にす故に外方よりは乘者の誰た

るやを疑知する事を得ず如此構造は婦人等の乘用に於て他人に其面を知らるゝを憚るの意のみならず北清の地一般に其土質細微にして灰樣なるが故に其風の爲めに飛揚する塵埃を避るが爲めの必要より起りたるを主なる原因とす而して其室の廣さは多くは二人を容るゝの製式なるも二人を容るゝに足るなり室の前後には少しの餘地ありて其前方のものは進行中御者の坐とす其坐下には一小脚架ありて乘車の際の便に供す(附圖參看)

(三)小車一名推車、一輪にして一人之を推行し車輪の兩側に貨物を積載す其量約八百斤とす(附圖參看)

(四)地車、光緒の初年より始まる人之を牽く低き車にして鐵製の兩輪あり卽ち韓間に一人あり其左右に三四人ありて牽引し車後に二人ありて之を推す元來洋人の敎ふる所にして我國多く呉服店等に用ふるものと同一なり紫竹林及塲頭に於て貨物運送に多く之を用ふ

(五)洋車又東洋車、卽ち人力車にして光緒十四年の頃上海地方より初めて傳播し來りしものなり而して只だ異なるは車箱の後下方より後方に向つて三四個の小鐵

杆の後端相集合するものを附着す之を撑と名づく卽ち後方に覆へるを防ぐの具とす

車を製するの材料は數多あり彼の大車にありては軸は黃檀を用ひ轅は檜柏の類を用ふ箱には檜或は栗を用ひ輪には棗を用ふ又轎車にありては轅には栗或は檜を用ひ軸には檀又は棗を用ひ輪には棗を用ひ箱には檜棚には柳又は竹を用ふ又小車にありて貨物を積むものと水を運ぶものと皆其製を同ふし車嘴(車の前方に突出せる二個の嘴狀の木)車腿(車の後部より後下方に突出せる左右の兩脚なり)天橋(車の中央にありて車輪を覆へる木を構組して成形せる車輪と積荷の摩擦を防禦するの用を爲すもの)及車箱等皆檜枷子を用ひ車脚は棗を用ふ然れども同々小車と名づくるものは嘴を有せず又推土小車と云ふものあり此車は推水小車に比すれば車輪小にして車臺上に一の箱あり各種の車の內脚行小車卽ち推車を以て最も多しとす各種を通じて二千餘輛ありと云ふ(圖を見よ)

○橇

橇は氷牀と稱す左右二個の木材を互に鐵又は木を以て連接し其上に木を以て方

形の框を設け其左右二個の木材の下面卽ち地に接する部には薄き鐵を挿入し以て氷上を滑走するの際摩擦を尠なからしむ框の上には多くは高粱の稈を組みたる蓆を布く河氷堅なる時は二三人を載せ一人牀の後方に立ちて一稈の末端を自己の胯間に於て箝して行進す速力甚だ速なり(附圖參看)

○轎輿

甚だ不便の交通具たり、三種あり

官轎卽ち大官轎、四人之を擔ふ卽ち古の肩輿なり框は楸又は竹を以て之を製し左右及前面に方形の小窓あり硝子板を張る內部は椅子の如き構造とす包むに綠色の羅紗を以てし屋蓋には其上に黑色の絨線を以て網樣を爲し中央に錫の頂あり而して轎身の中央より以下は橫に紅色の緞子又は呢(毛織)を圍らす轎杆は長くして栗或は楠を以て製し更に轎杆端を互に連絡する橫木(肩杆)の兩端に絆を附し之に小杆を附し前後各二人前後に立ちて此小杆を肩にするなり此大官轎は三品以上の官人にあらざれば之に乘る事を得ず內面は冬季は灰鼠の毛皮を以てし春夏の二季は紬或は緞を用ふ而して四品以下の官人は綠呢を用ふる事を得ず藍呢を

用ふ

小官轎、大官轎より稍小にして藍呢を以て被包す下部は紅色呢を匝らす道光の中年より用ひらる七八品の人之を用ふる轎にして三人輪班して之を擔ふ而して平民も又之を用ふる事あり或は大官轎に似て屋形之と異なり且つ頂なし

小轎、二人又三人輪班して之を擔ふ小官轎と略ぼ同形にして少しく小なり古の肩輿の遺形たり全外面を被ふに藍布を以てす之は平民の用とす現今此種を用ふるもの多し

○船舶

其種類甚だ多しと雖も現今天津地方に於て用ゐらるゝものを擧れば左の如し

大平船、長徑十丈乃至二十丈高六七丈なるものを最大とし小なるは三四丈なり三層乃至五層の樓船にして頭尾共に大きく之を行るに最も安全なり故に大平船の名あり官員の眷屬を載するものとす

胯子船、大平船に似て小なり樓は一層若くは二層にして長短等しからず小なるものは三四丈大なるものは十餘丈にして前倉に貨物を積み後倉に人を載す

槽子、兩槽相連りて一艇をなすものなり又之を各槽に分離するを得薪を載するに用ゆ道光の年初めて使用せらる當初は西淀中に蓮藕蒲草を採るが爲めに造りたるものなり前後兩槽連結したる狀態は紡錘形を爲す

海運河船、白河に最も多く見る所の船種にして海運開けし時より之を用ゐ始む層樓なく僅に蓆を覆ふて舟人の休息に充つ貢米を運搬するものにして船首には多く獅面を畫けり

鹽船鹽を運搬するに用ゐらるゝものにして天津に鹽官を置かれしより之を使用す而して其形河船と大同小異なり只古の貨船の制により多少の取捨をなしたるに過ぎず船首に方形赤色の部あり内に福字を書す

貨船、棚を設けず大小不等にして貨物運搬に供するものなり

漁舟、大なるは三丈に餘り小なるは六七八尺にして河中の漁獵に用ゆるものなり

漁夫其家族と共に舟中に住ふもの多し

梆槌形極めて小にして一人棹を操て舟を行る多く小河の渡しに用ゆ遠きを航するに堪へず

船舶各部の名稱は船首を船頭と云ひ船の後部を船尾と云ふ又船頭の上部の兩側に在るものを相耳と云ひ其後方(船頭の上甲板)にある二本の短き圓柱を將軍柱と云ひ船倉を蔽ふ板(卽ち甲板)を鎖覆板と稱し櫓を槐と云ひ其下部に在て槐基をなせる木材を主心骨と稱し舷側の厚き板を簷と云ひ船腹を覆へる外板を梆と云ふ」

船舶構造の大要は下の如し、支那の船舶は漁船槽子等の小船を除くの外は概して船頭船尾共に廣濶にして中には船尾の兩側の板後方に翼の如く突出せるものあり船底は一般に平滑にして頭尾共に甚だ高からず大平船胯子船を除くの外は船舷低く又船の兩側は平坦にして操棹に便なるも貨物を滿載するときは殆んど水面と相均ふするに至る以て其船の低きを知るに足る龍骨は其幅廣し是れが爲め船倉は狹く且つ深き數室に區分せらる又船夫家族の住居する室は多く船の後部に設けられ窓牖乏しく室内暗くして且つ狹し室内に炊具を備へ煙突筒によりて低く甲板の上に其煙を排出せしむるの有樣頗る奇なり

槐は割合に長大にして一本なり近來は二本のものも尠なからず槐端に一種の旗の如きものを附して其下方に一小滑車を結ひ着け帆の上げ下げの用に充つ帆は

帆布を以て造られ船體に比すれば我國のものゝ如く廣からずして長し横に多くの竹を挿み種々の糸もて風にまかせ隨意に操つるに便にす我國固有のものゝ遠く及ばざる所なり

舵は船體に比すれば甚だ大にして厚く後方に突出し手を以て直ちに舵柄を運轉するものとす

舷側には何れも必ず一二の護板と名づくる板ありて其上端を網にて舷側に固着せしめ後方は遊離せしむ是は船舶互に相接したる時衝突若くは摩擦によりて船舶を損せざらんが爲めに設けられたるなり

碇錨は殆んど我國固有のものと同じく四爪を有し其柄甚だ長し錨綱は多く麻製なり

艤軍柱は本船を相連結するの用なり

櫂は長くして其水中端は殆んど切斷せるが如くにして又扁平部は綠に添ふて少しく上方に彎曲す

操法は盛く洋式操法に正反し操手は船頭に向つて舷側に併立し力を込めて前方に押す頗る奇觀なり櫂は我國のものに比して狹く且つ水中に入る部分多し棹は木にて造り其先に卜狀の鐵を嵌入す

○鐵道

鐵道は所謂廣軌式にして(既成線は僅少なれども未成のもの線路甚だ廣し)光緒四五年の頃天津南郭外に試設し次で光緒五年天津河東より塘沽に至る二十七哩間及び蘆臺より河口に至る間に布設したるを始とす

山海關線路は英人の監督の下に光緒十六年之を竣工したるものなり北京天津線路(八十五哩)は我明治二十九年初めて工を起し光緒二十三年に至りて成りしものなり今や天津を中心とし南は保定府に至り北は遼州城に達し延長四百三十哩の布設を見るに至れり

◎交通の現況

市内の往來は重に人力車を用ゐ轎輿に乘ずるもの稀なり驢馬に騎するものに至りては殆んど見るべからず河には橋梁を架する事少なし(帆船を通ずる所は浮船卸ち船橋を架す)其他渡船場等ありて交通を便にするに過ぎず

鐵橋二つあり其中央部を回轉して舟を通ずるに備ふ

市外に通ずる道路甚だ多し其著しきものを擧れば太沽に至る道路水陸二道あり水路は白河の流を下るものにして吃水十尺までの流船は居留地太沽間を往來すと雖も其數多からず普通支那平底船によりて行客及び貨物の運送をなす陸路は白河の右岸に沿ふて設けらる卽ち東門より海土道(太沽ロード)を進み各國租界を經東南門(外廓)に出て土城鹹水沽窩沽を過ぎ太沽に達す道路平坦にして三河其間に横はると雖も橋ありて渡るべし

又一路鹹水沽に通ずるものあり卽ち南門外より海光寺に至り是より候家道口を過ぎ東南鹹水沽に至る

軍糧城に至る道路は老龍頭(停車場所在地)より東南大直沽を過ぎ寧河縣界の軍糧城に達す

西門外より直ちに西に向ひ廓門を過ぎ大稍直口に至り斜村を經て靜界縣に至る

大稍直口の附近西頭灣より南運河によりて青縣、靜海縣、鹽山縣、滄州及び山東、河南地方に來往する船舶皆茲に泊す

北京に至る道路は水陸二道あり水路は北運河を遡り陸路は北門外より郭門を出て紅橋に至る此處に子牙河來り會す文武大城及び霸州(以上子牙河を遡る)通州(白河を遡る)に至るの船舶皆茲に泊す天津より山西地方に至る大清河を遡るも亦紅橋に於て船に乘す是より西沽北倉楊村(武清縣界)に至る北京に通ずる大道皆爰に集まる而して水路を取るときは通州に至りて船を廢し車を貸して北京に達するなり天津より通州に至るには專ら支那船を用ゆ往路約七日歸路三四日を費す天津より太沽(西太沽)に至るには滊船に依れば往路六時間歸路八時間を要し支那船に乘れば往路二日歸路三日を費さゝるべからず

楊村及び河西務

此地方に用ひる車輛は長車、轎車、小車等なり長車は二頭又は三頭の馬驢若くは騾に輓かしむるものにして多量の運搬には必ず之を用ゆ轎車は主として人を乘するに用ゐ少量の荷物を携帶して之に坐するを得二頭或は一頭輓きのものあり單に人のみを乘すれば三四人を坐せしむるに足る小車は一輛車にして大概貧民が

荷物を運搬するに用ゆるものなり

鐵道は楊村の西南を通じて天津より北京に至る一條の鐵道あるのみ之を京津鐵道と云ふ楊村の南方二千米突兒の所に楊村停車場あり河西務には西南四十八清里落法に停車場あり

轎の種類三つあり其一を官轎と云ひ二人又は四人にて擡くるものにて重に官吏を乘するものなり其二を駝轎と云ひ二頭の騾馬にて輓かしむるものなり其三を花兒轎と云ふ婚嫁の時にのみ用ゆるものにて種々の花模樣を以て之を裝飾す

通州

馬は普通支那馬騾馬驢馬の三種あり之に鞍を置き乘用とす驢馬には鞍を置かずして少量の荷物を負はせ其上に跨るもの多し普通馬は身體强健性質温柔能く走り能く歩む騾馬又然り驢馬に至りては走ること遠かなるも體小さく從て遲し然れとも歩行は比較的に早し鞍は日本に於ける舊式の鞍と畧ぼ同一にもて木を以て造らる鐙は殆んど西洋式に似たり

牛は歩みの遲き爲め人を乘するとと少なきも荷物の運搬には多く之を使用す

駱駝は南清に多く北清に少なし是れ又歩み遲く人の之に乘るは少なし多く荷物の運搬に用ゆ然れども監督者は之に乘りて督す佛領安南軍の如きは多く之を使用せり

馬車は人の乘用と荷物の運搬に用ゆるの二種あり乘用車は荷物車よりも較小にして軸轅木上に柱を立て家形を造り周圍に木綿を張れり前面に簾を垂れ一二人を乘することを得支那馬車は車輪軸轅木輓等凡て大にして輪鐵又厚し而して乘用車は一頭輓にて御者家形の前に腰を掛けて馬を御す荷物車は家形なし馬二頭或は三頭にて之を輓く車輪一臺の載量大凡三百貫なり御者は車上に在て馬を御す

牛車は馬車よりも車の全體大きく載量亦重し一頭にて輓かしむるあり二三頭にて輓かしむるあり一輪車は唯荷物を運搬するに用ひ人之を後より押し行くものなり又前に一人あり之を助く車輪は中央にありて上に突出す其突出せる處は木にて包み車輪の荷物に觸れざる樣造れり

人力車は始め日本より輸入せるものにて總て日本のものに異ならず人及び荷物を運ぶに用ゆ然れども車夫の被服等は日本の如く輕裝ならず

船舶は運河を上下するもの多し大小不同なれども其底は平坦にして造船の材料凡て粗大にして構造拙なり人及び荷物を運搬す家形を設くるものもあり風あれば帆もて行り風なき時は之を引く交通最も頻繁なり殊に今回の戰役に於て白河の船舶運搬は夥しきものなりしが運搬の危險甚だ少なかりき

拖床は冬期結氷の際人及び荷物の運搬に供するものにて其形卓狀をなして左右に板の兩脚あり四隅に柱を立つることあり或は棚を設くることあり氷上を輓き或は押して滑走す速力甚だ速かなり

通州附近には鐵道の設けなし

轎輿は天津其他にて用ゆるものに異ならず

北京

北京にて常用する運搬器は轎子方頂轎車轎車敞車小車子平車の六種なり此外地方によりて一二の變形物なきにあらず

第一　轎子は我國の輿と酷似せる木製方形のものにて其周圍は紺總若くは色布を以て覆ひ外見頗る美なり轎子の轎天蓋を轎頂と云ひ轎頂の中央に金屬性の玉あり之を轎頂子と名つく轎の前面は簾を垂れ乘者之より出入す轎の左右には各一個の窓あり內部を名つけて轎腔と云ふ其後平部には椅子形のものを置き腰を掛くるに便にす窓の上方に棚を設け携帶品を置くに用ゆ冬期には轎腔內に火鉢を入れて防寒に備ふるを常とす轎を擔ふが爲め左右兩側の前後に貫通せる二條杆あり之を轎杆と云ふ其兩端に一條の麻繩即ち轎絆なるものを結ひ着け以て兩轎間を連結せしめ其下を斜めに一の橫杆即ち轎子橫杆と稱するものを通じ四人にて之を擔ふ故に前後八人にて之を運ぶ譯なり試みに其各部の長短大小を測るに左の如し

一轎絃　高さ四尺二寸幅前後左右共に二尺七寸乃至三尺七寸但し轎子の大小あるを以て幅にも大小あり幅一に寬と云ふ

二轎頂　大各線四尺小各側線三尺四寸

三轎杆　長さ十丈六尺廣き部は五寸五分狹き部は四寸五分

四轎子抬　長さ四尺六寸轎子抬とは轎杆の一端より轎に至る間を云ふ

五轎絆　長さ一尺四寸

六轎子横杆　長さ六尺五寸

官轎は衙門に出入する際用ゆるものにて庶民の猥りに用ゆるを得ざる制規あり而して其轎頂子に依りて一見官轎なるや否やを判別するを得轎頂子なきものを行路轎と稱し一般庶民の乘用する所とす轎頂子の種類は金屬の種類に從て一樣ならず金頂子を附するものは庶民の乘用を禁せられ只銀頂子銅頂子を附着するものを庶民の乘用とす

北京城内に於ては官轎は文官の頭品(一品)及び二品文官の齢六十五才を超えたるもの又は武官の七十才を過ぎたるものにあらざれば之を用ゆること能はず但し婦人は其夫の官位三官品以上なる時は之に乘るを得るの權を與へられたり

北京城外に於ては何處にても凡て官職あるものは皆な官轎を用ゆることを得るなり然れども亦自ら二種の別あり即ち綠轎藍轎是なり綠轎は外側面悉く綠色に

して三品以上のもの之に乘じ藍轎は四位以下の用ゆる所とす轎夫は何れも四人なり

行路轎は一に小轎子と云ひ多少其形小にして頂子を附せず轎夫は二人若くは三人にして庶民の廣く用ゆるものなり

其他婚禮に用ゆる轎は官轎と同じきものにて新婦之に乘ず轎の外圍は全く紅布にて之を纏ひ轎絆の如きも亦紅繩を用ゆ婚禮の際は上下を論せず新婦之に乘るを許され八人の轎夫之を擔ふ

然れども上述の如き制規あると共に經濟上不利益なる所より現今は北京城内に於て之を見ること甚だ稀なり只だ城外の各地例へば天津、上海漢口等の如き非常に流行し尙ほ益々增加の傾あり故に轎子舖の繁忙甚たしと云ふ

第二　方頂轎車なるものあり官轎子を騾馬或は驢馬にて輓かしむるものなり頭品二官品の用ゆるものは其側面より出入し三官品以下及ひ婚人用のものは前面より出入する構造なり

第三　轎車は一定の制裁なきを以て一般庶民の便乘を得るものなり故に北京城

所到る所どして悉なきはなし中流以上の家にあり下流は少なくとも二個を所有す又城内所々に駐轎所ありて行人の便に供す此の如き轎車は轎子に反して北京城附近に多きも南清地方には甚だ少なし

王爺即ち親王の用ゆる轎車は格別廣人專用の轎車と異なる所なきも其形稍大にして兩側には各二個の窓を有し外面は窓口に下る紅團子と稱する一種の油布を以て蔽むにより一に之を紅團子轎とも云ふ

轎車を使用する趕車的(御車)は其前面簾子の前方に一尺五寸許りの板臺に斜めに腰を掛け左手に韁繩を握り右手に鞭を執り巧みに馬を操縱す然れども乘者能く注意するにあらざれば頭部肩胛等を打付くること往々にして是あり蓋し車輪に發條の設備なきが故なり

第四　敞車と稱するものは殆んど我國の荷車に髣髴たるものにて其用大同小異なり積量に依り騾馬或は驢馬の數を增加するものとす

北京城内に於て荷物の運搬又は城外より飲料水を運搬するに多く之を用ゆ

第五　小車子及び平車は專に小荷物運搬の用に供し殊に城内に於て菓子野菜肉類等を運搬するに用ゆ中等以下殊に下等社會に至りては之を旅行車として用ゆること少なからず小車子及び平車を運用するには車絆と稱する繩を兩肩に掛け兩手にて車把を握り前方に向けて押し進むるなり二種共に一輪車二輪車の別あり二輪車は熟練を要することなきも一輪車に至りては熟練と注意を要す然らざれば忽ち平均を失ひ轉覆するの患あり熟練せる者は能く腰と手とにて其平均を取り得るなり

第四章　被服

男子服

一、燕服卽ち常服は日常燕居の時用ゆるものにて上官に見ゑ賓客に會し又は賀弔の時に用ひず今着服の順序に從ひ內部より衣服の種類を述ふべし、

上半身に着するものは

(イ)兜肚一名護胸　其形鰈の如く日本の胸當に類す上緣及び左右の端に紐ありて之を結ぶ地質金巾或は綿布にして單衣なるもの多し色は白又は藍にして貧民を除くの外は之を着す

(ロ)小褂　日本襦袢に相當するものにして丈二尺乃至二尺六寸裙圍四尺乃至五尺領子なく襟は左にのみ附し右側には袢子(扣鈕)を以て懸けらる袖は長き筒袖にして長さ二尺手を覆ふて猶ほ餘りあり地質は金巾木綿にして富者は曉夏より初秋の交に於ては葛布紬或は漆紬を用ゆることあり全く單衣にして色は白若くは藍色なり

(ハ)袷襖小綿襖　其形前者に同じく袷及び綿入にて寒時に着するものなり我國の胴着に相當す然れども貧者は之を上衣として夏秋の外常に着用せり

(ニ)袍　所謂上衣にして其形略ぼ前者に同じく只だ丈け甚だ長し卽ち總丈け三尺五寸乃至四尺五寸袖三尺其幅五寸乃至七八寸腰圍三尺二寸乃至四尺餘裙圍(下裳)六尺乃至八尺領圍一尺餘にして幅一定せず大襟と稱するものは襟頭六寸あり紐子の長さは二本半なり(紐子とは左右の襟相重なる所又は領先又は脇裂を互に繫く扣鈕附の紐にして紐は布又は紬緞を以て裏み巧みに縫附あるものなり)

(ホ)半臂一名坎肩　其形我國の袖無袷天に似たるものにして必らず袍上に着するを例とす夏時には多く袍内に着すと云ふ地質は紬多く布なるも亦あり單衣袷綿入等各種あり肩幅(肩ゆき)五寸丈け一尺六寸乃至二尺三四寸手家の濶さ一尺四寸なり

半臂に三種あり(一)坎肩　對襟大襟一名偏襟の二樣あり前者は胸の中央にて襟を合し後者は右に偏して長き襟あり(二)琵琶襟坎肩　一の偏襟に類し只だ襟の下端に近いて狀に屈折するもの(三)邑圓巻坎肩　是れ旗人に始まり近時華服を好むもの多く之を着す領先より左右脇下の方向に斷端あり前後の襟に分つ個の前端に一個と左右の斷端に各六個の紐ありて前後の襟を連ぬ又胸前九個兩脇四個若くは胸前七個兩脇六個の紐を附するものあり是を以て一に十三太保と云ふ

(ヘ)馬掛　日本の羽織に相當す二種あり(一)馬掛　長袖にして幅五寸總丈け一尺八寸乃至二尺五寸腰圍四尺下裳濶さ四尺八寸(二)單横坎　前者に類し袖寛にして短きの差あり二者共各對襟と偏襟との二種あり地質は袖布等なり單衣袷綿入各是あり坎肩は馬掛を着ずして單に之を着するもの多し馬掛は單獨に之を着することなく多くは坎肩と共に之を着し賓客に見ゆるとき敬意を表するものとす

下半身に穿つものは

(イ)單褲　單衣のズボン下にして上等社會は殆んど貴中等は稀に用ひ下等社會に至つては殆んど之を用ひず

(ロ)褌　ズボンに類し稍大なり腰圍三四尺乃至五尺褌褌口即ち下口の濶さ六寸なり地質は多く綿布を用ひ紬なるは少なし單衣袷綿入等各あり

(ハ)巻褌　褌上に穿つものにして恰もズボンを膝上にて前上より後下に向けて斜斷したるが如し其前上端より三條の紐を出し一束となして褌腰帶に結ひ着く丈け一尺六寸乃至二尺地質は多く紬を用ゆるも貧民は之を穿つもの多からず之を用ゆるも皆布製なり

附屬品は左の如し

褌腰帶　褌を穿ち其上口を腰圍に固定するに用ゆるものなり地質多くは綿布とす長さ五尺乃至八尺あり圓筒形にして二廻したる後之を結ぶなり又四尺の長さなるもあり此は一廻して結ぶなり

腰帶　袍の上に於て腰圍を結ぶものにして大人は一丈二尺の長さあり地質は綢(紋縮緬)綿布等にて色は好みに任せ一樣ならず然れども赤色を用ゆることなく綠藍色を好めり之を用ゆるは帶の中央を腰後の中央に當て前方に廻して結び其端に線を左より後方に廻し中央に至りて帶下に挾み其餘りは之を垂るゝ

なり

褪帶　幅二寸長さ二尺四寸兩端に房あり褌の下口を締むるに用ゆ即ち環行帶樣に卷給して其末端を上方より既に卷きたる帶下に挿入す地質前者に同じきも多くは異田樣に織りなるを用ゆ

足布　足袋を穿つ前足を包むものにして一尺二寸平方のネル或は綿布なり包方は先づ足布を展べ其一隅に向つて足を中央に置き左右角を足背に強く交叉裏包し後ち足尖の方なる一隅を適宜に足背若くは踝面に向けて折りつけ而して足袋を穿つなり

襪子即ち足袋　晒金巾にて製す形狀靴足袋に似て上端淺く口稍濶し縫は足踝の周圍前後の中心にあり襪子の上端を褌の下口に入れ之を後方に絞り餘襞を內の前方に重複して以て褪帶を施す時節に從ひ單衣袷綿入等あり色の白きを貴ぶ

二、公服即ち禮服は領(ゑり)を附けず別に領子或は領衣なるものあり而して內衣は總て素服と同一なり唯地質の良きを用ゆるの差あるのみ然れども外衣即ち袍

以外は燕服と異なれり其差異の點を下に錄す

(イ)領衣、領子、領衣は立襟あり其前後に各幅三寸餘の袷布を垂れ襟頭稍廣し恰かも半臂の前後狹少なるものに似たり、領子は左右兩端上に向ひ彎曲せる丁字形をなし垂れたる所を袍の後背に押し入れて用ゆ多くは藍色の緞を以て作り多時は毛皮を被ふ

(ロ)袍　袍に二種あり其の一は丈け三尺五寸乃至四尺五寸袖長さ二尺八九寸袖頭なるものを附す其の寛さ七寸袖口は武官三寸五分文官四寸五分とす腰圍りは四尺下裳圍りは五尺六寸乃至六尺領圍りは一尺餘にして襟頭六寸あり作り方に二樣あり(一)開襟袍卽ち前後に裂目ありて下裳四裂せるもの(二)一衰元卽ち下裳の前後に裂目なきものなり地質は多く杭紡產の紬を用ゆ裏は綿を容るゝものには紬若しくは毛皮を用ゆ

其の二は花袍之稱し其形前のものに異ならざれど表に繡花(縫箔)あり其の模樣並部は龍珠に戲るゝの狀にして下部は海紋(波形)なり袖頭にも又龍珠海水紋の縫飾あり地質は藍色緞を用ゆ前者は通常禮服に用ゐ後者卽ち花袍は朝服と稱し大禮服に用ゆ

(ハ)外掛　此は燕服の馬掛に相當するものにして其の形同一なり長さ二尺七寸乃至三尺一二寸腰圍り四尺八寸下裳四幅に分る每幅一尺三四寸乃至一尺五寸袖長二尺六寸袖口濶さ一尺乃至八寸なり地質は杭紡產紬或は無紋の緞を用ひ色は吉服には紺凶服には黑なり外掛の胸部及び背部に各一個の縫箔あり繡敵と云ふ此は方一尺の緞地に繡花を施せるものにして周圍には上方旭日及び流雲下方には海紋を模彫す中央の繡紋は文官及ひ品役の上下に從ひて異なること左の如し

王公侯伯　團龍
按察司　豸獬
文官　一品鶴　二品鶴　三品孔雀　四品雲花　五品白鷴　六品路鳥
七品鵪鶉卽ち比翼鳥　八九品鶉
武官　一品獅子　二品豹　三品豹　四品虎　五品熊　六品金牛
七品海馬

(ニ)披肩　外掛の上首の周圍に着くる肩掛樣のものなり地質は青緞にして周邊に金線にて盤湯を模し內に龍紋繡あり兩肩長さ二尺

(ホ)忠孝帶　袍上の帶にして幅一寸長さ三尺白緞を以て製す兩端に金作の勾(帽)ありて前方にて締め合す其の勾部に忠或は孝字を印す背部には左右各二條の垂布ありて其の長さ袍の下裳に達す

下半身の着裝は總て燕服と異なる所なし、因に云ふ(朝珠)と稱する飾品あり披肩の上にて首に懸け胸前に垂るゝ連珠狀のものなり其長さ二尺六寸後部は佩魚と名つくる總狀のものあり其長さ一尺二寸前左右に枝あり一方は二個、一方は一個とす、男は二個の方を左にし女は上を右にす、珠は多く琥珀を用ゆ

女子服

一、燕服卽ち常服の上半身に着するもの左の如し

(イ)兜肚　男子のものと同樣にして別に五角形を爲すものあり稍、下方に垂る色は赤藍若くは白なり

(ロ)小褂

(ハ)襖襖(小襖)綿襖(小綿襖)丈け二尺五六寸腰圍り三尺二寸下裳四尺餘袖濶さ八寸にして前者は袷後者は綿入なり其の形男子のものに同じ

(ニ)大襖　上衣にして男子の袍に當り形狀も相似たり唯だ袖濶く丈け短くして膝に至るを異にするのみ

(ホ)坎肩　男子のものと同樣にして丈け三尺餘

下半身に穿つものは左の如し

(イ)單褲　(ロ)褲　(ハ)褡帶　何れも男子のものと異ならず

一般に女子服は丈け短かく袖寬くして襖及ひ坎肩等に各種の繡飾あるを特色とす飾縫は首圍及び左襟袖口等に一列又は數列の繪紋を織り出したる布片又は縫繡を附麗し地質の色も胴下裳、首圍、袍、袖口等一樣ならず然れども上等社會に行はるゝものにして貧者の裝飾は簡易なり全衣ともに地質一樣なるもの多し

二、公服卽ち禮服の上半身に着するもの左の如し

(イ)小褂

(ロ)大襖　袖濶さ一尺二寸丈け二尺乃至二尺七寸腰圍四尺下裳四尺八寸より六尺に至る外面に龍繡あるものを花衫と名づけ婚儀の時に用ゆ

(ハ)襞衣　男子公服の外掛に相當するものにして對襟式なることも酷似し稍小なり地質は紬にして無紋の緞を用ゆ

(ニ)黼黻　男子に同じ唯だ上方旭日の紋及び左方の花のみ

(ホ)雲肩　男子の披肩に同じ

(ヘ)裙　我國の前垂様のものにて腰に卷きつく、雲肩玉帶と共に往古の衣服制なり前面は中部を正幅と稱す(寛さ一尺餘左右を馬面と稱し各縫襞を施せり各面間に縦に數條の摺襞あり後面は幅一尺八寸にして左右相聯なる上縁は左右に布紐ありて之を褌上に於て腰に卷くことを得地質は紬緞二種にして色一定せず

(ト)珠一名掛珠　男子の朝珠に同じ只記捻即ち枝は一個を左にし二個を右に垂るゝを異にせること前述の如し此の珠は太く稀に官職あるもの花衣の上に掛く

(チ)帶　玉を所々に附着せる硬帶にして花衫の上に施すものなり

以上の四品は皆な新婚の際之を裝るものとす

下半身に穿つものは單褲套褲ともに男子のものと同じく只上口少しく濶し其他は無腰に同じければ略す

小兒服

小兒は男女とも大抵前述の男女服制に從ふ左に其異なるもの一二を擧ぐ

(イ)圓嘴　涎掛にして圓形なり外縁は種々の花形をなす中央に丸き孔あり後縁に向つて裂く頭を容るゝ所なり

(ロ)散褲　褲と同じく上に紐あり兩肩に掛く陰部に相當する所は裂目あり縫ひ合はされざれば屎尿に便なり

(ハ)連脚褲　前者に同じく褲と襪子と連續するものにして背後は縦に切裂あり

(ニ)兜肚褲　兜肚と套褲とを連續せしむるものにして臀部は全く露出せしむる如く造る

四季に於ける衣服の差異を示せば左表の如し

季	春			夏			秋			冬	
節月／服種	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月
兜肚	單	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
小褂	單	同	同	同	同	葛（漆紬）	同	單（紬）	同	同	同
挾襖	袷	同	同（無）	一	一	一	一	布紬（一）	布紬	同	同
綿襖	綿	一	一	一	一	一	一	一	一	薄綿（一）	綿
袍	小毛（綿）（薄綿）綿	袷		紬布 葛 麻布 同	單	紗	紬 袷 單	薄綿		綿（小毛）	小毛 中毛
坎肩	小毛（綿）	綿	袷	單	袷紗（一）	同	同	單（袷）	袷	小毛（綿）	毛皮（綿）
馬掛	小毛（綿）	綿	袷	單（袷紗）	袷紗（一）	同	同	單（袷）	袷	小毛（綿）	毛皮（綿）
單褲	單	同	同	一	單（一）	同	單	同	同	同	同
褲	綿	袷	同（單）	單	葛紗 麻	同	麻布（紬）	袷	單（袷）	薄綿（袷）	綿
套褲	綿	同	袷（一）	單（一）	葛紗（一）	麻（一）	紗	袷（一）	同	薄綿	綿

	二月	春	夏	秋	冬
貧民	同	一	一	一	一
	同	單布	同	單	同
	同	袷布	一	袷布	一
	同	綿布（一）	一	一	厚綿
	大毛（厚綿）	一	一	一	一
	大毛（綿）	一	一	一	一
	大毛（綿）	一	一	一	一
	同	一	一	一	一
	同	袷	單	袷	綿
	同	一	一	一	一

備考　括弧は「或は」を示し「一」は「不用」の符なり

之を要するに初春は衣裏に新鼠寒羊等の小毛皮を用ゐ仲春は薄綿入暮春は袷を着す夏の初季節晩には袷早ければ單衣に更ゆ綿布と紬類の二樣あり仲夏は紗羅樣の單衣季夏には單衣にして紗葛丼に漆紬等を用ゆ漆紬とは一に暑涼紬と名つけ杭州に產する薄紬にして漆を塗りたる黑色のものにして體に粘付せざるの効あり秋の初めは紗羅等の單衣仲秋は袷衣季秋に至りては薄綿入となす冬期の初めは新鼠等小毛の類仲冬は水獺の牛毛の類嚴冬に於ては狐、貂、海龍（らつこ）等大毛

の類を用ゆ

以上は富者の衣服に就きて云へるものなるが貧者に至りては主として絹布を用ゐ防寒の爲めには適宜綿を厚薄にして入るゝなり暑に際すれば往々苧麻等祖裼(上衣を脱すること)するを見る

清國の衣服制度は元と甚だ嚴なりしかど漸次弛緩して庶民と雖も貧富に應じ上等の品質を用ゆるも妨げなきに至りぬ

○帽の種類

一、朝帽　夏用朝帽は之を凉帽又は夏帽と云ふ鈍圓錐形にして內部は籐織の胎を用ゐ裏に白絹を貼す(附圖參看)冬用朝帽は之を冬帽又は暖帽といひ羅紗にて造り環狀をなし頂は殆んど平面にして環の緣あり(附圖參看)春の暮より晩秋まで凉帽を用ゐ晩秋より暮春まで暖帽を用ゆ纓は紅絨にて造る

二、官帽又は大帽　其形質ともに朝帽に同じく唯纓は紅線を用ゆるの差あるのみ

朝帽官帽とも其中程に『頂戴』なるものを附す品位の上下に從ひ質及ひ形色を異にす卽ち一品は紅三四品は藍五六七品は白八九品は金色なり紅藍白の三色は其

の質　渠、珊瑚、寶石、水晶或は玻璃を用ゆ、金色は卽ち鍍金なり

又『翎』なるものを『頂戴』の臺に結び着け後方に垂る花翎藍翎の二等あり甲は孔雀の尾を鷲尾の內に挿むもの乙は單に鷲尾を用ゆ

朝帽官帽の原質に三種あり一は絲織、一は籐織、一は葛織にして裏は紅色の絹、紬類を用ゆ、中層たる胎は籐製なり

一、冬帽(暖帽)　其質三種あり一は毛皮にして黑猫皮黑貂皮水獺皮豺皮等にて造り一は小呢、一は絨類にて造れり其中層は厚紙(紙糊胎)にて裏面は紅絹又は紅色藍色の綿布を用ゆ

一、便帽　普通冠ふる所の帽子にして其質は綿布緞絨の三種あり其裏面は藍色の綿布を用ゆるもの最も多く或は紅色の綿布を用ゆるものあり

一、羊毛毡帽　之に二種あり一は羊毛にて製し一は駱駝の細毛を以て造れり

一、風帽　其質に呢緞の二種あり裏面は紬布毛皮等にて造り其緣邊は緞或は金線にて刺繍せり

一、女子用類帽子　三種あり其一は老年帽袖にして外面は毛皮裏面は絹或は布に

て造り紙胎あり中部は幅少しく狹く漸々廣幅となり而して再び狹小となりて尖端に終る一は昭君套と稱し外は緞にて造り繡花あり裏面は布或は絹にして其色黑藍紅雜色等種々あり一は幼年帽袖と大同小異なり而して此三種の帽は各額に當て兩耳の上を經て後頭結髮下に至り結合せらる但し幼年帽袖の其端は垂れて總をなせり

一女兒風帽　紅色の呢紬布等にて造り周邊に繡或は線あり裏は絹或は布を用ゆ

一女兒用劉海帽　環あり之より黑色の絲條を垂れ總をなす其裏は紅色の絹或は布を用ゆ

女子用の帽子には花章あり銀質鍍金玉石珍珠等を以て裝飾せり

一遮花冠

一男子便帽　大人の便帽と同形にして花章繡及後方に總を垂るゝ等の裝飾を施せり

第五章　飲食物

抑も支那に於ては地方によりて其食事の度數を異にし一日三食或は二食とす其一日二食の地方にありては第一を早飯と名づけて午前十時頃に喫し第二は晩飯と稱して午後五時頃に食す然れども早起沐櫛を終るや茶を喫し蒸餅を食するを初とし間食すること多し之を點心といふ故に實際に在ては飲食の度數不規則なりとす而して主食物として供給せらるゝものは粳麥粱蜀黍等にして或は炊きて飯となし或は粉として餅を造りて食す粳麥は多く南清地方に產したるものを用ゆ而して早食は肉類を多く用ひ晩食は淡泊なるを常とし且つ概ね酒を共にするの風あり然れども下等の賤民に至りては一飯一菜雜穀を以て製したる菓子を常食とし下等農民の如きは高粱豆粟等を常食とし車夫苦力の如きは一定の常食なく暮又は饅頭を喰ひ豆菓子を得て僅かに餓を充たす等其間雲泥の差ありて飲食の程度を詳記するに遑あらず副食物は一般に豚肉を用ひ羊山羊の肉之に次き牛肉は其需用最も稀なり僧侶は凡て肉食を爲さず農夫亦牛肉を食せすと雖も一般

の人民は肉食を嗜み殊に鳥類に在ては鷄家鴨及ひ鴨の三種を貴重し其卵子も亦之を賞味す其他沿海地方に於ては盛んに魚肉を用ひ就中鰆鯲鯖鰯鱚鰕鯉鮒鰻等は其主もなる美味とす又干鰕海參燕巢の如きは貴重の食品にして上等の食饌にあらざれば供用することなし干鰕海參は日本より輸入し蒐布椎蕈と共に貿易品の一部を成す燕巢なるものは一種の燕鳥小魚の肉を銜み津唾を以て揑ね其巢を造る爲めに海岸の巖石間に吐出したるものなりと云ふも其實を詳にせず其質半透明晒膠樣のものにして上海附近に產す遐羅國の產出を最も多しとす而して其純白なるものは殊に雪燕と稱して之を貴ふ之を食せんとするや先つ水中に浸漬し其軟柔となるを待ち附着せる汚塵を去り氷糖を以て煮熟し之を用ふ其他野菜類も亦饒多にして副食物の大半を占む菘(白菜)蕪菁萊菔(蘿蔔)胡蘿蔔甘藷蓮等は到る處大に栽培せられ葱蒜及椒の如き葷辛類も好んで之を食す而して中等以上の社會に在ては必らす數種の副食物を供ふるを例とし一般に脂膩多きものを好み或は主食物を油熬するものあり

普通清國人の食用とする食物の種類及品目左の如し

甲　動物性食品

(一)獸類　豕羊山羊牛及其乳野猪熊鹿兎等

(二)鳥類　雞鴨鴨家鴨鶩鵝雉山雉雉吐綬雉秧雞鶉鵪等

(三)魚類　鯉鯛鮪鯽鯇鯖鮐鯵鰔石魚鮒魚鰣鯖鱔鰍鯽鮒鮎鱸鰕鮫杜父魚黃鯛魚鱗鱗鳙鱧鰻鯉海鰻鮨鱧鮪牛魚河豚比目魚鮟海鷂魚飛魚烏賊章魚鮪鱈鮑鰕等

(四)介類其他　鼈蟹牡蠣蚌文蛤蜆蜆石決明鮮蛤田螺海月海參等

乙　植物性食品

(一)穀類　大麥小麥糯麥燕麥蕎麥糯粳粘稷黍蜀黍玉蜀黍粱稗薏苡等酒醋

(二)菽類　赤小豆(赤豆)綠豆白豆豌豆蠶豆豇豆鵲豆刀豆虎豆等豆腐豆醬醬油

(三)野菜類　蕪菁萊菔胡蘿蔔芋土芋薯蕷甘藷百合烏芋慈姑馬鈴薯午蒡蒟蒻土當歸蓮筍蕓薹白菜茼蒿菠薐蕪菜蒜菜東風菜苦苣芹早芹赤芹蕨水蕨薇蕨紫菜蓴睡菜胡麻大麻茄瓠瓜冬瓜南瓜越瓜黃瓜綠瓜甜瓜西瓜等

(四)海藻類　裙帶菜鹿角菜莫菜

(五)蕈類　木耳杉菌香蕈椎蕈等

丙　儲物慢食品

食鹽

牛乳は常用の食料にあらす唯富者及病者の食品にして其儘冷飲することなく必ず一二回煮沸せしめたる後飲用す而して清國に於ては輸入品の他固有の稠乳なるものなく又古來乳の製品として乳酪乳酥醍醐乳餅乳團乳線なるものありと雖も今之を造出すること殆んとなし唯一部の滿人稀に製するのみ其他漢時代に於ては馬乳を以て酒を釀したりと云ふ

貯藏法　飲食物貯藏の方法として清國人間に行はるゝもの種々あれとも要するに乾燥、燻蒸、醃藏、浸漬、氷冷、井坑冷却、窟藏の數法に外ならすとす而して肉類の貯藏には乾燥、醃藏、燻蒸、冷却の法を用ひ蔬菜類の貯藏には乾燥、浸漬、窟藏の法を用ゆるもの多し今左に二三の例を掲ク

(一)火腿　家猪の脚を鹽及花椒を以て漬すること十餘日にして取出し之を陰處に乾かし再ひ炒鹽花椒茴香桂皮等を以て數十日間淹藏し鹽分の浸透するを度と

して取出し更に陰乾せしむ一種の風味ありて一年餘を經るも變敗することなし

(二)風鷄　冬期に於て家鷄の腹部を僅かに割きて臟器を抽出し能く胸腹腔を清洗し充分に水分を去り花椒茴香炒鹽を塡充し腹劃を縫閉し氣流の良き高陰處に挂けて充分に乾燥せしむ數月間腐敗することなく其食するに方て先つ羽毛を去り塡塞物を除ひて煮熟す愛すべき風味ありとす

(三)海魚　糯飯に酒麹香油を混したるものを磁罈内に盛り其中に鱗を剝去したるものを入れ泥を以て口を封鎖す四五月間變味することなし

(四)蟹　罈内に高粱酒醬油香油及醋の和したるものを入れ其中に蟹を貯ふれば數十日間腐敗せさるのみならす其味も亦佳美なりとす

(五)鷄卵　普通米糠中に貯ふるも亦鹽水中に浸すものあり十數日を經て鹽分の浸入するに及んで食す之を鹽食とす其他辨食なるものあり柴灰石灰柏葉灰或は米糠に鹽水を和して泥狀となし之を以て厚く卵を包裹し約六十日を經過する時は淡綠灰綠色を呈して稍鹽味を帶ひ其風味愛すべしとす

調理法　清國人は一般に生食(野菜類は必ずしも然らず)及ひ冷食を好まず隨て庖厨の設備各ありと雖も殆んと悉く熟食にして脂膩濃厚なるものを嗜み凡て食饌は眼脂膩は植物油を以て煮り或は煮熟したるものゝみなりと云ふも大過なしとす其食油として用ひらるゝものは豚脂羊脂胡麻油落花生油等主なるものなり調味品としては醋豆醬醤油砂糖を用ふ此等調味品の製造法は我邦のものと大差なきが如し又韮蒜葱芥薑茴香花椒蓽椒胡椒の如き葷辛類は大に嗜好する處にして多くの供饌殆んと之を加味せざるものなし

食饌の種類甚た多し其主要なるものを掲記すれば左の如し

一燕窩羹　先づ燕窩を水にて洗ひ後ち鶏家鴨のソップにて煮たるものなり尤も上品とす

一鰒魚翅　乾沙魚翅(鱶)を温水に浸し其針(鱶骨)を擇みて鶏家鴨等のソップにて煮たるものなり

註に曰く支那にては家鴨(鴨)を鴨と云ひ鴨を野鴨と云ひ又豚を猪と云ひ猪を野猪と云ふ

一鱶魚肚　調理法は鰒魚翅と同一なり

一海參　干海參を水に浸し後ち鶏肉或は豚肉のソップにて煮之に醬油及ひ砂糖適宜を加味す

一鱶江搖柱　調理法燕窩に同じ

一清拌海蜇　下等料理にして常に多く之を用ひ又冷碟に用ふ

冷碟とは最初食卓に並置する料理を云ふ

一桂花魚翅　魚翅針を卵黄を以て炒けたるものなり

一整臥鴨　鴨の羽毛と其内臓を除去し鍋に容れ久しく煮て糜爛するに至り竹笋筍等を加へ鴨池に盛る

鴨池とは磁質の容器にて長方形長圓形の二種あり

一蝦餅　蝦の殻皮を去りて打碎し豆粉若干を加へ團子となし蒸して餅狀となしソップに投じ之を煮たるものとす

一炒肉　豚肉羊肉を薄く稍廣き面を有する樣に切り或は糸の如く細長に切り醬醋水にて煮沸て之を炒る但し炒肉には牛肉を用ひず

一東坡肉　豚肉を方形の一塊に切り半日以上數日間煮沸し醬油豆腐香料等を加へて味を附す

一肫肉　羊豚或は牛肉を長方形に切り醬油を以て煮熟し大料蓋蒜葱等を以て加味す

小方形に切りたるものを櫻桃肉と名づけ豚の腿のみを用ふるを肫肘肉と稱するものなり

一炒鷄子　鷄卵を油中に投入し炒けたるものなり

一炒蟹肉　蟹肉に鷄卵若干を加へ豚の油にて煮たるものにて醬油を以て調味す

一烹蟹腿　脂油を入れ醬油を以て烹蓋蒜少許を加へて味附す

一溜蝦仁　調理法は前者と大同小異なり

一溜魚片　魚肉を切片となし油醋醬油とを以て烹り葱蒜少許を加ふ

一肉絲　羊或は豚肉を絲狀に切り之を蒸し或は煮て醋醬油を附けて食す

一燬魚　魚の鱗及び內臟を除去し其全體を烹之に鷄のソップを加へ食す

一煮魚　魚の鱗及ひ內臟を去り油中に投じ煮たるものにて醬油酢葱蒜蓋大料花椒等を以て加味す

一炒鷄片　鷄肉を小片に切り醬油酢黃酒葱蓋竹笋等を加へ炒けたるものなり

一拌鷄絲　鷄肉を先づ水にて煮之を絲狀に切り醬油に浸し食す

一滷煮鷄　鷄の全體を鹽醬油大料花椒等を加へ煮たるものにて料理人客の面前に於て之を切片となし皿に盛り客に供す之に味噌を附して食す

一滷煮鴨　調理法前品と同し

一鴨條　整臥鴨と大同小異なり

一炸飛禽　鐵雀を油にて炸焦し醬油を附して食す

一清蒸禽　魚の鱗及ひ內臟を除去し之を大椀內に容れ醬油大料脂油黃酒等にて加味し籠に入れて蒸したるものなり

一肉丸　豚肉或は羊肉を打碎し豆粉若干を加へ之を湯中に入れて煮るときは燬丸子となるなり

一魚腐　魚の皮を去り刀碎し羅布上より水を加へて攪拌し小勺に之を盛り湯に入れて煮之に鷄のソップを調和して食す

一醬肉　醬油を以て豚肉を煮たるものなり

一香腸　豚或は鶏の腸肉に碎切したる腿肉に醤油花椒末を加へたるものを入れ其兩端を結紮し湯を以て之を煮たるものにて再ひ燻煙を以て炙り乾したるものを燕腸と名づく

一清湯鶏　鶏肉を細切し鹽醤油を加へ蒸爛したるものなり

一拌骨　肉の附着せる豚骨を醤油にて煮熟し冷して優ち食用とす

一鶏四件　鶏の心臓肝臓胃翅腿等を醤油にて煮熟し又輕く油にて炸け味噌を加味して食す

一八寶菜　麸筋竹笋紅蘿蔔栗子白菜白乾(豆腐の一種)等を醤油にて煮たるものなり

一餅魚　先づ鍋に白菜の葉と葱とを布き其上に小魚一層を置き再び菜葉を布き又其上に小魚を置き充滿するに至て止め胡麻油と醤油を注ぎ微火を以て長時間煮て製し冷して後ち之を食す

一　冬笋　新鮮なる竹笋を薄く切り鶏鴨類のソヴプにて煮醤油を以て加味す

一拌豆腐　黄豆の汁より製したるものを豆腐と名づけ緑豆の滓より製したるもの

のを麻豆腐と云ふ

貧家は鹽醋の菜類を混し之を食す

嗜好品

一茶　紅茶又は黒茶と稱するものにして一種の香味あり之を製するには採取せる茶葉を蒸熱して撮握し之を乾燥し或は又壓搾して厚き板狀となせるものあり之を喫するには單に温湯に浸出し或は煎出して用ゆ近時咖啡を喫用する者あれども清國古有の嗜好品にあらず

一酒類　其品目及び釀造方左の如し

紹興酒　粟を以て釀造したるものにして黄色透明にして微に辛酸味を帶び需用最も多く其陳舊なるを良とす

高粱酒　黍卿ち高粱を以て釀造せるものにして無色液なり强烈なる燒酎の如く嗜者に次て需用多し

玫瑰酒　高粱酒に玫瑰及び氷糖を加へ製す其味甘くして辛し需用前者に次ぐ

黄酒　淡褐色にして其味酸く且つ苦辛を帶ぶ天津の北西沽に產するもの上品

なり

佛手露金液酒　佛手柑を以て釀成せる黄色酒なり

藥酒

一五加皮酒　健者も亦之を用ゆ

一虎骨酒　虎の骨脂或は人參を加へたるものなり

一虎骨木　酒

一史國酒　紅色透明にして西人の藥房に多し

一周公百歳酒　微黄白色の液にして南省より來る人之を造る

一玉露長春酒　把菊茯苓酒　青梅酒等あり

紅米酒　糯米より釀造し味極めて甘にして粘稠ならず混成酒の原料に專ら之を用ゆ

其他酒　紅酒一名狀元紅酒　老紅酒一名老江米酒　豆酒(黑豆酒)　火酒　茴陳酒　蓮花白酒等の種類あり

一煙草　淡色菘と書す最も普ねく行はるゝ嗜好品にして小兒に至るまで喫煙せ

ざるもの稀なり其普通の煙管に用ゆるものは最も粗にして之を管煙と云ふ其他水煙鼻煙なるものあり水煙は糸狀の細線にして少しく濕潤し一種の裝置を用ひ水中を通過したる煙を吸引す鼻煙は微細の粉末にして芳香を有し指或は小匙を以て其少量を鼻穴内に吸引するものにして中等以上の社會に於て專ら使用せらるゝものとす而して貴は多く土産の物を用ゆると雖も外國産のもの亦使用せらる夫の卷貴は近時增盛んに行はるゝに至れり

吸煙の一種にして同じく盛んに行はれ其害毒の最も恐るべきものを阿片煙とす清人之を藥煙又は洋煙と名づけ阿片を洋藥と稱し暗褐色の光澤ある塊をなす一種の裝置を用ひ多くは倚臥して吸煙す成年以上の男女にして之を嗜まざるもの稀なり

清人亦阿片の害を知つて洋煙は神を傷ふと稱し其慢性中毒症を癮症と名づく面かも之を廢棄する能はず然れども亦坊間に斷癮劑戒煙藥なるものあり阿片を喫用せんと欲する一時間前に於て之を服用し七日乃至十日間に及べば漸次吸煙を思はざるに至ると云ふ戒煙丸の一種なる六味地黄丸の處法を掲げん

に茯苓三分山藥四分丹皮三分山蔘四分澤瀉三分熟地八分よりなる他のものも之と大同小異にして多くは戒煙又は斷癮の二字を有す

其他嗜好品として蕃椒丁香桂皮山葵韮葱薑等の辛香料あり

菓子

(甲) 干菓子生菓子の種類甚だ多し左に其主なるものを掲く

一松子羹　糯米粉に砂糖を加へ模型に入れて種々の形に造り蒸したるものなり

一江米條　糯米の粉に砂糖を加へ細長の形となし胡麻油にて炸けたるものなり

一元　糯米の粉を以て球形を造り内に小豆餡を入れ或は青梅山査等に白糖を加へ或は玫瑰胡桃等に紅糖を加へ其内に入れ之を蒸し又は煮或は油にて炸りたるものにて上元の節盛んに賞用す

一長元羹　小麥粉に白糖及び鷄卵を加へ鍋の中に於て紙上に攤めて之を烙き製す恰も日本のマルボーロ様のものなり

一　子羹　小麥粉に白糖鷄卵を混じて煉り模型の槽内に入れ之を炙り製す其形種々にして恰も洋風カステーラの如し

一喜字羹　外皮は小麥粉にして油を混じ内に砂糖餡を入れ福字喜字或は壽字等の模型に入れて烙て之を製す

一麵包　砂糖を加へたる麵包にして日本にて所謂菓子麵包同樣のものなり

一蘇花　小麥粉に白糖を加へて煉り半開せる花狀の形に造り蘇油を以て之を炸けたるものなり

一光頭餅　小麥粉に白糖を加へ扁圓形のものを造り烙て之を製す長元羹に類し其質少しく堅し

一蛋黃酥　小麥粉に白糖を加へ之に卵を混じ或は蛋黃を以て着色し烙きたるものなり

一馬蹄酥　小麥粉及び白糖に少許の水を加へて煉り扁圓形に燒きたるものにして一面に多量の紅糖を附着す

一羊尾桃　自來紅一名面杏

右二種のものは同質にして其形甲は桃に乙は杏に似たるものにて其外皮は小麥粉卵白糖を以て製し内に元肉糖玫瑰青梅胡桃等の一種を入れ燒きたるもの

とす

一羔干條　白色長方形にして桿狀をなし米粉及び糖にて製し蒸したるものなり

一炒唐羔　其形長方形にして稍厚くして三層よりなり其上下は小麥粉及び白糖よりなり中層は餡にして蒸したるものなり

一八珍羔　其形方形にして稍厚く上下兩層は前者に同じく中層は糖小豆餡山査玫瑰胡桃青梅元肉(卽ち荔枝紅糸の八種あり故に此の名あり

一烏龍羔　前者を折半したる如き形にして上下兩層は前者に同じく中層は餡或は紅糖よりなる

一菊花餅　佛手羔

右二種は同質にして甲は菊花乙は佛手柑に形似せるの差あるのみ麥粉より製し內に棗泥或は餡を入れて造れり

一爐桃　形桃に類し外皮は小麥粉にして內に棗泥或は小豆餡を入れ爐內にて燒きたるものなり

一三角火燒　形三角にして外皮は小麥粉にて造り內に白糖餡棗泥酥等を入れ燒

て之を製す

酥は砂糖鹽小麥粉の混合物を云ふ

一科花　形長楕圓形をなせる球狀にして糯米の粉にて製し油にて炸ぜ外面に砂糖を附着せるものなり

一百翠花　扁圓形を成し小麥粉卵白糖を以て煉り燒て之を製し一面に胡麻を附着す

一芙蓉羔　糯米に砂糖を加へ細條となし油にて炸けたるものを集め之を方形に切り上に紅糖汁を塗りたるものにて之を塗布せざるものを砂奇馬と名づくり

一鷄油餅　小麥鷄油を以て半球形の外皮を造り內に白糖を入れ燒きたるものなり

一玫乾菜餅　外皮は小麥粉にして內に玫瑰の花葉及び砂糖を混じたるものを入れ燒きたるものとす

一小燒餅　麥粉に糖を加へて造り其一面に胡麻を附着す百翠餅に同じきも只卵を混せざるに差あり

一酥糖　紅米條と同質にして胡麻を混じ其形大なり
一狀元羔　其形扁平なる方形にして豆粉に白糖を加へて造り蒸したるものなり
一高莊糖　稍厚き長方形にして五層をなし其上中下の三層は白糖卵小麥粉の混物を入れ第二第四の二層は紅砂糖及び小豆餡にして之を蒸して造る
一葦羔　米粉に砂糖を和し蒸して製す
一山査羔　形螺の如く小麥粉に糖を和し内に山査を入れ蒸したるものなり
一玉帶羔　糯米の粉に糖を加へ模型に入れ板狀となしたるものを云ふ
一月餅　之に左の三種あり
(イ)　提漿月餅　外皮は卵小麥粉白糖に少許の水を和し煉て製し内に糖餡又は少量の酥を入れ焼きたるもの
(ロ)　胡桃酥　白糖小麥粉胡麻油を混和し焼きて製したるもの
(ハ)　白皮　皮質は小麥粉にして内に棗泥或は白糖を入れ燒とき豚脂を用ゆ白皮の一種に白月餅なるものあり
月餅は中秋中元の節盛んに賞味す

一粽子　糯米の粉に棗を混じ煉て蘆葉に包み煮て製す
一花糕　三層をなし其層間に青梅山査棗等を入れ其形に大小あり小麥粉を蒸し製す
一喇嘛羔　小麥粉に鷄卵糖を和し攪拌して皿に入れ蒸したるものなり
一綠豆羔　綠豆を白糖に混じて製し扁平方形をなす
一龍鳳餅　製造法は喜字羔に同じく其形大にして龍鳳等の文字をなし婚姻式の時は多く之を用ゆ
一糕乾　形雲片羔に類し米粉及び糖を以て造る
一凉裏　糯米粉を以て外表を造り内に小豆餡或は胡麻と白糖の混物を入れ蒸したるものにて夏時多く之を用ゆ
一梅花羔　小麥粉にて造り内に糖餡を入れ槽内にて焼きたるものなり
一酥糖　種類甚だ多し左に數種を掲ぐ
(イ)　皮糖　飴の周圍に胡麻を附着したるものなり
(ロ)　大糖　飴の内に白糖と胡麻の混物を入れたるものにて皮糖と同じく棒狀

をなす

(ハ) 薄脆　砂糖を溶かして扁平となし胡麻を附着せるもの

(ニ) 糖人　砂糖を半ば溶融し人形の模型に入れ造れるもの

(ホ) 寸糖　大糖に類し内に紅糖を入るゝの差あり形江米條に似たり

(ヘ) 麻片　砂糖に胡麻を混じ溶解して扁平とせしもの

(ト) 餡糖　高莊糖に同じ

(チ) 老虎肉糖　白糖を半ば溶解し方形となせしものにして三層よりなり上層は紅色を附せる白糖中層は黑砂糖下層は白糖なり

一 粘糕　糯米粉棗糖餡の混せものを蒸したるもの

一 切糕　前者の如き混物を以て造り大塊となし價に應じ大小の切片となせるものなり

一 羹　紅色の羊羹狀物にして甘酸の味あり

(乙) 饅頭に左の數種あり

一 荷包蛋　鷄卵を殼皮より出し破壞せずして少量の食鹽を加へ油炸せしものなり

一 炸羹　糯米にて造れる團子の内に小豆餡を入れ油炸せるものにて扁圓形をなせり

一 餡沙包　楕圓球を縱切せるが如き形にして麥粉を以て造り内に小豆餡を蔵めて蒸したるものなり

一 肉包　半球樣の形にして麥粉を以て造り内に醬油を以て味附けせる豚肉及び葱韮等を蔵め蒸したるものなり

一 角子　半月形をなし一面は平一面は凸隆す麥粉にて造り内に味附けせる豚肉及び韮等を入れ蒸したるものなり

一 棗捲　扁圓長方形にして小麥粉を以て造り内に乾棗を包み蒸したるものなり

一 糖捲　扁平にして長く上に縱溝あり處々に紅糖粘附す小麥粉製にして蒸したるものなり

一 水晶包　稍大なる球根狀をなし内に豚脂の小塊及び紅糖を蔵む

一 黃金塔　黍粉にて造り薑黃を以て着色し小麥粉を加ふるものあり内に棗乾或

は小豆餡を入れ扁平半球狀物にして表面に波狀の凹凸あり蒸して饌す

一蒸餅　小麥粉製にして內に酥を入れ蒸したるものにて扁圓形をなす

一糖月餅　蒸餅と同一にして只表面に菊花狀或は其他の紋ありて內に紅糖を含む

一果子　小麥粉に明礬鹽及び重曹少許苑を加へ胡麻油にて炸げたるものにて二重に環狀をなす

一煎餅果子　外皮は白米の粉に卵を混じ內に果子を入れ鍋內にて薄廣く燒きたるものにして卷きずし樣のものなり

一糖皮果子　實質は小麥粉を以て製し其外面に小麥粉に糖と水とを加へたるものを塗り油にて炸げたるものにて扁圓形をなす

一羊肉包　半球狀をなし內に醬油鹽にて加味せる羊肉及び白菜の小切片を入れ蒸したるものなり

一肉火燒　外表は小麥粉にして內に豚肉或は羊肉に白菜を入れ燒きたるものにて形は扁平長方形をなせり

一湯火麵角　半月形をなし內部に豚肉と白菜を入れ蒸したるものにて鍋にて燒きたるものあり

一燒梅　羊肉包に類し上は開て梅花狀をなし內部は同じく肉にして籠に入れ蒸したるものなり

(丙)　干果物漬果物

一蘋菓餅　林檎を砂糖漬となし乾したるもの

一元肉　殆んど黑色を呈する皮を有する苏枝の果肉にして甘酸なり

一杏乾　茶褐色扁圓形をなし酸甘味あり

一葡萄乾　葡萄の果を乾かしたるものなり

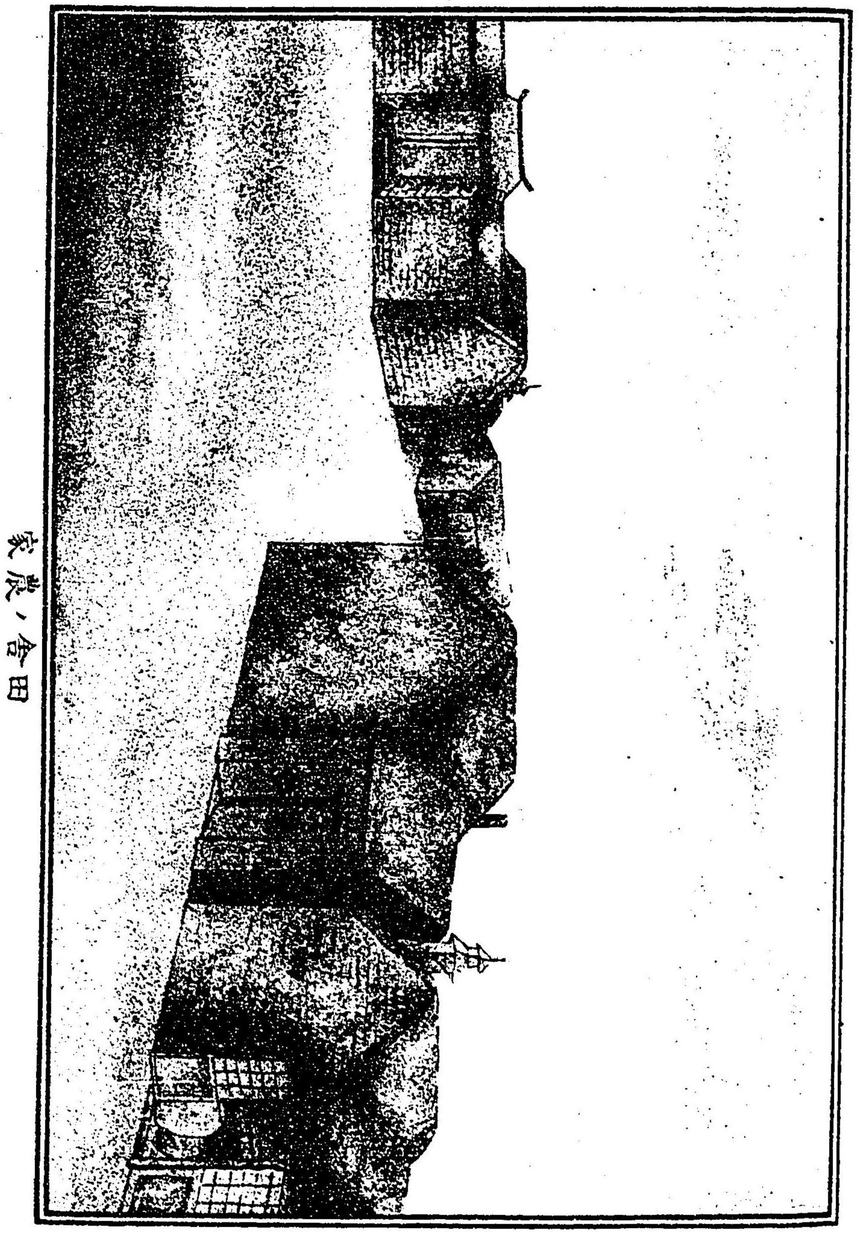
一青梅　綠色を呈し數多の切痕あり味甘くして微に酸味あり

一桃乾　扁圓にして茶褐色を呈し味甘くして微に酸味を帶び一樣の臭あり

一紅絲　橘の皮を細長に剝み紅色に染め砂糖に漬けたるものにして味苦甘にして少しく酸味あり且つ一種固有の臭あり

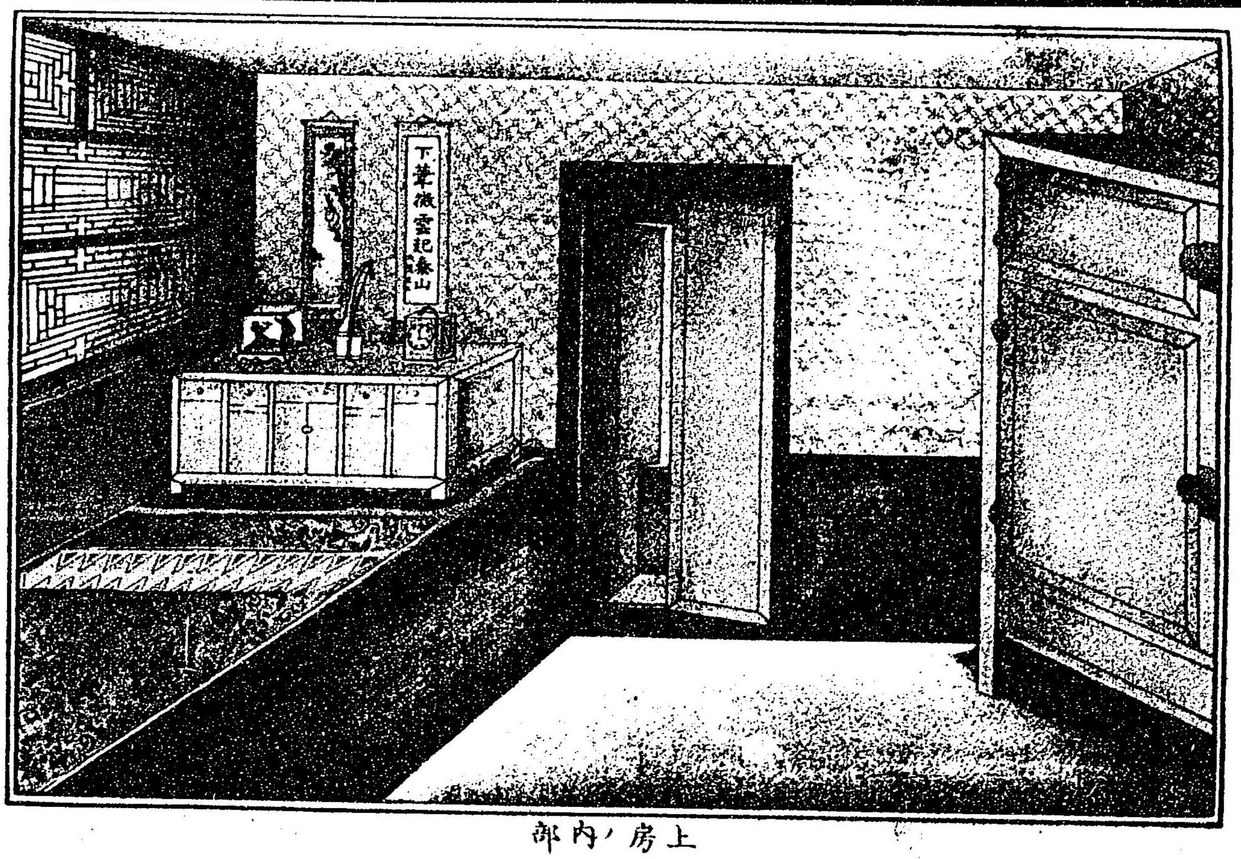
一醬花生湯子　澱丸を呈する白糖を醬花生仁に附着し大小種々の塊をなす

一胡桃仁漬子　溶解したる白糖を胡桃仁へ附着せるものなり
一瓜條　瓜肉を幅三分長二寸許に切り半ば乾燥して砂糖に漬けたるものなり
一山査　山査果を薄く横切して乾燥せしもの核を含み肉は酸味あり
一張漬子
一青梅漬子
一紅果漬子　以上三種は落花生漬子と製法同一なり
乾果子類（日常多く食用するもの）
一胡桃　核桃と云ふ胡桃實仁なり
一魁元　褐色の球狀物にして殼を去るときは内に殆んど黑色の肉を附着せる球狀核あり其味は酸澁なり
一榛子　大豆大にして黄白色を呈す
一蓮子　藕の實を乾かしたるものにて花の紅白に依り二種あり甲は小にして皮は微に青紅色を呈し乙は大にして青白色を呈す
一蘭花豆　一に酥鹽豆と名づく我邦にて單に鹽豆と稱するものなり油を以て炸

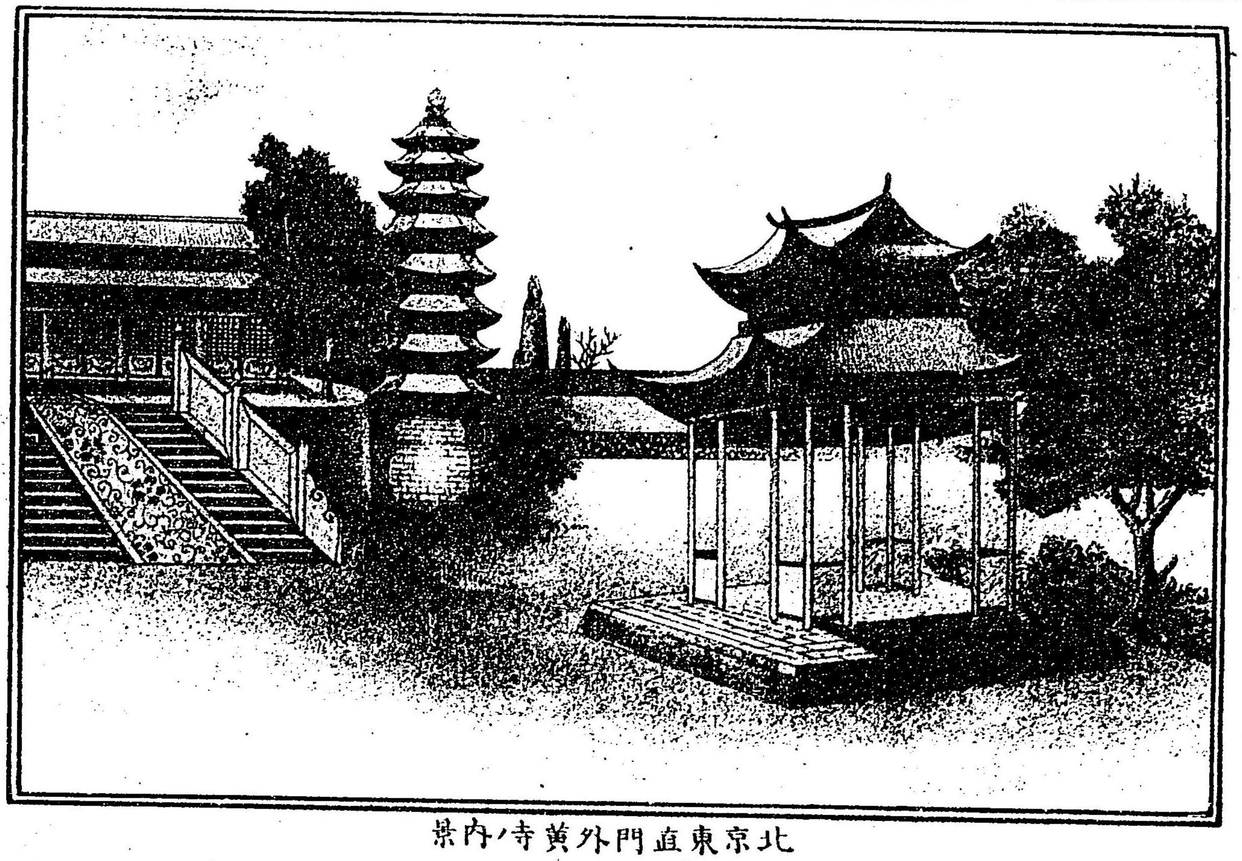


家畜ノ舍田

(代書ノ字福ニ壁照ハルハ見ハ其ノ三門屏ハ門ノ夾中) 景内ノ屋家流中

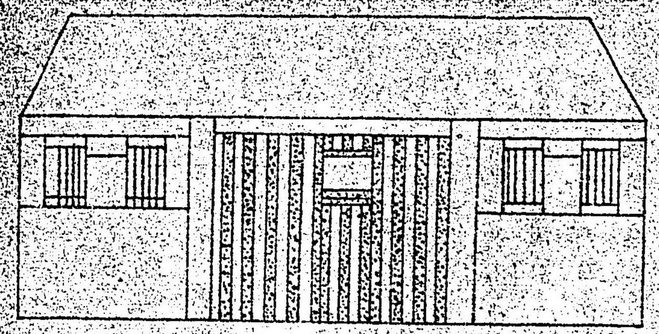


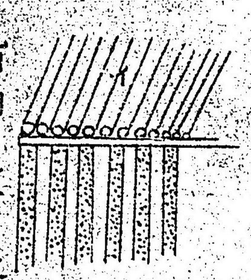
上房ノ内部



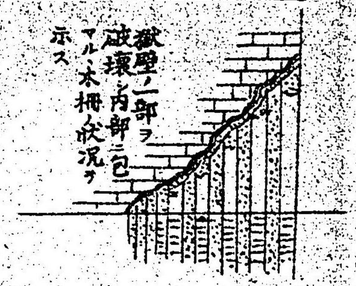
北京東直門外黃寺內景

獄屋ノ前面



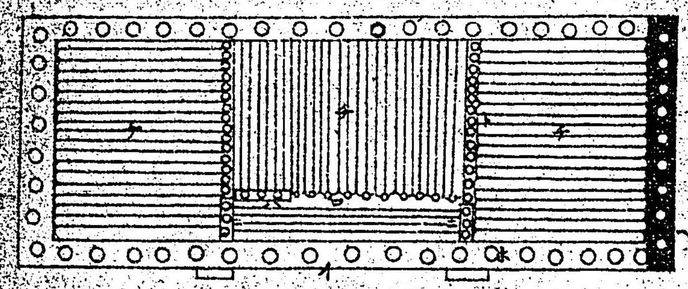


瓦肉ヲ剥キタル木骨ヲ露バシ鳥籠狀ヲナセルヲ示ス
イハ板木ニ代用セル木條



獄壁ノ一部ヲ破壞シ内部ニ包マル木柵狀況ヲ示ス

横断面



イ 入口
ロ 第二ノ縦隔柵
ハ 縦隔ノ柵ノ入口
ニ 左右室ノ入口
ホ 木條
ヘ 煉瓦ヲ以テ包ノ狀況
ト 横隔
チ 床板（木條ヲ美列セルモノ）

焦し鹹甜二種あり

一枝元　直徑一寸長徑一寸乃至一寸二三分大の心臟形物にして殼は茶褐色を呈し表面に棘あり味甘酸なり

一大扁　則ち杏仁なり

一瓜子　黑白二種あり西瓜の種子にして少量の食鹽を加へ焦して殼を去り食す

第六章　家屋

北清地方の家屋は平屋多く樓屋至て稀なり蓋し常に北洋の强風を受くること激しく又冬季は寒威凜烈にして層樓に居住を構ふること極めて困難なるに由ると云ふ然れども富貴のものに至りては其庭内に一二の二階建を設け眺望遊戯の室となすもあり二層以上の建築は僅かに城門の樓若くは鼓樓又は寺院の塔に於て之を見るのみ

家屋の構造は概ね煉瓦造木造土造の三種なり其建築式は稍廣大なる家屋は普通

中庭式にして周圍に房室を設くゝ之を四合と云ふ然るに貴賤貧富によりて其造構一ならず富者の居宅は甚だ廣大にして往々數千坪以上の地を占領し繞すに塀を以てし一二の門を設け一大邸を構成せり而して其建築は上流は瓦房式を採り中等以下は灰房式に依ると雖も多くは煉瓦造なり則ち煉瓦を疊みて肉質を造り之が壁幹となるべき柱楹には木材を使用せり蓋し北清の地たるや一般に樹木に乏しく到底木材のみを應用するの利を得る能はず之を以て支那に於ける廣漠なる原野の土は煉瓦と化し以て家屋建築に無上の利便を與へつゝあるを知るべし其煉瓦は燒方頗る不充分にして其質甚だ脆弱なり

貧民の家屋は其構造頗る簡單粗造にして我邦の田舍に見る所の堀建或は埋建と稱するものと略同一なり即ち約一尺内外の深さに地を堀り以て柱を建て之に支那内地殊に北部に於て最も多く培植する所の高粱幷に土灰を以て肉材となし其表面に土灰を塗抹す其土灰は普通地盤になるの土にして土十分石灰二分より成り之に細藁又は細刻草莖を混じ水を以て煉りたるものとす之を塗ること薄きも

の二寸より厚きは五寸餘に至る屋上は桁の高粱を密に並列し此上に土を敷設す其土は地盤の土一百斤に白灰三十斤細屑枯草三十斤の比例を以て煉りたるものなり

○家屋の配置

家屋内に於ける各棟は必ず兩口相對し其相對する房屋は殆んど同樣の構造にして窓の數及入口の位置等皆兩々相符合す此は若し對側の家屋に窓又は入口を大小同一に設けざれば其家族間常に不和にして紛議絶ずとの迷信に基くと云ふ故に家族多き廣大なる邸第に在りては各棟の配列整然として碁面の如く各棟通路ありて相交通すべし

然るに細民の住する家屋に於ては一棟一室のもの多きを以て配列なく又熱鬧なる市街に於ける商家は各家櫛比して特殊の配列なし則ち門の設けなく直に門市(店)を開けり門市の一側は賬房と名け家人は皆門市及賬房に起臥す其奥に後棧と稱する倉庫あり其中間に僅かの中庭ありて厠及厨房は其近傍に設けらる若し小店にして女子同居する時は後棧に住するを常とするも多くは家眷を他の住宅に置き店には番頭以下の男兒のみ之に住す

造家法に就て左に其概要を記述すべし

○地礎

地礎の形狀は一般方形にして其廣狹は貧富の度及周圍の關係により素より一ならずと雖も決して不正形を爲すものなし假令正方形を爲さゞるも長方形若くは大なる方形地の一部に小なる方形地を接合したるものなり

地礎は其家屋の柱を建つる部分のみ鐵板にて地を打ち固め建築せんとする家屋に相當する部分は僅かに高く且つ平坦となし石又は瓦を以て小階段を作る富家に於ては室外の地床は煉瓦又は瓦を敷き土地の傾斜する所は其高き部分に屋室を造り低き部分に門を建つるを一般の風となすが如し

○柱

柱桷は悉く圓きを以て普通とす其方形なるものは勅建の寺院若くは官邸廟等に於て稀に之を見るのみ然るに柱を用ふるや一般甚だ少なく普通中等以下に在りては一棟僅かに數本を用ふるに過ぎず

○屋蓋

屋蓋は桷を併置したる上に高粱稈の直徑三四寸に束ねたるものを横に配列し其

上に土を塗り瓦を葺くを通例とす左れど細民に至りては只高粱稈上土を塗るのみにて瓦を用ひず

屋蓋の勾配は甚だ急なるもの尠なく普通は大概緩なり殊に細民の家屋にして瓦を用ひざるものにありては勾配殆んど之なく平坦に近きものあり其平坦のものは周邊を少しく高くし一隅に排水口を設く

瓦の葺方は種々あれども一列は伏せ一列は仰向け交々配列せらるゝを普通とす而して中央をセメントにて塗り兩端に瓦を葺くものを三行瓦四行瓦と名く

屋蓋の形狀種々あり屋上平坦にして勾配殆んど無きものを平頂と云ふ普通の屋根にして八狀をなすものを起脊と稱す⋀⋀形をなし起脊二個聯接せるを兩起脊と云ふ前壁磚を以てし板を以て覆はるゝものを實簷(前實簷)とし前椽突出せざるものを椽簷と稱す

○壁

壁は粘土或は煉瓦を以て作り其内面は多く薄き壁紙を貼り或は白堊を塗るものあり各房の中隔は往々板を以て墻壁となす之に壁紙を塗りたるもあり細民又は

田家に在りては高粱稈を三四寸の厚さに配列して下地となし其上に二三寸に切りたる高粱の稈を泥土に混じたるものを塗り以て壁となす

○天井

天井は概ね高しと雖も細民及田舎の家屋は全體の構造矮小なるを以て隨て天井も又低きを常とす而して家根裏は大厦にありても多く板を用ひず高粱稈を以て方尺計りの井字格子を編み之を適宜の位置に糸條を以て家根裏より釣垂し之に巾狹き紙片を卷き附け其上に紙を數層にも貼附し更に其上に壁紙を貼りて天井となす又蘭席にて天井を作るもあり

○床

床は多くは土床なれども富豪のもの又中等以上のものにありては地盤より僅々隔りたる所に床板を設く或は煉瓦の平板を配列して地盤を覆ふもの少しとせず是支那の俗常に平座せざるが故に室房の床を低くして出入を便にせるなり

兩棟相並びて六間乃至十四間の大堂をなし其屋根多くは兩起脊を爲したるものを兩捲と稱し兩捲の更に大なるものを三捲となし屋蓋は同一にして變形なきも

一室にして其前方更に前柱より約四尺を前方に擴げたるものを前出一廊と云ふ後出一廊とは前出一廊に同じく室の後部約四尺後方に擴張せらるゝものを云ふなり

明三暗五とは五室相合せ一棟を爲すものにして中央の一室に外出口を有するを云ひ一明兩暗とは一棟に三室相併列するを云ひ裏外間とは二室相聯りて其一室に出入口を有するものなり此類の家屋農家に多し獨間とは一室にして一口なるものを云ふ

○門

門の構造に種々あり隨て其名稱を異にす則ち左の如し

虎坐門　多くは瓦屋の家の外門にして西方に門框を建て上に楣(横木)下に扶(門の敷居)あり上部には磚を以て美麗細密なる裝飾を施し其上に屋根あり前後に突出す富家の門は多くは此虎坐門とす凡て支那家屋の門は扶(門の敷居)甚だ高くして七八寸の高きに至るものあり爲めに出入甚だ不便なり

廣亮大門　其構造虎坐門に似て稍大なり屋裏天井を有し扶は閾の如く取除く

ことを得るなり

大夫門　上記のものに似て門柱の頭露出するものなり坎は自由に取除け得べし

一字牆　上に頂屋なきものなり一字牆起樓式なるものは前方に屋根を有す上に一枚の大なる板を置き其上に瓦を美麗に花形様に疊出せるものなり

以上門は多くは瓦房に用ゆるの式なれども偶々灰房(卽ち土家)に用ひらるゝことあり

板牆　板を以て作られたる塀に用ゆ此式は灰瓦房屋共に用ゆ

八字門　門塀壁前に擴開して轎車の出入に便にし瓦房に多く用ゆ

籬把　高粱稈又は地の樹枝にて造り土房に用ひらる所謂籬門是なり

右は皆外門にして內門には左の種類あり

月門　門扉なく其門形圓形にして磚にて造れり

鐮門(又圭門)　上部は圓形にして下部は方形をなし磚にて疊めり

角門　上部の兩角缺けたるものにて多くは磚にて疊む

六角門　上下の兩隅を缺き卽ち六角形をなせるものを云ふ

過道　天井ありて且つ長きものなり恰も門屋の如し

外門の框の下部兩側に石礎あり之を門枕と名く其大小不同にして其高さ一尺乃至一尺五寸巾七八寸より一尺一二寸其前後徑一尺より一尺七八寸のもの多し方圓又は鼓の如き形をなし猊形又は猊頭をなすもの多し

門枕の前方約一二迷突の處に二段をなせる方形の一大石を置きたるものあり之を上馬石又は下馬石と名く六品以上の官家に此設けあり

大門(外門)以內にあるを重門又は二重門と云ひ大門の傍に門あるを便門と名く

○門扉

門扉は厚き木板を以て作り大門は多く二瓣なれども二道門は四瓣門のもの多し二瓣扉は官衙又は寺院上門に之あり其他扉は皆內方に向て開かるゝ蝶番を有す中には左右に退開するものあり其四瓣のものは左右各二瓣にして此二瓣各內方に開く蝶番あり佛壇の扉の如し扉は皆茶褐色或は黃褐色のペンキにて塗り◆字又は紅紙に種々なる吉語の聯句を書したるものを貼布し又左右二瓣の扉の外面に開張の畫像を畫きたるものあり又門框にも此種の吉語を貼す而して稀には戶

扉の外面を鐵板にて被包したるものあり之を風火牆と名け盜火の虞に供ふ

○門と主房との關係

主房北に在り門南に向ふものを離門と名く即ち北又は東を上位の房となし賓客の房に充つ又主房南にあり北向きのものを坎門となし南又は東位の房を上位とし西に向ふ門を兌門と名け東北又は西北を以て主房となす門東に向ふ時は北或は南を上房となす

溝渠は必らず門の左側に設け右側に設くるを白虎不吉と稱して忌む又門側の墻壁は左長きを可とし右長きを忌むの風あり

○屋内各部の情況

門房　大門の兩側或は一側に於て通路に向ひ扉を有する室を云ふ房衙門番此處に居住して門の開閉を司る支那の習俗として門扉は常に閉鎖す故に來訪者は門番に通じ家主の許を得て初めて開門するなり

倒坐　門の一側に在り通路に向て扉なく裏面に戸扉を有する室を云ふ跨院なきもの此室を書房又は賬房に充て客廳なき家は此處を以て接待室に代用す

過堂　前廳又は廂房にあり堂屋を經て跨院又は內宅に通行すべき一室を云ふ此室には必らず屏蔽又は門扉と名くる隔障あり其後側を經て他區に通行す

遊廊　屋根の下線に欄杆ありて門扉なく通行すべき廊下を云ふ

穿廊　遊廊の如くにして直ちに前後左右にある諸室に至るべき場所なり

主房(所謂上房)　他室に比すれば廣く且つ高くして最奥にあり三室或は五室に區分せられ左右の室は主人主婦の起居に供し中央の一室には佛壇を設けて之を祭れり

廂房　主房の左右直角に設けられたる附屬室にして家事を辨理し或は朋友の來あれば此室に導きて談話し或は饗應等に用ひらる或は分家或は子弟の長ゼるもの等多くは此室に起居す

主房及廂房は各內部に炕を有し屋內の造構奢侈を極め裝飾又書美を盡せり

客廳(一に花廳と名く)　來賓を請て面會し或は茶果飲食等の饗應を爲す室にして一家の正堂と稱すべき所なり隨て此房內は最も注意して裝飾せり若し此室にして他人通行し得べきものなれば之を過廳と名く

耳房、廂房又は客廳の兩側にあり奴僕此處に起居す

涼廳　四面に窓あり紗を張れるを云ふ富豪にあらざれば其設けなし

玻璃廳、涼廳にして玻璃窓なり

挿屏　門と客廳との間に在る木製の目隠しにして其前面には鴻禧又は福字を大書せり

棟屏　客廳と内宅との間にあり木屏にして一に之を内宅牆と云ふ是れ又目隠しなり

天棚、内宅の中庭若くは客廳と門との間にある中庭には高く日覆を設く之を天棚と云ふ暑日の酷熱を避けんが爲なり

明一壁　寺廟官家の大門前にある土壁にして門に對して建てり

影壁　土壁にして門内に在り此設けなきものは所謂挿屏を置けり

貧民の家屋は廂房に相對せる一屋を磨房と稱し大なる臼を据へ穀物を粉にし或は百姓の業務を營むの用に供す而して其中央に於ける敷地の空間は之を場院と稱へ穀物を乾し或は之を積む等收穫物を處理するに樞要の場所なり此場院の地

盤は精土を以て固め平坦なる石の如き觀を呈するもの多し而して上房の後邊に柴棚を有するものあり柴棚とは草柴等の燃料を貯ふるの納屋にして其他碾房性々棚なるものあり碾房とは磨房の大なるものにて驢馬或は牛を使用して臼を曳かしめ高粱の實或は其他の穀類を貯藏する處を云ひ家畜を飼養する場所を性々棚と云ふ此棚の内には別に著しき裝置なく粗柱を建て、家畜を繫ぎ或は簡單なる區劃を設けあるのみ蓋し家畜は一般に柔順なるが爲めに必しも繫留することなく所謂飼放しの狀なり馬糧を容るゝの器は漆喰製の箱にして就れも數匹を飼養するに足れり

支那人は一般に豚を飼養するの風あり殊に田舍に於て然りとす支那にては豚を猪と稱へ之を飼養する場所を猪舍と名く猪舍は場院又は性々棚の近傍に設け多くは高粱と泥土にて作りたる圓筒形の泥屋にして一の入口あり夏季にありては只高粱を以て地を圍繞せるのみ

○墻壁

富人の墻壁を築くや初め先づ床下の地盤を固むるが爲めに地を堀りて深さ三尺

市三尺に至るの溝を作り其堀上げたる土七分に石灰三分を加へたる混土を以て再び其溝を埋むること約一尺に至り太き木棍を以て之を打ち均し所謂地衝を行ふ此の如くして土を埋むること一尺に及ぶや更に此法を以て尚ほ埋め固むること又一尺に至り都合二尺の厚さを固めて上邊に一尺を餘すに至らしむ此に於て更に水滴を散じ搗きて平坦となしたる後こゝに煉瓦の並列を始む其並列終るや漸々此上に煉瓦を疊積し低きは七八尺より高きは一丈四五尺に及び其厚さ約一尺乃至一尺二三寸に至る墻壁の頂上は石灰泥土を用ひて鈍圓となし或は煉瓦を縱に相向はしめて尖頂を作り或は種々の紋形を有せしめ諸種の間透を作る或は七寶形或は十字形等其形狀一ならず而して中等の人民は棟と棟との間に於て房後壁を連ねて圍墻を作れり

細民の墻壁は高粱を骨とし泥土を塗りて作り或は泥瓦石を縱横に疊積し其表面に粘土と細刻せる藁とを混じたる煉泥を塗り墻の頂邊は多く鈍圓となせり

○庖厨

庖厨は廂房の一部に之を設け或は上房の一側に少房を建てゝ之に充て厨内には

食器棚竈火爐水瓶米櫃等を配置し竈は煉瓦を以て作り或は泥土を以て作れるもあり其形扁平方形にして燃燒口は比較的に小さく其火口に戸扉を有せず其鍋盞は圓形にして竈の全體に比すれば太だ小なるを以て火力强きが如し煙筒は火口の反對側の上部に設置せられ火煙は此煙筒に由りて屋上に排出し或は炕内に傳達す」富豪家の厨房は庖厨の床下を深く堀り下げて窖室を作り飲食并に果物の貯藏室となす其内面は煉瓦にて作り其深きものは内部に下りて直立歩行をなし得べく淺きは僅かに上半身を屈して事を辨じ得べし窖の天上は厨房の床板或は磚石盤にして疣れも堅固なる下梁を以て支持せられ窖の入口は板を以て被蓋となし其被蓋は蝶番に依りて開閉し四五の石階を下りて窖内に達すべし

其他富豪の民は數多の家族を有し其少きは四五十人より多きは百五六十人已上に至るものあり隨て多量の材料を要し殊に水の如きは其主要なるものなるを以て庖厨の近傍に井戸を設けあるを見る

然るに中等以下の勞働者にありては居宅に炊爨をなすもの稀にして多くは道路に販賣せる餅類を食し或は粥汁或は雜きたる麵包の類を以て三食を辨じ又或も

のは朝晝の二食を屋外に併じ晩食を殊に飯店に於てし或は居宅に於てするものあり故に彼等の庖厨にありては頗る單純にして一二の鍋と其他雜具を備ふるに過きず

○浴室

各戸とも浴室を設くるもの殆んどなし唯だ稀に富者の家に於て之を見る其浴槽は長楕圓形の木槽にして深さ僅かに一尺五六寸に止まり巾廣くして一方の邊椽少しく高し而して湯は他の釜より移し取りて浴するものとす

市に於て往々洗湯の設けあり其浴槽は甚だ廣くして約二迷突許りなり方形に磚を以て疊み其深さ約二尺の浴池を設く槽の邊椽は廣く且つ高くして其周圍は溝をなせり而して其浴室は戸扉を設けて蒸氣浴を兼ぬるが如き構造なり別に上り湯の設けなく又桶の備へなし然るに脫衣場には浴水を沸したる火力を利用して之を床下に導き以て其室を煖む元來清人は沐浴を厭ひ暑中と雖も僅かに數日間に一回身體を洗拭するに過ぎざるもの多きが如し

○煖室法

煖室の方法は普通炕を用ゆ炕は多く窓を有する室側に設けらる先づ地を徑二尺深さ一尺の圓形に堀り此上に磚又は坯を疊積し中に三四の火道を作り其外表をセメント或は石灰土にて塗れり炕の高さは一尺六七寸にして室の一壁より他の對壁に亘れり其巾不同なるも約五尺位にして六七尺を超ゆるものなし廣き寢臺の狀をなし其遊離椽は必ず丁木を箝入す之を炕簷と名く火口は小形にして炕簷の下部の中央又は其一隅に設け或は室外に設くるものあり炕の上面は平坦にして其上に蓆席を敷き此に起臥す

炕の燃料は多く高粱の稈を用ひ日暮一回燃燒すれば翌朝に迄炕全部に溫熱を保ち得るなり

其他磚爐鐵銅爐洋形煖爐あり磚爐は貧家に用ひ鐵銅爐と共に其燃料は無煙炭なり洋煖爐は二百年前開平より煤炭を發堀せし頃より土人已に之を用ひ主として客廳に据置せり農家に在りては竹籠製の大盆を應用し木炭或は高粱の殼皮を燃料となす

○換氣

普通の家屋には別段の裝置なしと雖も諸官衙并に大家屋にして多人數の集合する場所には窓牖の上方に漏斗形の換氣槽を設け或は室内天井の四隅に圓孔を作り以て換氣を計れるものあり

○照光

窓牖は唯室の一側に設けられたるのみなれば晝間と雖も室内薄暗し而して夜間の照光には現今廣く煤油(石炭油)を應用せり其他照光料として洋蠟、洋油、素蠟、果子油(落花生油)、蘇子油、白油(大麻子油)、麻油(胡麻油)、蒼耳油、棉油等あり素蠟は其色青綠色にして龍の如きを彫刻し神佛用となす

燈器は煤油燭式、普通煤油燈式、洋油燭臺(三元燭臺とも云ふ)蘇子油燈、洋燭臺式(一に三明子と名く)掛洋燭臺等あり煤油燭式は火屋なき蠟燭用かんてらにして貧家に於て之を用ふ普通煤油燈式はランプにして臺あるもあり然らざるもあり種々其形狀を異にす蘇子油燈は其製銅鍋瓦等の各種ありて即ち燈臺なり掛洋燭臺は數本の燭を同時に焚し得るものにて富家に用ふ

○厠圊

支那人は兩便の排泄に其場所を擇ばず被尊の多くは全く道路に於て之を辨じ宛がら之を常態と見做して毫も憚るの色なし殊に普通人民の多くは道路を以て汚物を放棄するの場所と心得居れるに似たり中等以上の住民にありては幾分かこれの威儀を保つべき事を辨へ居宅内に便所を設け居れり之を名けて中厠と云ふ中厠は多く上房に近く或は厨房の附近に設け又或るものは上房と廂房との間に於て煉瓦を疊みて狹き方形の空所を作りて便所となし或は屋側に造れるものあり

便所の構造は普通間口四尺奥行一間半餘の長方屋を作り煉瓦を以て之を壘む糞窖は此屋内地盤の中央に設けられ其形長方形にして長徑二尺四寸短徑八尺を算し其深さ大抵二尺となす其最も深きものと雖も三尺を超ゆるもの殆んど稀なり窖の周邊并に底面は悉く煉瓦を壘み或は其内面を石灰土壓を以て塗れるものあり溺槽は通常此屋外の一隅に設置せられ大なる壺或は木桶を用ゆ

富家に於ては婦人の便所は別に之を設く則ち糞箱と名くる便器(朱塗の平なる圓槽)を置き之に腰を接して排便す女子は纏足なるを以て蹲踞し難はざるに由る

也此糞箒は病者に非ざれば居室に於て用ひず而して毎回必ず排便後には灰を糞上に散布す尿器は磁製の尿盆を用ゆるもの多く或は木製の尿筒を用ゆ是等は晝夜を問はず多く室内に置き用に充つ又別に一種の便椅(榫と名く)あり其形狀は卓子狀にして上面は後面と通じて半圓形に孔を設け尻を座するに供し左右兩緣には稍高き扶手(肱かけ)を設く此便椅は病者及老人の排便時に厠内に於て用ゆるものなりと云ふ清國民にありては泰西人の如く大小便を別に排泄する習慣なるを以て此便器を用ひ得るなり

此等の設備は中等と上等富豪者の内に於て最も完全なるものあり

○方位

古來支那國民は上下押しなべて彼の易に所謂風水の說なるものを迷信し未來の吉祥と好運とは風水說を遵守することによりて招き得べく又之に由りて將に來らんとする災害をも免れ得べしとの妄想に充たされ居るは眞に一驚を喫せざるを得ず

彼等の家を建んとするや先づ風水先生(我國易學者中の方位考家)に就て卜筮を乞ひ其方位を撰びて後ち室を作り之に座を設く又甚だ鄭重を極む其他人の生まるゝや臥位を撰び病むや寢位を撰び其死するや枕位を撰び葬むるや墓位を撰ぶなど其類枚擧に遑あらず而して支那人は一般に北向きを忌むの癖あり是れ北は陰にして幽なるに由ると云ふ

○官衙

官衙の構造は富豪の家屋に同じく木石造を以てせるもの多く其結構頗る宏大美麗にして恰も我國の寺院に似たり其瓦より柱壁に至るまで種々の彩色を施し殊に門扉照壁には諸多の動物を畫き或は佛像を彫刻せり

衙門に入るや其最外部は煉瓦を以て高く築かれたる樓門を有す樓は層樓にして扁額を掲げ題して某衙門と云ふ樓上の四壁は煉瓦の壁より成り煉瓦を以て作りたる欄杆を以て圍繞せる廊架を以てし廊架は階に依りて更に上棟に連り前後の二面に製扉を有せり上樓は四邊隔扁を有し内部に衙門神を祭れり此は土にて作りたる神像なり名づけて泥神と云ふ四邊の檐は吊すに鐘を以てし樓の下部は煉瓦石を以て堅固に疊積せられたる基脚を有し中央は壁遣狀に穿たる此穿道は即

ち通路なり縣にありては此樓門を名づけて縣閣と云ふ此樓門は衙門と直角の位置にあり

衙門の入口には厚くして大なる煉瓦壁を建つ是卽照壁にして畫くに麒麟獅子孔雀鹿虎鶴龍等の禽獸を以てし照壁の左右に渡りて木柵を有し左右の木柵相對するの中央に於て木造の門を有せり此門は更に中大兩小の三門を形造る名けて東西の轅門と云ふ轅門內は照壁內面の中央より敷かれたる廣き磚道と交叉せる磚道あり其廣き磚道は最初の門に導かるゝ通路なり通路の門に接せんとする所左右に方形の平房を見る之を皷手樓と稱し大官の出入あらば此處に樂を奏し以て送迎の儀を行ふ

初めの門は之を大門或は儀門と稱へ大なる棟を以て造られ高大なる數條の圓柱を有し右左中の三門に區畫せられ左右の兩門を東角門西角門と云ひ中央の者を殊に儀門と云ふ小門扉には多量の鉢を裝附し或は神佛の像を畫き毒丹を以て色彩せられ壯麗を極む其門下の庭面は平なる瓦を敷き天井には數多の扁額を掲ぐ大門は其兩緣に壁を有し之が延びて圍墻となり全衙門を圍繞する墻壁となれり

大門を入るや再び通路に依りて第二の門に至る此門又左右中の三門を形造り左右の二門を東左門西右門と名つけ中央を二門と云ふ而して此三門を總稱して普通二門と稱ふ或人は之を儀門とも云へり其門扉幷に門內の景況大門に同じ

二門を入るや更に通路によりて大なる一の堂に達すべし之を大堂と云ひ所謂官廳なり廳は石階に依りて高く築かる其中央を煖閣と稱し高等官吏の控ゆる所にして其左右を庫房となす所謂緊要の書類を藏し或は金櫃を收む其構造全く石造なり左右相對して緊密なる門扉を有す

大堂には此堂を貫く所の所謂穿堂門を有し之を出つるや再び通路によりて又一の堂に達すべし之を二堂と稱す二堂は大堂に比して高く築かれ中及び左右に各三室を分つ中央を中堂と稱へ所謂正堂なるべし左を知賓房とし所謂知賓を請ふ所にして右を幕友房と稱へ幕友相會する所とす共に高等官吏の爲めに造る所なり此知賓幕友兩房の兩邊には更に一房を有す右を前稿と云ひ左を後稿と云ふ長官或は來賓の出入に際し其前後を護衛する所の護衛兵茲に控ゆるなり

二堂を貫通して石階を下れば廣き空地あり又此處に一の門あり之を密門と云ふ

宅門を出れば卽ち院子にてし宅門より內部は官宅なり卽ち左に內賬房右に書房中央に客廳ありて客廳を出れば左右の兩廂房廚房下房柴棚中廚等の數棟ありて上房は最奥深き所にあり

次に通路に並行して左右に建られたる平房は悉く役人の室にして先づ平門を入りて二門に達するの間左右にある平房は之を班房と稱へ小役人の居室なり左右共に四室を有し全數八室とす先づ右より之を揭れば第一を頭壯班第二を頭皂班第三を頭快班第四を鹽丁班となし左の者は第一を二壯班第二を二皂班第三を二快班第四を捕班となす斯の如く各房に頭二の區別を爲せるは每一ヶ月間上半日と下半日とによりて小役人が右或は左に轉じて事務を執るの制あるが爲め上半日間事務を執るの室には頭を冠せしめ下半日間の執務には二字を冠せるなり然れども鹽丁班并に捕班は常に轉移することなし

二門の兩側に於て各一の平房あり人民の控所にして所謂號房と名くるものなり」二門より大道に至る間左右に建られたる長屋は之を科房と稱へ多く書吏の控ゆる所なり今之を區別する時は先づ向て右にあるものは第一を戶禮科と云ひ第二

を漕糧房第三を鹽房第四を禮房第五を戶南科第六を戶中科第七を戶北科とし向つて左は第一を月報房第二を工房第三を刑南房第四を刑北房第五を兵房第六を吏房第七を招房第八を檢房第九を號房となす卽ち合計十五房なり號房は人民の控所にして呼出に應じて大堂に至る所とす

大堂と二堂との間に於て又左右に平房あり先づ右のものよりすれば第一を門政房第二を辨差房第三を戶田幕室第四を幕友房第五を簽押房第六を東花廳とし向て左のものは第一を刑俄幕室第二を雜務幕室第三を知賓房第四を西花廳となす

二堂に於て知賓房及幕友房を有せるは上述せる如く殊に高等官吏の爲めに設けたるものにして左右の細長房に於けるものは普通官吏の爲めに作りたるものなり

以上の建物は既に上述せるが如く大門より延びたる墻壁を以て圍まれ更に此墻壁の左右に於て又數個の建物を有せり卽ち其右にありて稍小なる墻壁の內部に六個の平房あり其最も南に建られたるものは主稿批稟幕室と稱し東に當り直角に建らるゝものは之を跟役廳差と云ひ又其橫にあるものは書房と名つけ衙門緊

要の書類を藏する所なり之と相並びて並行せるものを服房となし之に直角に建てらるゝものを雜務服房と云ひ再び横徑に建らるゝもの之を委員發審所となす以上の建物は大堂と客廳に相應する部分に於て壁を貫きて相通じ更に委員發審所の後方に於て一門を有し街路に通ず

左にありては二堂に相應する部分の壁を穿ちて廻廊に由り花園内の大花廳に通ず大花廳の前面は即ち大花園にして富豪の花園と始んど同一なり

後方の官舍に居住する官吏の家族は上房の後方に於て後門を有し此後門より街路に交通す

○學校

支那在來の學校なるものは恰も富人が有せる所の花廳に同じき大なる堂を以て教場とす教場は廊に依りて相連なる然るに曾て日本に於て行はれたる寺子屋流の書院なるものは現今の支那に於て最も多く行はるゝを見る此書院たるや無論私立のものにして教師は自己の邸宅内にある一の廣き堂を以て之に充つるあり或は廂房を利用して教場となせる等ありて頗る不規則のものとす

晩今稍洋風の建築法を輸入せし以來清歐折衷の建築法に依り其教室の配置法は亦た洋風に習へり然りと雖も彼の蛾屋式の如きは之を用ゆることなくして主として近心式に由れり近心式中にても線屋式を取らずして彼の將軍ワウパンが兵營の建築に初めて行ひたりし如き方屋式を取れり其方屋式とは廣庭を圍すに層樓を以てしたるものにて吾人衛生家の最も嫌惡する所なり

天津に於ける北洋大學等の如きは實に此方屋式を學べり然れども其長側の兩邊即ち中庭に接する側并に外邊に對する側に步廊を作りて西班式を應用せるは光線及空氣を通ずる點に於ては寧ろ完全なるに近からん即ち各邊の内外兩側に步廊を作り内廊は外廊よりも廣くして數條の柱と欄杆に由りて内庭に對し外廊は各邊の長徑に並行して全家屋を一周せり

構造の材料は瓦石を第一とし木材は僅に柱として使用せらるゝに過ぎず床の高さは地上約三迷突にして是より三層の樓屋を築き階段は内廊の四隅と中央とにあり各室の隔壁は煉瓦を以てし内外兩廊に對する壁は窓を穿ちたる煉瓦壁より成る室の入口は内壁に對して設けられ又外廊に對しては入口と同樣の開口を有

せり四隅にある四教室は其入口を隣室に向けて設け直接の入口なし
全建物の床下に於ては地中を堀り下げ厚き煉瓦壁を畳みて穴庫の狀をなせり學
堂内に於ける炊事場幷に便所小使室等は此所に設けらる
方屋の後方に多少の空地あり右邊に倉庫を有し左邊には壁の一部を開きて入口
を作り其入口に接して門房あり
更に其後方は教師或は堂長卽堂總辨の居宅にして花廳下房中廚あり進みて左右
には廂房中央に上房ありて教師此處に起居す上房の兩側には柴棚及厨房あり此
居宅の家族は學堂の後方左側に開口せる門に由りて出入をなす而して其居宅は
一の墻壁に由りて圍まれ學堂の後壁に連接す

○病院

所謂養病院は宣教師之を建てゝ布教の一手段をなすあり或は地方有志家の彼の
因果應報的慈善心に由りて成立するものあり天津に於ては李鴻章が建てたる養
病院と洋人の設立に係る嬰孩醫院あり
其建築法は學校に同じく歩廊を有せる方屋式にして平房なり歩廊は内廊のみを

有し外廊を有せず内廊は學校に同じく柱と欄杆を有して内庭に接し庭内には事
務に要する二個の棟を前後に並列し病室の後方には院長或は職員の居宅を有せ
り
其構造は木石造にして全房屋を數多に區畫し上中下の三階級となし上等室は一
室を一患者に充て中等室は更に二分して之に各一人を入るべく下等室は細長な
る一室に數名を入るゝの設けにして上等室十個中等室十六個下等室二個より成
れり
中庭の中央に二個の平房あり一は過堂と稱へ庶務室藥室醫員室あり一は腰房と
稱へ患者炊事場なり病室の外方幷に兩外側に於て各二個の平房あり一の壁を以
て入口を畫せり之を患者の厠圊となす

○兵營

兵營は營房と稱へ其周圍に高き厚壁を築き其壁の前後兩面と左右の側面に各一
個の門あり之を東門西門南門北門と云ひ或は之を東西南北の營門と云ふ各門は
壁より突出せる正立方形の疊瓦門にして各壁の中央にあり

兵舍は墻壁内部に於て中央と其四邊とに規則正しく建てられ通路によりて各房に達す

外營門を入るや前營門の近傍に二個の連屋あり之を演武廳と云ふ廳は恰も我國に於ける風紀衛兵所に酷似せるものなり

演武廳と營門との間には煉瓦石を以て高く築かれたる方壇ありて營長の名を書せる營旗高く此上に建つ之を扞壇と云ふ

墻壁は厚さ約五尺高二丈を有し營門のみは煉瓦よりなるも他は粘土を以て築造せるものあり墻壁の上端は凸凹狀をなし營門の上面は平板狀の廣地を成せり

兵舍は孰れも平屋にして之を哨と稱へ總數五哨を有す即ち中央の一哨及四隅の四哨なり此外の建物としては營房本部(中軍賬)金庫(銀錢所)及事務室(文案所)あり而して尚ほ其後方に營官の宿舍を有せり

門外にある演武廳は地盤より高く築かれ八個の石階を有し前後に建たる二室より成り其前房には二個の卓子を設けて之に小なる五條の旗を建つ此旗は三角旗にして中央に令字を書し其一邊に營名及營號と各哨長の名を書し各旗各色を異

にし以て五哨を別つ蓋し平素の演武に之を用ゆるなり旗架の側方には大なる營印を置き他の桌子には旨意書と稱し卷物樣の一軸を安置す之は軍人心得樣の條を書せるものなりと後方には廳役人常に居住し出入者を監視す

營房本部(中軍賬)は前後の二房より成り前房には二個の桌子を設け令箭印章旨意書を安置すること全く演武廳に同じ但し此處にある令字の旗は戰時に用ゆるものなりと云ふ其後房は廊に由りて前房に連なり房内を五室に分つ其中央は正堂にして左右の兩室は長官の事務室とし其左右兩端の二室は旗の前後を護衛すべき兵の居室なり

營門は常に前門を開きて此處に步哨を置き他は閉鎖せり

○監獄

監獄の周壁は方形にして其結構恰も兵營の墻壁に同じく只其上端に於て凹凸なきの差あるのみ全部悉く煉瓦を以て疊み其厚さ六尺高さ二丈五尺に達す

獄門は内部に開くべき翼狀門扉を有し門扉は厚さ二寸の松材を用ひ其内外兩面は厚さ二分の鐵板を以て張れり而して戸扉の上方に方八寸の穴を穿つ此は外方

より門を叩かずして直ちに門房にある門番に向ひて直接に言を通じ得んが爲めなり之を第一門とし更に其内部に於て第二門を造れり其構造第一門に異ならず」第二門を入るや外墻と一丈の距離を隔てゝ内墻あり其厚さ二尺高さ一丈五尺にして同じく方形を呈し三門を有す中門は主として官吏出入の爲めに造り其左側の門は前獄門と稱へ右のものを後獄門と稱ふ蓋し罪人の入牢するや左門よりし出獄するや右門よりするに由る此三門は何れも厚さ一寸の木板にて作り第一門に同じき鐵板を張れるものにして前獄門は稍小さく造られ其高さ約五尺の處に方孔を有し全門の高さは六尺とす之を入るや其兩側に門房及獄吏の居室厨房あり獄吏の居室は提牢班扈班門吏班捕役班夜役班等に分ち各役人此内に起居せり厨房を隔つること若干距離に於て横徑の平房あり卽ち獄屋にして之を第一牢獄とす

牢屋の建築は瓦石木材等より成り入口并に窓を除くの外は木材を以て骨とし其内外兩面は煉瓦にて造り屋内の地盤は砂利及粘土を以て固め瓦を敷き木材を密に並列して床を作り入口は木柵にして其高さ一丈柵木間の距離は約五六寸とす

其中央の上部に方孔を作り其下部に於て内に開くべき單扉門を有し囚徒の出入は之よりす此入口を中央として屋内を三室に區分し其中央の一室は輕罪者約五拾人を入るべく左右の二室は各二十人の重罪者を入るゝに足る

窓は巾一尺五寸高さ三尺の廣さを有し各三寸の距離に於て鐵棒を施じ地盤を去る六尺の高さにあり獄内の中央に於て正方形をなせる一箇の建物あり所謂獄神堂にして獄神を祭る所なり此堂に聯なりて一家屋あり之を獄廳と云ふ長官の居住する所なり

◎劇場

劇場の構造は木石造或は木造にして場内は舞臺に對して三面の廻廊を造り廻廊は二階又は三階造となり數多の柱と欄杆を有せり中央の廣場は本邦に於ける劇場の如く區畫を設くることなく只卓子と椅子とを並列せり又本邦の所謂花道なるものなく舞臺の後面には左右各一個の入口あり一は役者の出入に辨じ一は觀者の出入に辨ず舞臺の後方には横に細長なる廣き室を作り以て樂屋化粧室着衣室及道具室に區分せり

○寺院

其構造多くは石造或は木石造にして先づ周圍を繞すに墻壁を以てし三箇の前門と一箇の後門を有し壁柱屋瓦は悉く紅泥を塗り殊に瓦は總て丸瓦を用ひ屋根の兩棟には鯱狀の裝飾を施し檐下欄杆柱の上下端并に檐裏に現はるゝ椽子の一部は細密の彫刻を施し丹青を以て美麗に彩色せり

北京安定門外黄寺東直門外弘仁寺の如きは其建築最も壯大にして或は迂曲せる廻廊によりて堂より堂に通じ或は池を掘り山を築き塔を建て其高きもの數百尺に及べるものあり門内の地盤全地敷くに石を以てし或は粘土及石灰を用ひて其平坦なること塗板の如くし或は瑠璃瓦を以て花紋狀の通路を作れる等あり

院内の建物に大門角門鼓樓大殿内角門配殿及後殿方丈番僧の屋房等あり大門は我邦之を山門と云ふ其左右にある小門は之を東西の角門或は左右の角門と云ひ平時は大門を閉鎖じ角門に依りて出入す其門を入るや左右に小樓を見る之を鼓樓と稱し奏樂をなすの處なり院内中央にある大堂は之を大殿と名づけ殿中には數多の像象を設け古聖先賢の牌位を安置し壁間には聖像を掲げ其他佛書并に經

文を藏す大殿の後方左右に在る棟を配殿と名づけ十八羅漢神を祭れり蓋し左右各九神を祭れるなり最も後方の樓殿を後殿と云ふ此は所謂本堂と稱すべきものにして中央に大なる佛像を安置して祭壇を作り香燭の具を設け左右に祭器を藏す

上樓は之を後樓と稱し往古高僧の眞筆を收むる所にして樓内の四壁は或は佛書を掲げ或は佛語の四大字を以てす則ち進德修業の類なり

方丈香僧の居室は後殿の後方に於て凵字形に配列し後門より交通す

北京の西北方八大寺の如きは支那有數の大寺院にして大理石を以て高さ數十層の大塔を建て八個の大寺院山より山に連なり壯嚴絶麗を極む

第七章　家具

○室内装飾品の種類

一鏡　室内に入りて最も目を引くものは鏡なり其大小種々あり室内の正面或は兩側面の桌上に之を置き又は壁に掛く其大なるものは壁の全面に亘れるあり周圍の縁は寶木を以て作り細密なる彫刻を爲せり

一額　上流者の家屋には必ず室内書畫の額面を掲ぐ貴顯の書或は秀才及畫工の畫畫等なり最も多く見るものは福壽の語を書せるものにて中等以下の人民も又多少之に倣ふ

一掛軸物　貴賤貧富の別なく室内必ず書畫を掲ぐ先づ正面段上の壁には大幅物を掲げ側面には多く四幅對六幅對の書畫を以てす或は又一幅の大幅物を壁に掲ぐるものあり是皆貴顯の書畫秀才の書畫又は畫工の手になれるものを撰ぶ古書畫を尊ぶこと日本に異らず然れども古書畫には僞物多し

古書畫は明唐宋諸時代のものを所藏するものあり或は貴顯の書あり古今書畫の

有名なるもの夥し然れども吾人の見聞せるものは左の數種に過ぎず

畫にては王鐸張照王夢梅王儀之董其昌張船山文徵明蘇東坡の如きものにて畫には山水は王時敏迂一鶴王石谷王鹿台張宗蒼等石竹梅蘭は鄭板橋牡丹は干少蘭人物は改七卿仇十州花卉は華秋岳繡名鐘王忘菴蔣弟錫張蘭馬は張子弘諸獸は朱概夫朱英蟲類は蔣南沙の畫きしもの等なり

一花瓶　正面の案上掛軸の前又はその兩側に配置し之に生花或は造花を挿入して裝飾す但しッカミサシにして別に流儀なし

一時計　之を鐘錶と云ふ多くは据時計の類なるものを擇で案上に配列す表面の硝子板には美麗なる花卉人物動物等を畫き木畫時計なるあり金屬にて作り金色燦爛たるあり重垂を有する柱時計あり

一造花盆栽　梅海棠菊柘榴等種々の造花を鉢に植ゑて花台に置き硝子製の箱に入れ飾となす之を盆景と云ふ

一盆栽　花の美麗なるもの或は芳香を放つもの例へば梅海棠蘭柘榴桃柚香類等種々の盆栽を案上に置き人の眼を樂ましむ

一書物棚　之を書格と云ふ數段に別て之に書籍を置き又は交叉狀の棚となす多くは名木を以て作り或は塗物なるもあり

一案　桃の形にして大且つ高きものなり名木を以て作り又塗物にして美を盡せるものあり此上に種々の裝飾品を配置するの用に供す

一神佛英雄豪傑の像　貴金屬にて彫刻するあり或は普通金屬より成るあり磁器玉石象牙竹木等にて彫刻せるものあり盆上に安置す

一盆石　寶玉奇石名石にて山水を彫り或は人物動物等を刻して盆上に据へ硝子もて蓋せる畫内に入れ或は盆栽と共に置けるものあり

一香爐　古銅銀金宣德製等あり又は磁器なるあり其形は鼎形方形圓形等種々あり又高きものあり低きものあり周圍に彫刻を施し是又案上に置けり

一標本模型　鳥獸魚介果物等の標本又は家屋船艦等の模型を作り硝子箱に入るあり或は名木奇石象牙竹等にて彫刻し或は金屬にて鑄造せるあり

一如意　玉又は名木奇木にて造り案上に置き或は筒に立つ必ず細密の彫刻を施せり

一花籠　種々の籠又は磁製の籠形のものに造花數十種を挿入し室内に釣るし或は臺上に置けり

一球　珠玉珊瑚等の小球を集め美しき球を作り室内に釣るす又金色の硝子球を釣るせり

一卓　多くは寶木を以て作り表面の鏡板には美しき大理石を嵌するあり或は塗物なるあり

一椅子　是又朱檀黒檀等の名木にて作り塗物にて金屬の飾金を打附け皆板に玉石を嵌入し或は名木に畫を彫刻して美を盡せり

一罩子　恰も屏風の如し卓上に置き風を防ぎ又卓上の外見を裝ふものにて貴き木を以て緣を作り其中心は紙の貼物にて書畫を貼りたるあり又木板より成るあり大理石の板を嵌するあり或は木製にして細密の彫刻をなし寶石介石等を嵌入して山水花鳥等を造れるものあり

一隔障及扉　室内の隔障及扉は種々の彫刻をなしたる骨格を作り之に書畫を貼附す

一簾帳　各房入口に簾帳を懸垂し高等の室には美しき絹布を用ひ下等人民は染めたる木綿を用ゆ

一窓覆　硝子窓を有する室には絹布の薄き日覆を窓の内面に懸垂す

一天井　之を頂棚と云ふ高貴なる家屋の天井は格子天井となり之に細密なる彩色畫を貼す皇室の天井の如きは金色燦爛として甚だ壯麗なりと云ふ

○日用具の種類

一硯　硯に種類多く丹溪の逸品あり白色斑點の多きものを尊び其石色は濃褐色なるあり或は淡褐色なるあり形狀は橢圓形正方形圓形不正形瓢形等種々にして表面の周緣に龍鯉蝦蟹花鳥獸等を彫刻す或は普通の石にて造り或は古代の瓦磚等にて造るものあり

一墨　唐墨は概して優等にして光澤あり大小種々あり

一筆　羊毛狸毛猩毛鼠毛猫毛等種々あり其品質佳良にして軸は金屬又は竹木にて造れり

一硯箱は寶木漆器等にて造れり